

NEC



## ステップアップガイド

- 本機の基礎知識
- 本機の機能を拡張する  
機器について
- システムの設定を変更する

NECパーソナルコンピュータ

PC-9800シリーズ

**PC-9821C166**



PC-9821C-GB3

# 安全にお使いいただくために

- ・ 注意事項を守って製品をご使用ください。
- ・ このマニュアルは、必要なときすぐに参照できるよう お手元に保管してください。

このマニュアルでは、製品を安全にお使いいただくための注意事項を、次のように記載しています。

注意事項を守っていただけない場合、どの程度の影響があるかを表す記号です。



	<b>警告</b> 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
	<b>注意</b> 人が傷害を負う可能性が想定される内容、および、物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。

	<b>毒物注意</b> 毒性の物質による傷害の可能性が想定される内容を示します。		<b>感電注意</b> 感電の可能性が想定される内容を示します。
	<b>発火注意</b> 発煙または発火の可能性が想定される内容を示します。		<b>けが注意</b> けがを負う可能性が想定される内容を示します。
	<b>破裂注意</b> 破裂の可能性が想定される内容を示します。		<b>高温注意</b> 高温による傷害の可能性が想定される内容を示します。


この枠の中では、本機を安全に使うための注意事項を説明しています。必ずお読みください。


安全に使うための説明は、絵でも表示しています。

	<b>禁止</b> 禁止事項を示しています。
	<b>電源プラグを抜く</b> 電源コードのプラグを抜くように指示するものです。

取り付けの際の注意


**注意**



 **感電注意** 濡れた手で触らないでください。電源ケーブル、ACアダプタがACコンセントに接続されているときに、濡れた手で本体に触ると、感電の原因となります。

 電源ケーブル、ACアダプタがACコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。感電の原因となります。

周辺機器の取り付け/取り外しをするときは、必ず電源ケーブル、ACアダプタのプラグをACコンセントから抜いてください。

電源ケーブル、ACアダプタがACコンセントに接続されたまま周辺機器の取り付け/取り外しをすると、本機や周辺機器の故障、場合によっては感電の原因となります。

 **けが注意** 本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意してください。

  **感電注意 発火注意** 本体を、解体した状態で使用しないでください。感電や火災の原因となります。

別売の周辺機器について

本機に、別売の周辺機器（プリンタ、CRTディスプレイ、メモリ、拡張ボード、ファイル装置、PCカードなど）を取り付ける場合、周辺機器が本機に対応していることをご確認ください。また、周辺機器によっては、使用上の制限事項がある場合があります。説明書などをよくご覧のうえ、ご使用ください。

当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元または発売元などに、上記の事項をご確認ください。

このページは、説明用のもので、本文とは異なります。

## ⚠警告



雷が鳴り出したら、本機やアンテナ線、モジュラーケーブル、電源ケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け/取り外しをしたりしないでください。落雷による感電のおそれがあります。

添付のCD-ROMは、CD-ROM対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったり、スピーカを破損する恐れがあります。

## ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや、制御等の使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) あなたがテレビ放送や録画物などから引用したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Pentium、MMXはIntel Corporationの登録商標です。

Hayesは米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPIはMicrocom, Inc.の登録商標です。

NIFTY Managerはニフティ(株)の商標です。

SOUND Canvasはローランド(株)の登録商標です。

Bitcast、bitcast(株)インフォシティの登録商標です。

3DImage975はTrident社の商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または、商標です。

©NEC Corporation 1997

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

## 輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

#### 高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

#### 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づく第二種情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

#### 漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

#### 瞬時電圧低下について

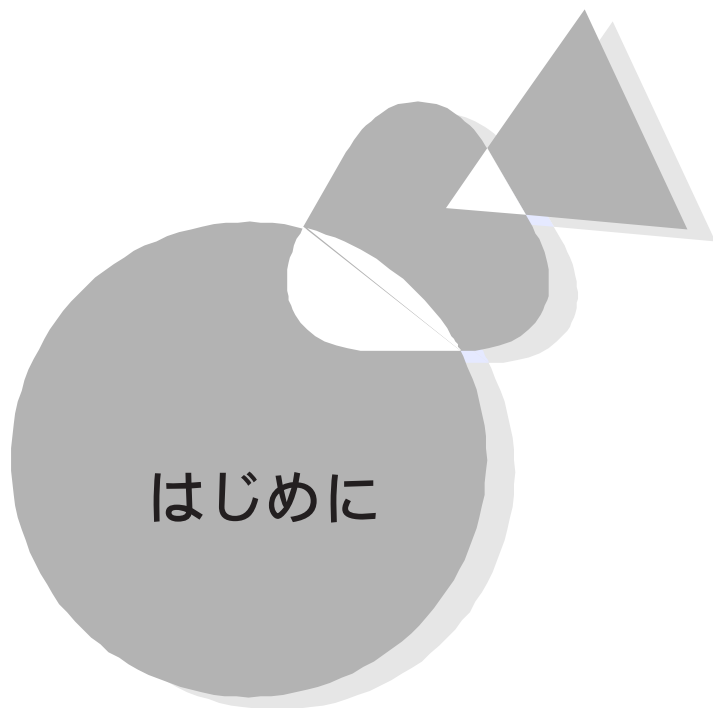
本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

#### レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準(IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブが搭載されています。



## はじめに

このマニュアルは、本機をひととおり使えるようになった方のために、本機の各部の名称や役割を詳しく知ったり、システムの拡張をしたりするための説明を行っているものです。

パーソナルコンピュータを使いこなすためにこのマニュアルを活用してください。

インストールされているアプリケーションソフトについては、『CEREBを使いこなそう』をお読みください。

1997年 7月 初 版

# このマニュアルの構成

このマニュアルは次の内容で構成されています。

このマニュアルはPart1から付録までの構成となっていますが、Part1から順に読んでいく必要はありません。


「かんたんスタートガイド」でセットアップを完了し、簡単な操作方法を習得した後は、必要に応じて、このマニュアルを活用してください。



## Part 1 本機の基礎知識

---

本機の各部の名称や役割について説明しています。



## Part 2 本機の機能を拡張する機器について

---

周辺機器の接続方法や扱い方、注意事項を説明しています。



## Part 3 システムの設定を変更する

---

システムの設定を変更する、システムセットアップメニューとメモリスイッチの役割や使用方法を説明しています。



## 付録

---

本機に関する補足情報を説明しています。

# このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号には、次のような意味があります。



本機や、本機に組み込まれているソフトウェアを使用する際に、しては  
いけないことや、注意していただきたいことを説明しています。場合  
によっては、本機が故障したり、本機で使用するソフトウェアや、お  
客様が作成されたデータが壊れたりする可能性もあります。



参考にしていただくことを説明しています。



本文中に出てくる用語の説明や、知っておくとよいことなどを説明して  
います。



参照ページを表しています。

このマニュアルで使用している表記には、次のような意味があります。

本機	PC-9821C166本体と、ディスプレイ(別売)やワイヤレスキーボードなどの周辺機器を含む、システム全体を指します。
本体	ディスプレイ(別売)やワイヤレスキーボードなどの周辺機器を含まない、PC-9821C166を指します。
Windows	Windows 95を指します。
MS-DOS	別売のMS-DOS <sup>®</sup> 6.2を指します。
MS-DOSモード	Windows 95のMS-DOSプロンプトの状態を指します。
ビットキャスト受信ボード	地上波データ放送 Bitcast 受信ボードを指します。
[ XXX ]	[ ]で囲んである文字は、画面に表示されるダイアログボックス、ボタンなどの名前を表しています。 例：[ OK ]ボタン
<b>ESC</b>	キーボードのキーは、左のように枠で囲んで表記しています。

MS-DOSのコマンド書式で使用されている記号には、次のような意味があります。

< >	この中の項目は、必ず入力します。
[ ]	この中の項目は、必要に応じて入力します。
	この記号で区切られた項目のうち、どれか一つを入力します。



記載されているアプリケーションなどの製品正式名称は、以下のとおりです。

本文中の表記	正式名称
Windows 95	Microsoft <sup>®</sup> Windows <sup>®</sup> 95 Operating System

#### イラスト、画面について

このマニュアルに記載されているイラストや画面は、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面とは多少異なることがあります。

アプリケーションを起動する方法は、CEREBメニューからの操作方法を説明しています。

- [ 居間 ]グループ
- [ 書斎 ]グループ
- [ プレイルーム ]グループ
- [ インターネットお気に入り ]グループ
- [ インターネット&パソコン通信 ]グループ
- [ 書庫 ]グループ

は、CEREBメニューのグループを指しています。

ディスプレイの組み立て方や取り扱い方法については、ディスプレイの取扱説明書を必ずご覧ください。

次の情報については、本機に添付されている次のマニュアルをご覧ください。

- ・ Windows 95の基本操作について知りたい  
『さあはじめよう かんたんスタートガイド』  
『Microsoft Windows 95 ファーストステップアップガイド』
- ・ インターネットをしたい  
『インターネットスタートガイド』
- ・ 添付されているアプリケーションソフトを使いたい  
FAXを送りたい  
電話をかけたい  
『CEREBを使いこなそう』
- ・ Windows 95以外のOSを使いたい  
『再セットアップガイド』
- ・ システムを再セットアップしたい(購入時の状態に戻したい)  
『再セットアップガイド』
- ・ 困った症状が起こったときの解決方法について知りたい  
パソコン用語の意味を知りたい  
『トラブルQ&A困ったときにお読みください』
- ・ ビットキャスト放送を利用したい  
『ビットキャストブラウザユーザーズガイド』

# 目次

安全にお使いいただくために	
はじめに .....	v
このマニュアルの構成 .....	vi
このマニュアルの表記について .....	vii

## Part 1 本機の基礎知識

本体 .....	2
各部の名前とはたらき .....	2
メディアコントローラ .....	8
メディアコントローラの取り扱いについて .....	10
メディアコントローラのトラックボールの使い方 .....	11
メディアコントローラユーティリティ .....	13
マウス .....	14
マウスについて .....	14
マウスの設定を変更する .....	15
ワイヤレスキーボード .....	17
キーの名称と役割 .....	17
ワイヤレスキーボードの取り扱いについて .....	19
別売のキーボード、マウスを使う .....	25
キーボードの設定を変更する .....	27
CD-ROMドライブ .....	29
ディスクのセットのしかた/取り出し方 .....	31
CD-ROMを取り出す場合の注意 .....	34
ハードディスク .....	35
ハードディスクの内容を保護する .....	35
フロッピーディスクドライブ .....	40
フロッピーディスクの入れ方/取り出し方 .....	41
フロッピーディスクをフォーマット(初期化)する .....	43
フロッピーディスクの内容を保護する .....	46
ディスプレイ .....	50
解像度について .....	50
本機で表示できる解像度と表示色 .....	50
ディスプレイのパワーマネジメント機能について .....	52
その他の別売のディスプレイを使う .....	54
別売の17インチディスプレイ(PC-DH171)の画面調整 .....	58
サスペンド/レジューム機能 .....	63
サスペンド/レジューム機能とは .....	63
サスペンド/レジューム機能を使用する .....	64

サスペンド/レジューム機能使用時の注意	68
サスペンド/レジューム機能の設定を変更する	70
サウンド	73
本機のサウンド機能	73
ボリュームコントロールを使う	76
マイクロホン	82
マイクロホンのボリュームを調節する	82
サウンドレコーダーで音を取り込む	84
FAXモデムボード	85
FAXモデムボードの機能	85
ビットキャスト放送	89
ビットキャスト放送について	89
本機のお手入れ	90

## Part 2 本機の機能を拡張する機器について

接続できる周辺機器について	98
機器の取り付けについて	100
取り付けの際の注意	100
別売の周辺機器について	101
周辺機器用のドライバ	101
必要な工具について	106
ルーフカバーの外しかた	107
プリンタを使う	108
プリンタを接続する	108
プリンタの設定をする	109
ヘッドホン	114
ヘッドホンを接続する	114
ヘッドホンのボリュームを調節する	115
スーパーウーファ・システムを接続する	116
スーパーウーファ・システムを接続する	116
外部オーディオ機器を使う	118
外部オーディオ機器を接続する	118
ビデオ機器を接続する	119
テレビを接続する	120
ジョイスティックおよびMIDI対応機器を接続する	123
メモリを増やす	125
増設RAMサブボードについて	125
増やしたメモリ容量を確認する	134
シリアルコネクタに機器を接続する	135
USBコネクタに機器を接続する	136



## Part 3 システムの設定を変更する

---

システムセットアップメニュー	140
起動のしかた	140
操作のしかた	141
動作環境の設定	142
ディップスイッチ1の設定	146
ディップスイッチ2の設定	147
ディップスイッチ3の設定	149
省電力の設定	150
メモリスイッチ(98環境設定ユーティリティ)	151
割り込みレベル・DMAチャンネル・ROMアドレス空間	154



## 付録

---

Windows 95でMS-DOSを利用する	158
MS-DOSモードを利用する	158
DOS環境設定ユーティリティ	160
USKCGM コマンド	164
マルチメディア機能の利用	169
日本語入力機能	172
CD-ROMドライバ	174
PCIセットアップユーティリティの利用	177
ATコマンド	183
コマンドの体系	183
ATコマンド一覧	184
目的別索引	193
索引	195
システムセットアップメニュー早見表	197
アイコン早見表	198
機能仕様	199
FAXモデムボード機能仕様	202



# 本機の基礎知識

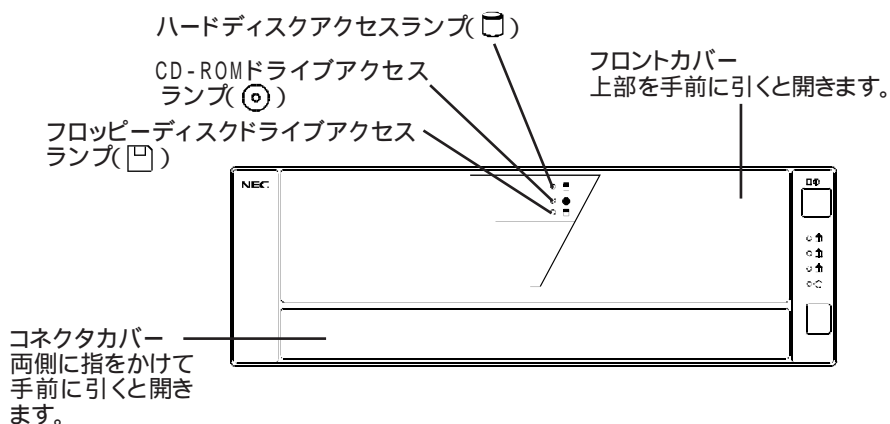
本機の各部の名称や役割に関する情報について説明しています。

- 本体
- メディアコントローラ
- マウス
- ワイヤレスキーボード
- CD-ROMドライブ
- ハードディスク
- フロッピーディスクドライブ
- ディスプレイ
- サスペンド/レジューム機能
- サウンド
- マイクロホン
- FAXモデムボード
- ビットキャスト放送
- 本機のお手入れ

# 本体

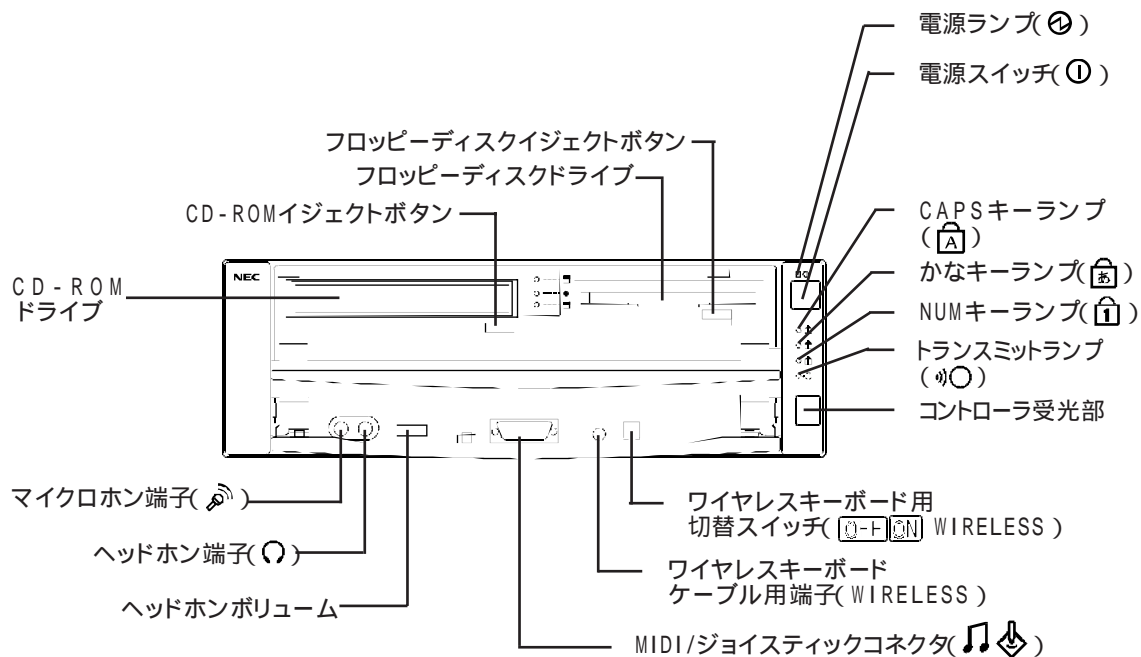
## 各部の名前とはたらき.....

### 正面から見たところ



### 正面から見たところ

(フロントカバー、コネクタカバーを開けた状態)



## 電源スイッチ(①)

本体の電源をON / OFFにします。1回押すと電源がON(電源ランプが緑色に点灯)。もう1回押すとOFF(電源ランプが消灯)になります。電源をOFFにするときは、スイッチを0.3秒以上押し続けてください。緑とオレンジを2秒間繰り返した後、OFFになります。



電源スイッチON / OFFの操作は本体に負担をかけるので、少なくとも5秒以上の間隔をあけてください。

## 電源ランプ(②)

本体の電源ON / OFF状態を表示します。電源がONのとき、またはパワーマネジメントが機能しているときは緑色に点灯します。電源がOFFのとき消灯します。サスペンド機能が働いているときは、オレンジ色に点灯します。電源がOFFのときに、[留守録モード]で電話やファックスの受信があった場合は、赤色がゆっくり点滅します。電源がOFFのときに停電があったか、電源ケーブルの抜き差しが行われた場合は、早い点滅と消灯を繰り返します。

## CAPSキーランプ(Ⓐ)

CAPSキーをロックしているときに点灯します。

## かなキーランプ(㍷)

かなキーをロックしているときに点灯します。

## NUMキーランプ(Ⓘ)

NUMキーをロックしているときに点灯します。

## トランスミットランプ(㉑○)

添付のワイヤレスキーボードとメディアコントローラからの赤外線通信が行われているときに点灯します。

## コントローラ受光部

メディアコントローラまたはワイヤレスキーボードからの信号を受信する部分です。

## フロッピーディスクドライブ

3.5インチサイズのフロッピーディスクをセットして、データの読み出しや書き込みを行うための装置です。

## フロッピーディスクイジェクトボタン

フロッピーディスクがセットされているときに押すと、フロッピーディスクが出てきます。

## ハードディスクアクセスランプ(㊦)

ハードディスクの動作中に点灯します。



点灯中は電源をOFFにしないでください。ハードディスクが壊れることがあります。

## CD-ROMドライブアクセスランプ(⊙)

CD-ROMドライブの動作中に点灯します。

## フロッピーディスクドライブアクセスランプ(㊦)

フロッピーディスクの動作中に点灯します。

## CD-ROMドライブ

CD-ROMや音楽CDなどを使用するための装置です。CD-ROMデータの読み込みや音楽CDの再生を行います。

## CD-ROMイジェクトボタン

ディスクをのせるトレイを出し入れするボタンです。

## ワイヤレスキーボード用切替スイッチ

(OFF ON WIRELESS)

キーボードの接続を切り替えます。添付のワイヤレスキーボードを使用するときはON(右側)にしておきます。別売のPC-9800シリーズ用キーボードを接続するときにはOFF(左側)に切り替えます。





ワイヤレスキーボード用切替スイッチは、本体の電源をOFFにしてから切り替えてください。ONのまま切り替えると、ワイヤレスキーボードやマウスが正常に動かないことがあります。

---

#### ワイヤレスキーボードケーブル用端子 ( WIRELESS )

添付のワイヤレスキーボードケーブルを接続する端子です。ワイヤレスキーボードの電池が消耗してキー入力ができなくなった場合などに、一時的に添付のワイヤレスキーボードケーブルを接続して使用することができます。

#### MIDI / ジョイスティックコネクタ ( )

MIDI規格に対応した機器やジョイスティックを接続します。

---



このコネクタにはディスプレイを接続しないでください。

---

#### ヘッドホンボリューム

ヘッドホンの音量を調整します。右へ回すと音量が大きくなり、左へ回すと音量が小さくなります。

#### ヘッドホン端子 ( )

市販のオーディオ用ヘッドホンを接続します。

---



ヘッドホンをご使用になる際は、音量調節つまみで音量を小さくしてからヘッドホンを接続し、その後適切な音量に調整してください。

---

#### マイクロホン端子 ( )

添付のマイクロホンを接続します。

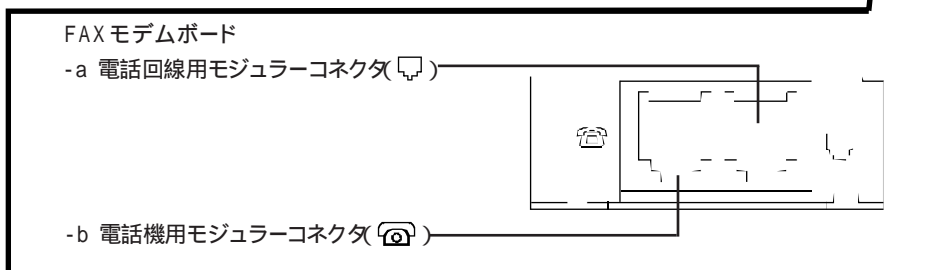
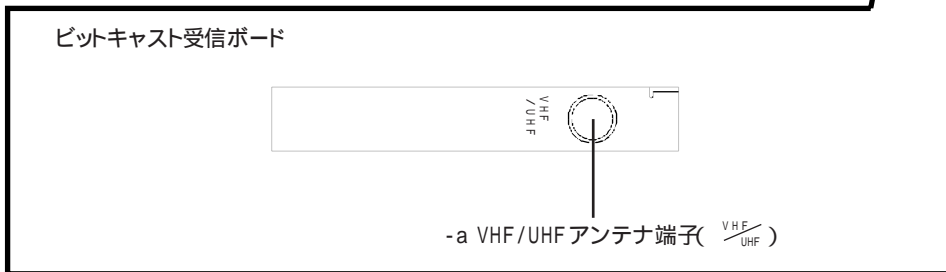
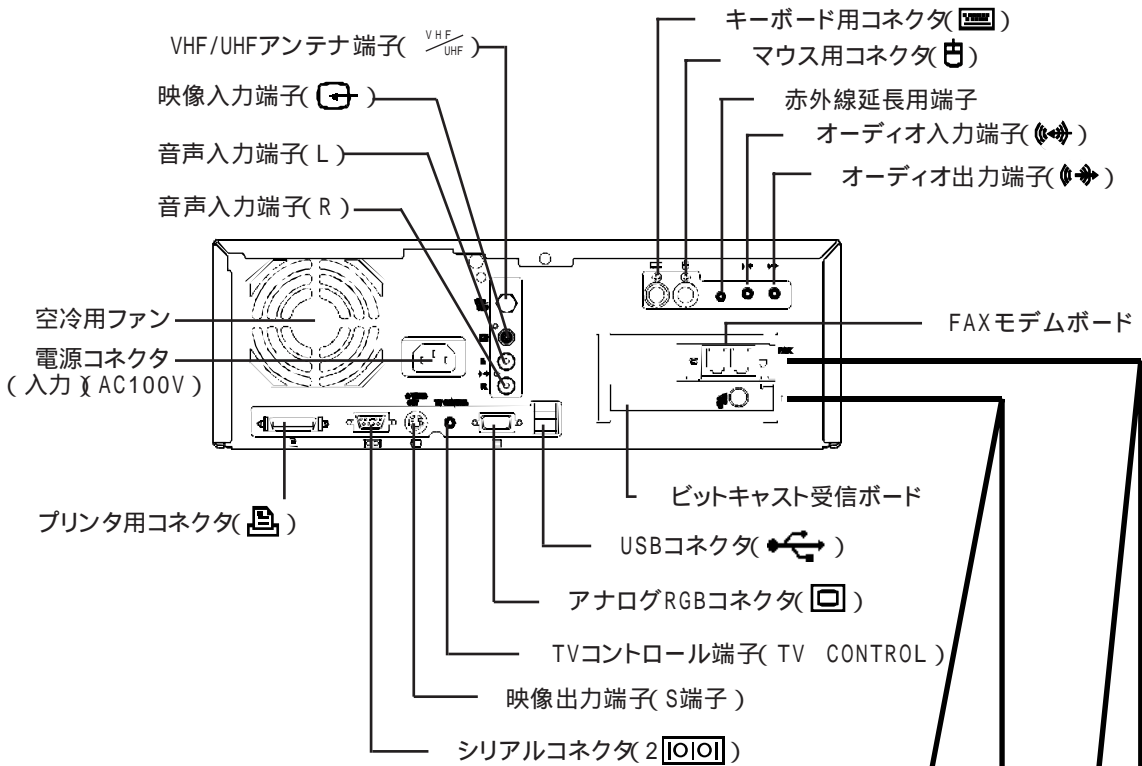
---



添付のマイクロホン以外は接続しないでください。

---

## 背面から見たところ



電源コネクタ(入力)(AC100V)  
付属の電源ケーブルを接続します。

#### 空冷用ファン

内部の熱を外部に逃すためのファンです。壁などでふさがないようにしてください。

#### VHF/UHF アンテナ端子( )

テレビ放送を受信するためのアンテナ端子です。VHFとUHFの共用端子です。



32/28インチBSワイド・ディスプレイテレビを使用する場合は、この端子は使用しません。

#### 映像入力端子( )

テレビやビデオ装置の映像を入力するための端子です。テレビやビデオの映像出力端子と接続します。

#### 音声入力端子(L)

テレビやビデオの音声を入力するための端子です。テレビやビデオの音声出力端子の左チャンネルと接続します。

#### 音声入力端子(R)

テレビやビデオの音声を入力するための端子です。テレビやビデオの音声出力端子の右チャンネルと接続します。

#### キーボード用コネクタ( )

別売のPC-9800シリーズ用キーボードを接続します。

#### マウス用コネクタ( )

別売のPC-H98シリーズ用マウスを接続します。

#### 赤外線延長用端子

添付の赤外線延長ユニットを接続するための端子です。

#### オーディオ入力端子( )

市販の外部オーディオ機器の音声出力端子と接続します。

#### オーディオ出力端子( )


スピーカセットを接続する端子です。または、市販の外部オーディオ機器の音声入力端子と接続します。

#### FAXモデムボード

インターネットやパソコン通信、FAX通信をするためのボードです。

-a 電話回線用モジュラーコネクタ(  )

電話回線を接続します。

-b 電話機用モジュラーコネクタ(  )

電話機を接続します。

#### プリンタ用コネクタ( )

プリンタを接続します。

#### シリアルコネクタ(2 )

通信機器やイメージスキャナなどを接続します。

#### 映像出力端子(S端子)

S映像入力付きのテレビやビデオ機器のS映像入力端子と接続します。

#### TVコントロール端子(TV CONTROL)

32/28インチBSワイドディスプレイテレビのPCシステムコントロール端子に接続します。



17インチディスプレイを接続する場合は、この端子は使用しません。

#### アナログRGBコネクタ( )

ディスプレイ接続ケーブルを接続します。

#### USBコネクタ( )

USB対応機器を接続するためのコネクタです。



USBコネクタは、Windows 95でのみ使用できます。また、USBコネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

### ビットキャスト受信ボード

ビットキャスト放送を受信するための装置です。

-a VHF/UHFアンテナ端子(  $\begin{matrix} \text{VHF} \\ \text{UHF} \end{matrix}$  )

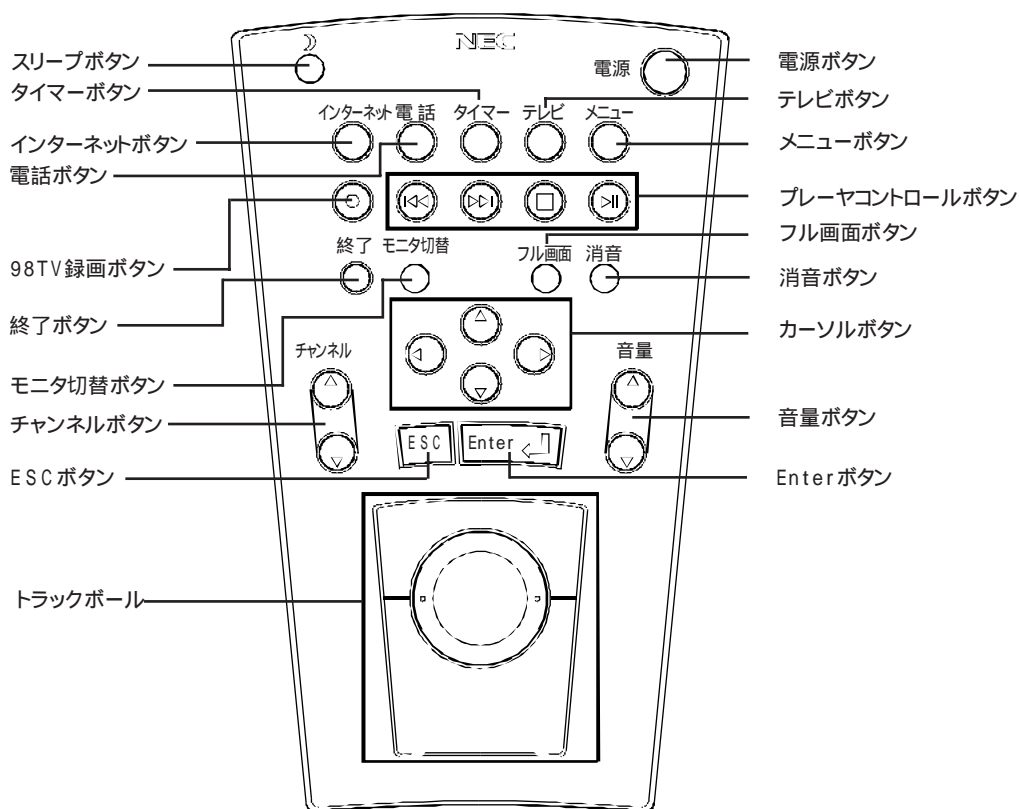
ビットキャスト放送を受信するためのアンテナ端子です。添付の分配器からのアンテナケーブルを接続します。

# メディアコントローラ

メディアコントローラは、離れた場所から本機を操作するための統合的なコントローラです。メディアコントローラを使うと、トラックボールによるマウス操作、およびCD-ROMドライブの操作、テレビ画像の取り込み、FAXの送受信、スピーカの音量調節など、本機の各種機能を使うことができます。

メディアコントローラの操作について、詳しくは、『CEREBを使いこなそう』をご覧ください。

## メディアコントローラ各部の名前とはたらき



### スリープボタン

サスペンド/レジュームを切り替えます。

### 電源ボタン

電源をON/OFFします。また、サスペンド状態を解除(レジューム)します。

### インターネットボタン

インターネットソフトウェアを起動します。

### 電話ボタン

98TELFAXを起動します。

### タイマーボタン

98Timerを起動します。

### テレビボタン

98TVを起動したり、終了します。

### メニューボタン

CEREBメニュー使用時、CEREBメニューに戻ります。

### 98TV録画ボタン

テレビ/ビデオの画像を録画します。

### プレーヤコントロールボタン

ビデオCDやオーディオCD、98TELFAXの留守録の再生時に使います。

### 終了ボタン

操作中のアプリケーションを終了します。

**モニタ切替ボタン**

本体背面の映像出力端子にテレビなどを接続した場合に、ディスプレイでの表示とテレビなどの表示を切り替えます。



表示の切り替えは、テレビなどを接続した状態で行ってください。詳しくは、P. 121をご覧ください。

**フル画面ボタン**

98TVの画面を最大化します。

**消音ボタン**

音声を一時的に消します。



メディアコントローラの各ボタンの機能はアプリケーションによって異なります。メディアコントローラを使った操作については「CEREBを使いこなそう」の各アプリケーションの説明や「メディアコントローラ操作早見表」を参考にしてください。

**カーソルボタン**

キーボードの と同じ働きをします。

**チャンネルボタン**

テレビ受信時にチャンネルを切り替えます。

**音量ボタン**

音量を調整します。

**ESCボタン**

キーボードの と同じ働きをします。

**Enterボタン**

キーボードの (Enterキー) と同じ働きをします。

**トラックボール**

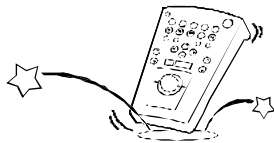
マウスと同じ働きをします。

# メディアコントローラの取り扱いについて.....

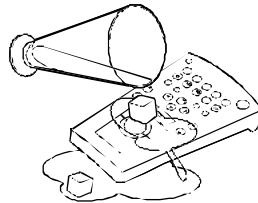


- ・ ボタンを何度押しても操作できないときは、メディアコントローラの乾電池が消耗している場合があります。新しい乾電池に取り替えてください。乾電池を取り替える場合は、4個とも同時に交換してください。新しいものと古いものを混ぜて使用すると、乾電池が液もれしてメディアコントローラの故障の原因となることがあります。
- ・ メディアコントローラを使用するときには、次のことに注意してください。メディアコントローラの故障の原因となります。

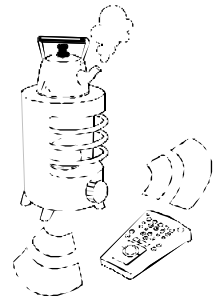
落とすなど、強い衝撃を与えないでください。



水などをかけないでください。かかった場合はすぐふき取ってください。



熱や湯気をさけてください。



- ・ コントローラ受光部とメディアコントローラの間には障害物があると、メディアコントローラでの操作ができません。障害物を取り除いてください。
- ・ メディアコントローラをしばらく操作しないと省電力モードになりトラックボールを動かしてもマウスポインタが動かない場合があります。この場合は、上下どちらかのボタンを押してからトラックボールを動かしてください。
- ・ 携帯電話、ラジオ等の近くで使用しないでください。メディアコントローラが正常に動かないことがあります。
- ・ コントローラ受光部や赤外線延長ユニットに日光が当たらないようにしてください。メディアコントローラが正常に動かないことがあります。

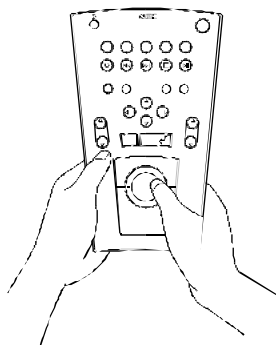
## メディアコントローラのトラックボールの使い方.....

メディアコントローラのトラックボールを使うと、ワイヤレスでマウス操作を行うことができます。

- ・トラックボールを指で回転させると、マウスポインタを自由に動かすことができます。
- ・トラックボールの下のボタンを押すと、マウスの左ボタンを押したのと同じことになります。
- ・トラックボールの下のボタンを押したままトラックボールを動かすと、マウスのドラッグと同じことができます。Windows 95のマイコンピュータやエクスプローラなどでファイルをドラッグ&ドロップするときにはこのように操作します。
- ・トラックボールの上のボタンを押すと、マウスの右ボタンを押したのと同じことになります。

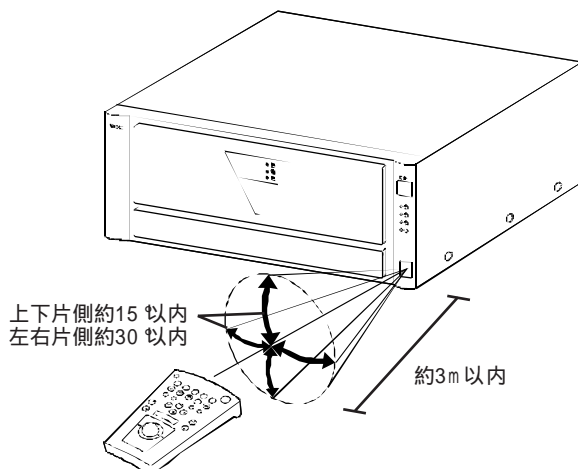


トラックボールにゴミや油が付くと、正常に動かなくなる場合があります。動きがおかしい場合はクリーニングが必要です( P.93 )



### 操作できる範囲

メディアコントローラを使用するときは、本体のコントローラ受光部に向けてメディアコントローラのボタンを押してください。操作できる範囲は次の図のとおりです。







次の場合はトラックボール、カーソルボタン、ESCボタン、Enterボタンは使用できません。

- ・ワイヤレスキーボード用切替スイッチがOFFになっている場合。
- ・添付のワイヤレスキーボードケーブルを使用して本体とワイヤレスキーボードを接続した場合。

メディアコントローラを赤外線延長ユニットに向けて操作する場合は、トラックボール、カーソルボタン、ESCボタン、Enterボタンのみ使用できます。他のボタンを使用する場合はメディアコントローラを本体のコントローラ受光部に向けて操作してください。

## 赤外線延長ユニット・ワイヤレスキーボードケーブルをお使いになる場合

メディアコントローラを赤外線延長ユニットでご使用になる場合、また、ワイヤレスキーボードを添付のワイヤレスキーボードケーブルを使用して本体と接続した場合には、本体のコントローラ受光部、赤外線延長ユニットでは一部の操作がご利用できません。

### 赤外線延長ユニットのみをご使用の場合

:操作できます    ×:操作できません

	コントローラ受光部	赤外線延長ユニット
メディアコントローラ(一部の機能 注1)	×	
メディアコントローラ(その他の機能)		×

### ワイヤレスキーボードケーブルのみをご使用の場合または赤外線延長ユニットとワイヤレスキーボードケーブルを同時にご使用の場合

:操作できます    ×:操作できません

	コントローラ受光部	赤外線延長ユニット
メディアコントローラ(一部の機能 注1)	×	×
メディアコントローラ(その他の機能)		×

注1:「一部の機能」は以下の4つをさします。

カーソルボタン、ESCボタン、Enterボタン、トラックボール(ボタンについてはP.8をご覧ください)

# メディアコントローラユーティリティ.....

本機に添付されているメディアコントローラでは、インターネットに対応したソフトを起動したり、マウスポインタを操作したりすることができます。また、画面表示の出力先をディスプレイから市販の家庭用テレビに変更することもできます。

メディアコントローラを快適に使用するために、メディアコントローラユーティリティを操作してみましょう。

## メディアコントローラユーティリティを操作する

### メディアコントローラユーティリティを起動する

[ 書庫 ]グループの[ ユーティリティ ]フォルダの[ メディアコントローラユーティリティ ]アイコンをクリックします。



- ・モニター切替 : [ モニター切替 ] をチェックしていない場合は、メディアコントローラのモニター切替ボタンを押しても動作しません。[ モニター切替 ] をチェックすると、ディスプレイ出力とテレビ出力が選択できるようになります。
- ・スキャンモード: スキャンモードには、画面を縮小してテレビに画面すべてを出力するアンダースキャンと、画面をそのままテレビに出力しゲームなどをするのに適したオーバースキャンがあります。このスキャンモードは、[ モニター切替 ] のテレビ出力が選択されたときに有効となります。
- ・インターネット: メディアコントローラのインターネットボタンで起動するアプリケーションソフトを選択します。



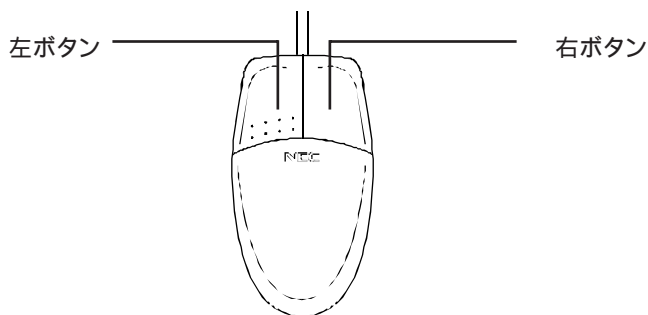
・出荷時の状態では「インターネットエクスプローラ」が登録されていますが、その他のお好みのアプリケーションソフトに登録し直すこともできます。その場合は、[ 参照 ] ボタンをクリックして表示される画面で、起動するソフトを指定し直してください。

・ [ モニター切替 ] については、Part 2の「テレビを接続する」をご覧ください。

# マウス

マウスは、キーボードと同じく、コンピュータに指示を与えるための装置です。その形状がネズミに似ていることから「マウス」と名付けられています。

## マウスについて.....



右ボタン / 左ボタン  
コンピュータに指示を与えるためのボタンです。



マウスの操作は、OS やアプリケーションソフトによって異なります。詳しくは、OS またはアプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

## マウスの取り扱いの注意

マウスを使うときは、次のことに注意してください。注意を守らずに使用すると、マウスの故障の原因となります。

- ・ ほこりや消しゴムのかすなどのある場所で使わない
- ・ コードを引っかけない
- ・ コードを強く曲げたり、引っ張ったりしない
- ・ 裏面のネジを外さない
- ・ コネクタ内のピンに直接ふれない
- ・ 動きが悪くなってきたら、ボールとローラの汚れを掃除する
- ・ マウスをしばらく操作しないと省電力モードになり、マウスを動かしてもマウスポインタが動かない場合があります。この場合は、左右どちらかのボタンを押してからマウスを動かしてください。

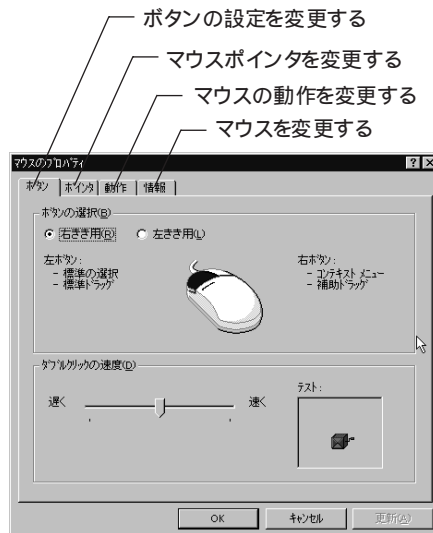





- ・ マウスの動きがおかしい場合は、ワイヤレスキーボードの電池が消耗していないかどうか確認してください。
- ・ 本機に添付されているマウスの分解能は、400CPIです。マウスポインタの移動速度は、Windows上で変えることができます。

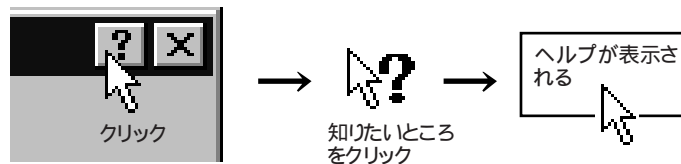
# マウスの設定を変更する.....

Windows 95上で、マウスの動作やマウスポインタの形の設定を変更することができます。

- 1 [ 書庫 ]グループの[ ユーティリティ ]の[ コントロールパネル ]アイコンをクリックします。  
[ コントロールパネル ]ウィンドウが表示されます。
- 2 [ マウス ]アイコンを、ダブルクリックします。  
[ マウスのプロパティ ]ウィンドウが表示されます。



 マウスの詳しい設定については、[ マウスのプロパティ ]ウィンドウの右上にある  ボタンをクリックし、マウスポインタが  に変わったら、さらに知りたい箇所をクリックし、表示される内容をご覧ください。 または、ヘルプの[ キーワード ]ウィンドウで「マウス」を選択して表示される内容をご覧ください。



## 分解能

マウスの動き(移動量)に対する画面上のマウスポインタの移動量を示します。この値が大きくなるほど、マウスポインタの移動量も大きくなります。グラフィックを描く場合など精密な作業には、分解能の低いマウスが適しています。



・ [ ボタン ] タブの画面では、マウスの左右ボタンの役割を逆に割り当てることができます。また、メディアコントローラのトラックボールの上下ボタンの役割も逆になります。

・ [ ボタン ] タブの画面で「右きき用」に設定すると、左ボタンに「標準の選択」や「標準ドラッグ」の機能が割り当てられ、右ボタンには「コンテキストメニュー」や「補助ドラッグ」の役割が割り当てられます。



本機に添付されている以外のマウスを使用する場合は、[ 情報 ] タブの画面で設定を変更してください。

**3** 設定を変更するごとに、[ 更新 ] ボタンをクリックします。

**4** [ マウスのプロパティ ] ウィンドウでの設定の変更が終了したら、[ OK ] ボタンをクリックします。

[ マウスのプロパティ ] ウィンドウが閉じます。



## [ コントロールパネル ] ウィンドウを開く

[ コントロールパネル ] ウィンドウは、Windows 95のいろいろな設定をするときに使います。次のような方法でも [ コントロールパネル ] ウィンドウを開くことができます。

**1** [ スタート ] ボタンをクリックします。

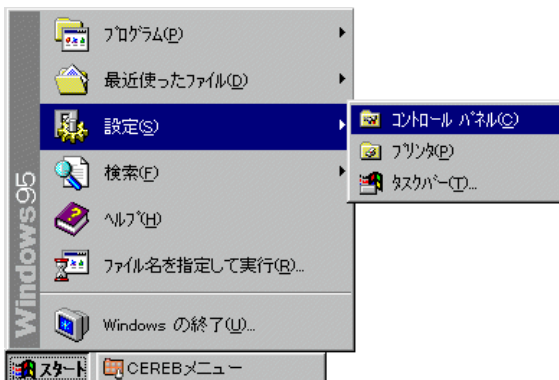
スタートメニューが表示されます。

**2** [ 設定 ] をポイントします。

階層メニューが表示されます。

**3** [ コントロールパネル ] をクリックします。

[ コントロールパネル ] ウィンドウが表示されます。



# ワイヤレスキーボード

ワイヤレスキーボードはコンピュータに指示を与えるために、文字や数字、記号を打ち込む装置です。ここでは、各キーの名称と一般的な機能を説明します。

## キーの名称と役割.....

### 黒のキー(■)

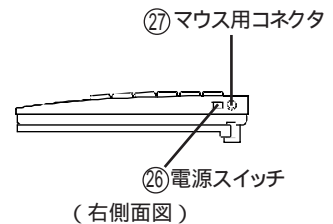
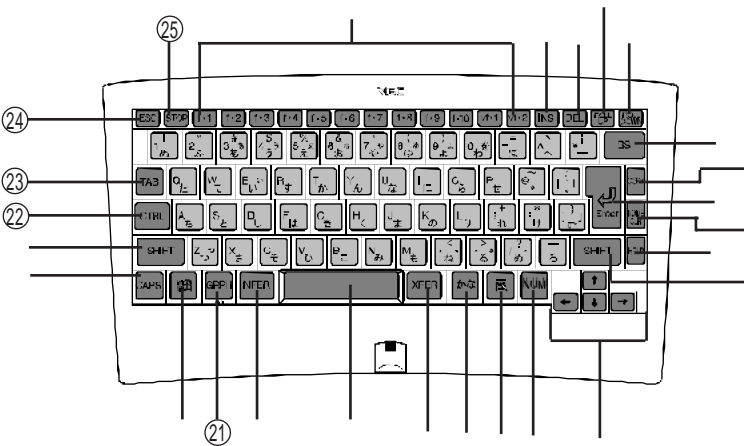
コンピュータに直接指示を与えるためのキーです。このキーの働きはお使いになるアプリケーションソフトによって違います。

### グレーのキー(■)

英数字やカタカナ、記号などの文字を入力するキーです。



詳しくは各アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。



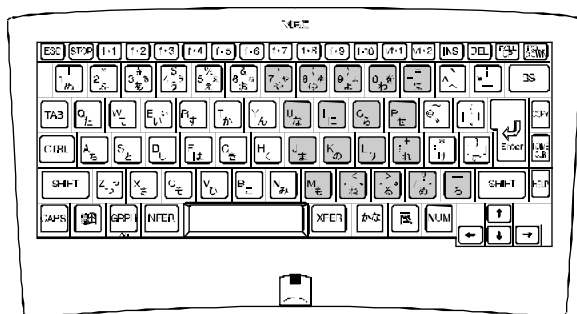
- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① <b>CAPS</b> : キャップスキー</li> <li>② <b>かな</b> : かなキー</li> <li>③ <b>NUM</b> : ニュー ミックスキー<br/>は一度押すとロックし、本体のキャップスキー、かなキーまたはNUM キーのランプが点灯します。</li> <li>④ <b>COPY</b> : コピーキー</li> <li>⑤ <b>f1</b> ~ <b>f10</b> / <b>vf1</b> ~ <b>vf2</b> : ファンクションキー</li> <li>⑥ <b>BS</b> : バックスペースキー</li> <li>⑦ <b>INS</b> : インサートキー</li> <li>⑧ <b>DEL</b> : デリートキー</li> <li>⑨ <b>HOME CLR</b> : ホームクリアキー</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>⑩ <b>HELP</b> : ヘルプキー<br/>(End : エンドキー)</li> <li>⑪ <b>ROLL UP</b> : ロールアップキー<br/>(PgDn : ページダウンキー)</li> <li>⑫ <b>ROLL DOWN</b> : ロールダウンキー<br/>(PgUp : ページアップキー)</li> <li>⑬ <b>↑ ↓ → ←</b> : カーソル移動キー</li> <li>⑭ <b>↵</b> : Enter : エンターキー(リターンキー)</li> <li>⑮ <b>SHIFT</b> : シフトキー</li> <li>⑯ <b>Windows</b> : Windowsキー</li> <li>⑰ <b>Application</b> : アプリケーションキー</li> </ul> |
|--|--|

Windowsキーとアプリケーションキーは、Windows 95によって機能を割り当てることができます。

- ⑱ **XFER** : エクスファーキー
- ⑲ [ ] : スペースキー
- ⑳ **NFER** : エヌファーキー
- ㉑ **GRPH** : グラフキー  
(Alt : オルトキー)
- ㉒ **CTRL** : コントロールキー
- ㉓ **TAB** : タブキー
- ㉔ **ESC** : エスケープキー
- ㉕ **STOP** : ストップキー
- ㉖ 電源スイッチ : 本機の電源をON/OFFにすることができます。
- ㉗ マウス用コネクタ : 添付のマウスを接続します。



- ・ ワイヤレスキーボードを使って、日本語入力のON/OFFを切り替えることもできます。**CTRL**を押しながら**XFER**を押すと、日本語入力をONにできます。もう一度押すと、日本語入力OFFになります。
- ・ **図**を押した後は、**CTRL** + **XFER**での日本語入力のON/OFF切り替えができなくなります。この場合は、タスクバーの日本語入力インジケータをマウスで操作して、切り替えてください。  
または、[コントロールパネル]ウィンドウから[キーボードのプロパティ]ウィンドウを表示させ、[情報]タブをクリックして表示される画面で、[日本語入力モードの切り替えキー]の設定を**XFER**に変更してください。
- ・ **NUM**をロックすると、ワイヤレスキーボードの**図**の部分テンキーとして使用できます。

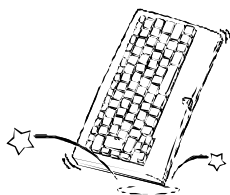


## ワイヤレスキーボードの取り扱いについて.....

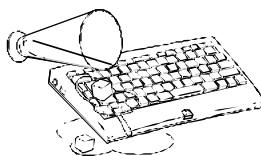


- ・ キーを何度押しても操作できないときは、ワイヤレスキーボードの乾電池が消耗している場合があります。新しい乾電池に取り替えてください。乾電池を取り替える場合は、4個とも同時に交換してください。新しいものと古いものを混ぜて使用すると、乾電池が液もれしてワイヤレスキーボードの故障の原因となることがあります。
- ・ ワイヤレスキーボードを使用するときには、次のことに注意してください。ワイヤレスキーボードの故障の原因となります。

落とすなど、強い衝撃を与えないでください。



水などをかけないでください。かかった場合はすぐふき取ってください。

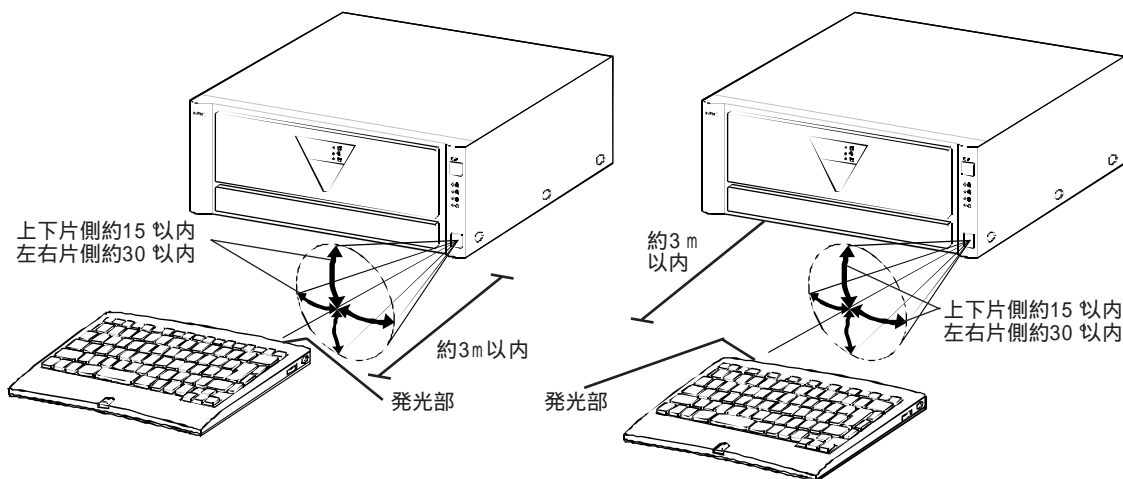


熱や湯気をさけてください。



## 操作できる範囲

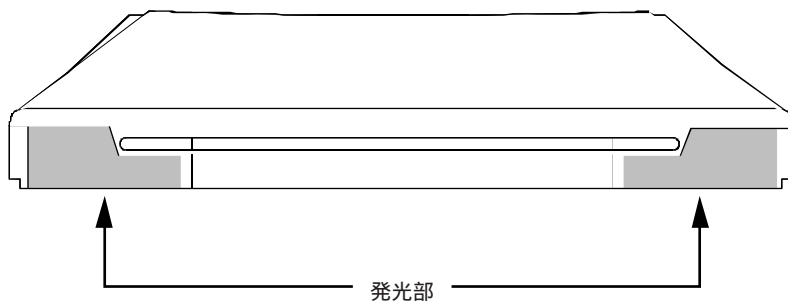
添付のワイヤレスキーボードを使用するときには、本体のコントローラ受光部に向けてワイヤレスキーボードを配置してください。障害物でコントローラ受光部を隠したりさざぎったりしないでください。操作できる範囲は次の図のとおりです。







- ・ ワイヤレスキーボードの発光部は2カ所あり、どちらも同じように動きます。

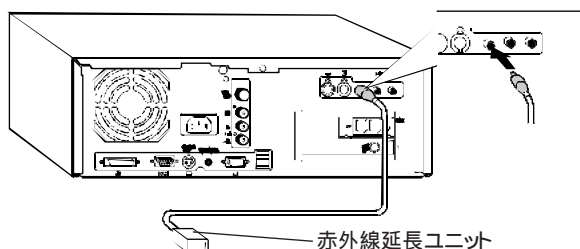


- ・ 別売のテレビスタンド内でガラス扉を閉めてご使用になると、操作できる範囲が狭くなる場合があります。その場合は、添付の赤外線延長ユニットをご使用ください。
- ・ 携帯電話、ラジオ等の近くで使用しないでください。ワイヤレスキーボードが正常に動かないことがあります。
- ・ コントローラ受光部や赤外線延長ユニットに日光が当たらないようにしてください。ワイヤレスキーボードが正常に動かないことがあります。

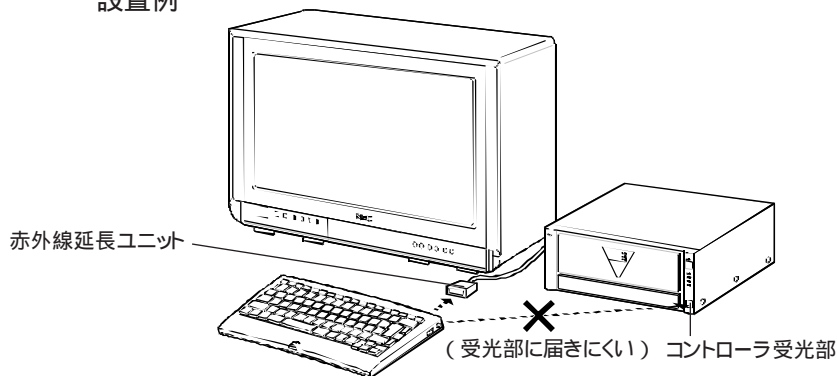
## 赤外線延長ユニット

ワイヤレスキーボードを操作できる範囲は、本体から約3m以内ですが、添付の赤外線延長ユニットを接続することで、それ以上離れた場所でもワイヤレスキーボードを使用することができます。また、ワイヤレスキーボードをディスプレイの方向に向けて操作する場合にも便利です。

- 1 赤外線延長ユニットのコネクタを、本体背面の赤外線延長ユニット用端子に差し込みます。



設置例



- ・ 赤外線延長ユニットを接続している場合は、本体のコントローラ受光部でワイヤレスキーボードを使用することはできません。
- ・ 赤外線延長ユニットは、ワイヤレスキーボードの電源スイッチの操作には使用できません。
- ・ メディアコントローラを赤外線延長ユニットに向けて操作する場合は、カーソルボタン、ESCボタン、Enterボタン、トラックボールのみ使用できます。他のボタンを使用する場合は、メディアコントローラを本体のコントローラ受光部に向けて操作してください。
- ・ 赤外線延長ユニットをアンテナ線の近くで使用すると、正常に動かない場合があります。赤外線延長ユニットを使用する場合は、アンテナ線の近くに設置しないでください。また、赤外線延長ユニットのケーブルがアンテナ線と絡まないようにしてください。
- ・ 赤外線延長ユニットは、添付の両面テープで使いやすい位置に貼り付けることができます。

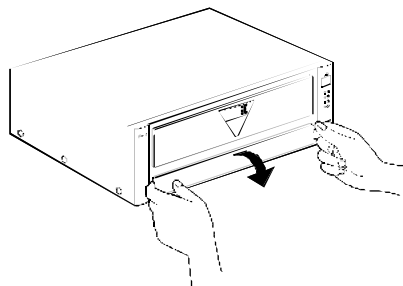
## ワイヤレスキーボードケーブル

電池が消耗した場合などは、本体とワイヤレスキーボードを添付のワイヤレスキーボードケーブルで接続することで、一時的にワイヤレスキーボードを使用することができます。

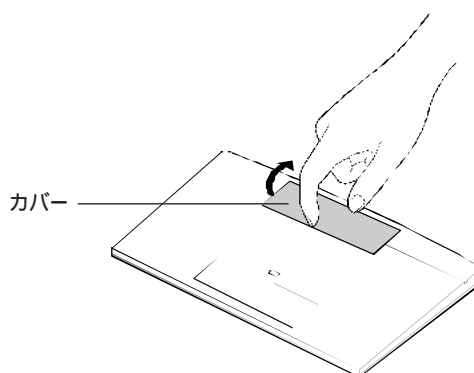


乾電池が消耗している場合、ワイヤレスキーボードケーブルを接続しても、ワイヤレスキーボードの電源スイッチによる電源のON/OFFはできません。この場合は、本体の電源スイッチかメディアコントローラの電源ボタンを使って電源をON/OFFにしてください。

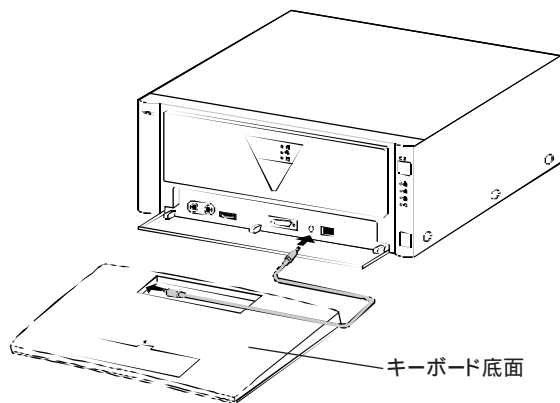
- 1** 本体のコネクタカバーを、側面に指をかけて手前に開けます。



- 2** 添付のワイヤレスキーボードケーブルの一方のコネクタを、本体前面のワイヤレスキーボード用コネクタに差し込みます。
- 3** ワイヤレスキーボードを裏返します。
- 4** ワイヤレスキーボード底面の奥側のフタ（電池のマークがない方）のツメに指をかけて手前に引き、カバーを外します。



- 5** ワイヤレスキーボードケーブルのもう一方のコネクタを、ワイヤレスキーボード底面のコネクタに差し込みます。



- ・ ワイヤレスキーボードケーブルは、必ず本体前面のコネクタに接続してください。本体背面のキーボード用コネクタには接続できません。
- ・ ワイヤレスキーボードケーブルで本体とワイヤレスキーボードを接続した場合、メディアコントローラのトラックボール、カーソルボタン、ESCボタン、Enterボタンは使用できません。




## アプリケーションキーとWindowsキーについて

アプリケーションキーとWindowsキーはWindows 95で利用できるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、Windows 95で使用する際には標準で次のような機能が割り当てられています。










### (アプリケーション) キー

マウスでポイントして、アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じことになります。

### (Windows) キー

 キーだけを押しと、[スタート]メニューを表示します。

他のキーと組み合わせると、次のような機能を利用することができます。

- |   |   |
|---|---|
|  + <b>R</b>                | [ファイル名を指定して実行] ウィンドウを表示する   |
|  + <b>M</b>                | 現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する  |
| <b>SHIFT</b> +  + <b>M</b> |  + <b>M</b> でアイコン化したウィンドウを元に戻す |
|  + <b>f1</b>               | Windowsのヘルプを起動する  |
|  + <b>F</b>                | ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する  |
| <b>CTRL</b> +  + <b>F</b>  | コンピュータを検索するウィンドウを表示する   |
|  + <b>TAB</b>              | タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える   |
|  + <b>STOP</b>             | [システムプロパティ] ウィンドウを表示する  |

## 赤外線延長ユニット・ワイヤレスキーボードケーブルをお使いになる場合

ワイヤレスキーボードを赤外線延長ユニットでご使用になる場合、また、ワイヤレスキーボードを添付のワイヤレスキーボードケーブルを使用して本体と接続した場合には、本体のコントローラ受光部、赤外線延長ユニットでは一部の操作がご利用できません。

### 赤外線延長ユニットのみをご使用の場合

:操作できます    ×:操作できません

	コントローラ受光部	赤外線延長ユニット
ワイヤレスキーボード	×	注1

注1: 電源ボタンはコントローラ受光部でのみご使用できます。

### ワイヤレスキーボードケーブルのみをご使用の場合または赤外線延長ユニットとワイヤレスキーボードケーブルを同時にご使用の場合

:操作できます    ×:操作できません

	コントローラ受光部	赤外線延長ユニット
ワイヤレスキーボード 注2	×	×

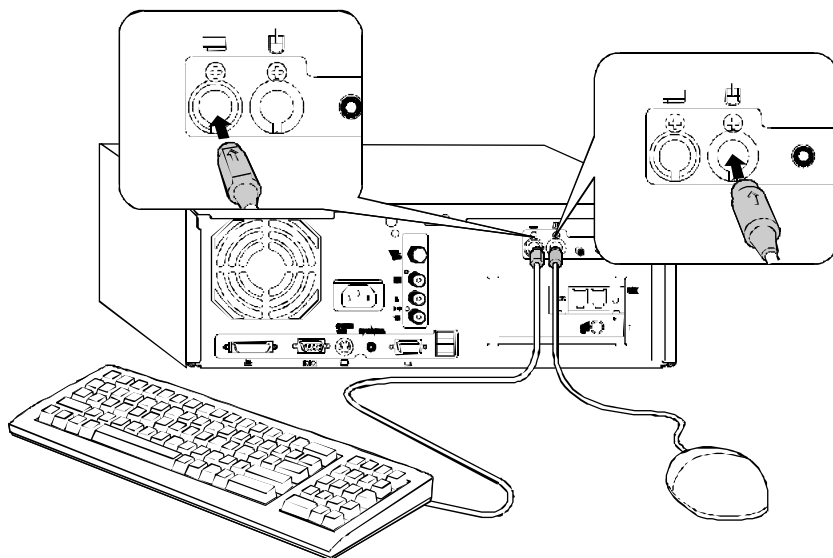
注2: 電源ボタンはコントローラ受光部でのみご使用できます。

ワイヤレスキーボードからの信号は、接続されているワイヤレスキーボードケーブルによって本体に伝えられます。

## 別売のキーボード、マウスを使う.....

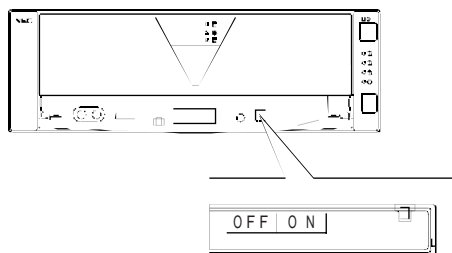
本機では、別売のPC-9800シリーズ用キーボード、PC-H98シリーズ用マウスも使用できます。

- 1** 本体の電源をOFFにします。
- 2** 別売のキーボードを使用する場合は、キーボードのコネクタを矢印マークを上に向けて、本体背面のキーボード用コネクタに差し込みます。
- 3** 別売のマウスを使用する場合は、マウスのコネクタを矢印マークを上に向けて、本体背面のマウス用コネクタに差し込みます。



- 4** 本体前面のコネクタカバーを、側面に指をかけて手前に開けます。

## 5 ワイヤレスキーボード用切替スイッチをOFFにします。



- ・ 添付のワイヤレスキーボード、マウスと、別売のキーボード、マウスは、どちらか一方しか使用できません。
- ・ ワイヤレスキーボード用切替スイッチをOFFにすると、添付のワイヤレスキーボードと、メディアコントローラのトラックボール、カーソルボタン、ESCボタン、Enterボタンは使用できなくなります。添付のワイヤレスキーボードを使用するには、ワイヤレスキーボード用切替スイッチをONにしてください。
- ・ ワイヤレスキーボード用切替スイッチは、本体の電源をOFFにしてから切り替えてください。ONのまま切り替えると、ワイヤレスキーボードやマウスが正常に動かないことがあります。

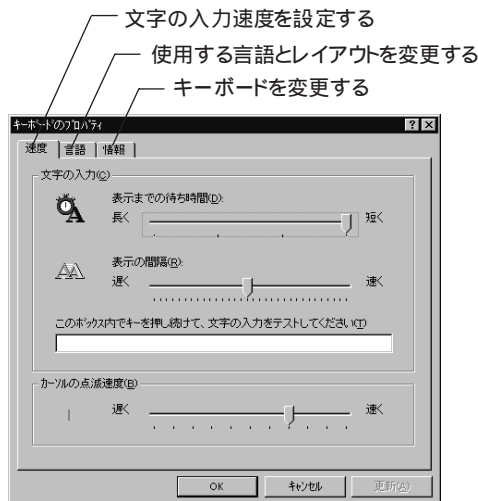
# キーボードの設定を変更する.....

Windows 95上でのキーボードの設定を変更することができます。

文字の入力速度を変えたり、使用する言語とレイアウトを変えたり、別売のキーボードを使うための設定などができます。


- 1 [書庫]グループの[ユーティリティ]の[コントロールパネル]アイコンをクリックします。  
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

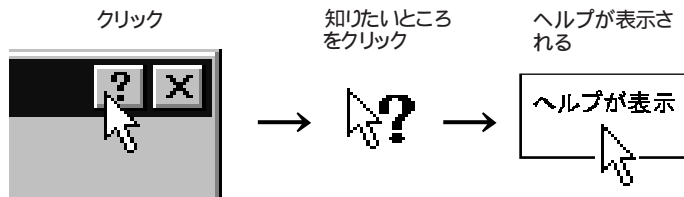
- 2 [キーボード]アイコン  をダブルクリックします。  
[キーボードのプロパティ]ウィンドウが表示されます。



このウィンドウ上では、[速度][言語][情報]のそれぞれのタブをクリックして、各設定を変更します。詳しくはヘルプをご覧ください。



キーボードの詳しい設定については、[キーボードのプロパティ]ウィンドウの右上にある **?** ボタンをクリックし、マウスポインタが  に変わったら、さらに知りたい箇所をクリックし、表示される内容をご覧ください。または、ヘルプの[キーワード]ウィンドウで「キーボード」を選択して表示される内容をご覧ください。



[速度]タブの画面で、カーソルの点滅速度を速くすると、カーソルの位置がわかりやすくなる場合があります。





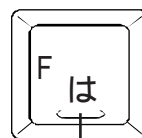
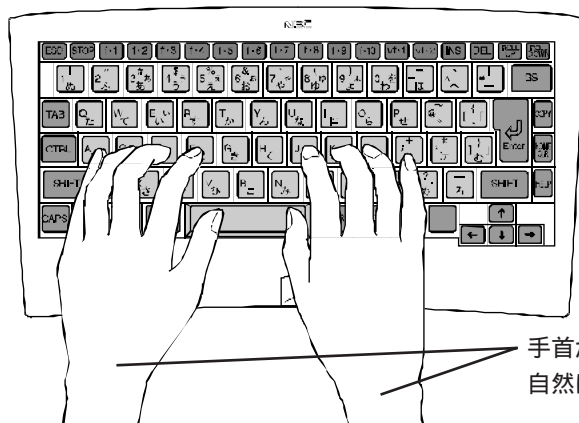
別売のキーボードを本機に取り付けて使用する場合は、[ 情報 ] タブの画面で「キーボードの種類」の設定を変更してください。



## ホームポジション

キーボードを操作するとき、両手の指を置く基準となる位置を、ホームポジションといいます。左手の人差し指を[F](は) 右手の人差し指を[J](ま) に置いた位置がホームポジションです。[F](は) と[J](ま) の表面には小さな突起があるので、キーを見なくても指先の感覚でこのキーが捜せるようになっています。

キーボードに手を伸ばしたときには、両手の指がホームポジションに置かれているようにしましょう。



突起

# CD-ROMドライブ

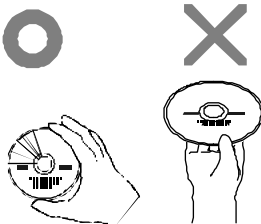
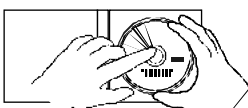
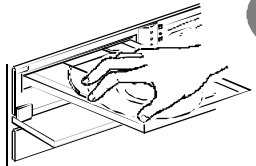
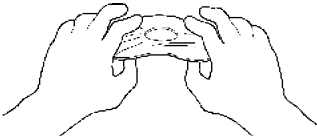
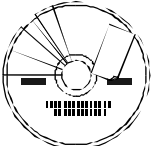
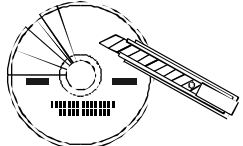
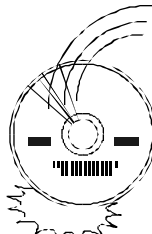
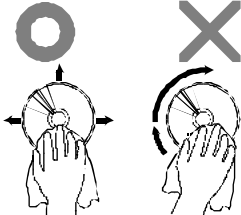
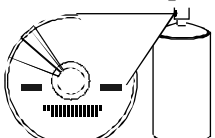
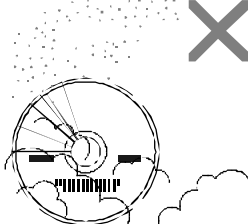
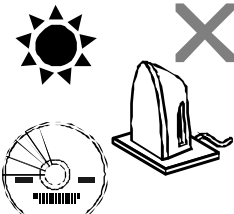
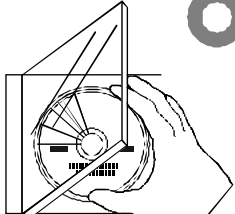
本機には、CD-ROMドライブが搭載されています。  
CD-ROMドライブでは、CD-ROMやCD-Rメディア、音楽CD、Video-CDなどを読み取ることができます。CD-ROMは、1枚で大きな記憶容量を持ち、電子辞書などのような大量のデータを扱うことができます。

## ディスクの取り扱い上の注意

### 警告

添付のCD-ROMは、CD-ROM対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。  
大音量によって耳に障害を被ったり、スピーカを破損する恐れがあります。

ディスクを壊さないよう 次の点を守ってください。

<p>信号面（文字などが印刷されていない面）に手を触れないでください。</p> 	<p>ケースの中央を押しながら取り出ししてください。</p> 	<p>文字の書かれている面を上にして、トレイに正しい向きに置いてください。</p> 
<p>ディスクの上にものをのせたり曲げないでください。</p> 	<p>ラベルなどを貼らないでください。</p> 	<p>キズをつけたり字などを書いたりしないでください。</p> 
<p>落として強い衝撃を与えたり、キズをつけないでください。</p> 	<p>指紋やホコリが付いたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けて拭いてください。</p> 	<p>清掃の際は、CD専用のクリーナーをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナー、ベンジン、シンナーなどは、使わないでください。</p> 
<p>ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。</p> 	<p>直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くなど温度が高くなる場所に置かないでください。</p> 	<p>使用後は収納ケースへ入れるようにしてください。</p> 



- ・ 音楽CDやVideo-CDの再生中に本体に衝撃を与えると、音飛びしたり、動画の再生が一瞬停止したりすることがあります。
- ・ CD-ROMドライブにディスクが入っているときに本機が故障するなどして、ディスクが取り出せなくなった場合は、無理に取り出さずにNECサービスセンター、サービスステーションにご連絡ください。

# ディスクのセットのしかた / 取り出し方.....

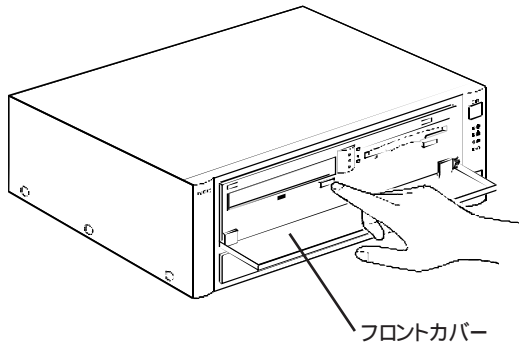
CD-ROMドライブにディスクをセットしたり、取り出したりする方法を説明します。



ディスクの出し入れは、電源をONにしてから行ってください。

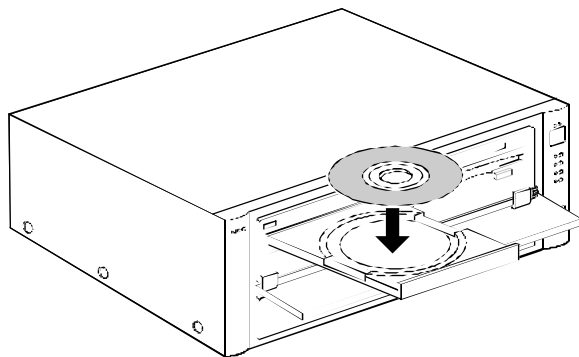
## ディスクのセットのしかた

- 1** フロントカバーを開けます。上部を手前に引くと開きます。
- 2** イジェクトボタンを押します。  
トレイが出てきます。



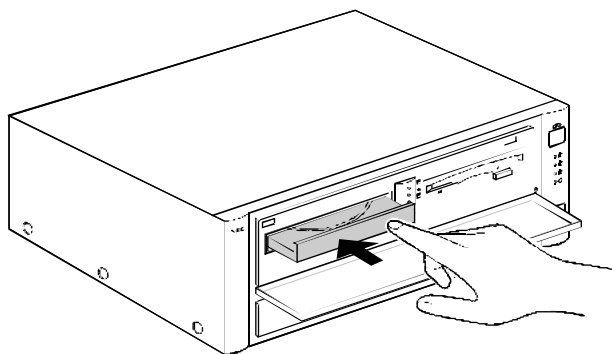
- 3** 信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないように、ディスクを持ちます。

- 4** ディスクを文字の書いてある面を上にして、トレイの中心に置きます。



トレイは出した状態のままで放置しないでください。CD-ROMドライブの故障の原因となります。

- 5** イジェクトボタンを押すか、トレイ前面を静かに押します。  
トレイが本体に収納されます。これでセットは完了です。

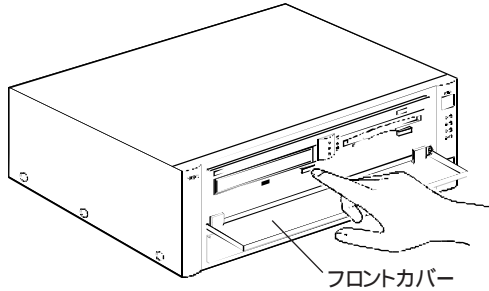


イジェクトボタンを使う場合は、ボタンを軽く押せばトレイが収納されます。トレイ前面を押す場合は、トレイが自動で動き出すまで押し込んでください。

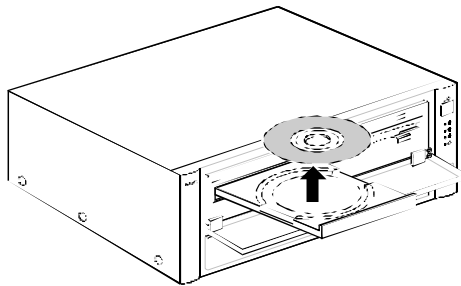
- 6** フロントカバーを閉めます。

## ディスクの取り出し方

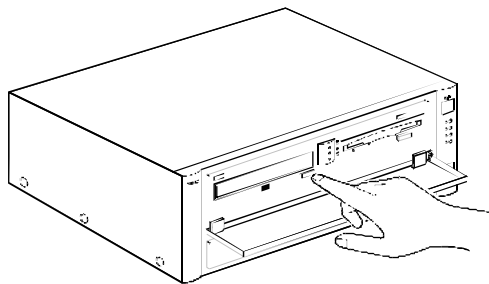
- 1** フロントカバーを開けます。上部を手前に引くと開きます。
- 2** イジェクトボタンを押します。  
トレイが出てきます。




- 3** ディスクを取り出します。



- 4** イジェクトボタンを押すか、トレイ前面を静かに押します。  
トレイが本体に収納されます。




-  ・ イジェクトボタンを使う場合は、ボタンを軽く押せばトレイが収納されます。トレイ前面を押す場合は、トレイが自動で動き出すまで押し込んでください。
- ・ 使用後のディスクはケースなどに保管してください。

- 5** フロントカバーを閉めます。

## CD-ROMを取り出す場合の注意.....

CD-ROMから起動しているプログラムを実行中に、CD-ROMを取り出すと、次のようなメッセージが表示されます。

ドライブX:のCD-ROM読み取りエラー  
シリアル番号 XXXX-XXXXのCD-ROM\*\*\*\*\*を、  
ドライブX:に入れてください。  
CD-ROMがドライブに入っている場合は、クリーニングが必要です。  
OKはEnter、キャンセルはEscキーを押してください。 :OK

この場合には、取り出したCD-ROMを元通りにセットし直して、を押してください。  
なお、このメッセージで表示されるシリアル番号は無視してください。

# ハードディスク

ハードディスクは、プログラムやデータを記憶する装置です。金属製のかたい円盤を使ってデータを記憶することから、ハードディスクと呼ばれています。また、ハードディスクのことを固定ディスクドライブということもあります。

本機のハードディスクには、Windows 95があらかじめインストールされています。なお、本機にインストールされているWindows 95は、市販品とは異なり、本機固有の機能に対応しています。

## 取り扱い上の注意

ハードディスクは、たいへん精密な機械です。次のことに注意してください。

- ・ 電源がONになっているときは本体に振動や衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- ・ 電源をOFFにして本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。
- ・ 電源をOFFにするときは、「かんたんスタートガイド」に記載されている手順に従ってください。

Windows 95以外のOSを使用している場合、電源をOFFにするときは、キーボードの **[STOP]** を押してから電源スイッチを押してください。



ハードディスクの記憶容量は、1Mバイト = 1,000,000バイトで計算したときのMバイト値を示してあります。OSによっては、1Mバイト = 1,048,576バイトでMバイト値を計算していますので、この値よりも小さな値で表示されます。



本機で利用できるハードディスクのセクタ長は、512バイトです。

## ハードディスクの内容を保護する.....

### バックアップ

保存されているプログラムやデータを別の記憶媒体にコピーすることを、バックアップといいます。ハードディスクは、大量のデータやプログラムを記憶しています。それだけに、ハードディスクの内容が壊れてしまった場合には大変な損害となりかねません。必ず定期的にバックアップをとるようにしましょう。



## ハードディスクの内容を購入時の状態に戻す

本機を使用中にハードディスクを購入時の状態に戻したい場合は、購入時の状態をバックアップしたものが必要になります。本機には、バックアップCD-ROMが添付されているため、購入時の状態をバックアップする必要はありません。

本機を購入時の状態に戻す詳しい方法については、「再セットアップガイド」をご覧ください。



バックアップCD-ROMやバックアップディスクを使った再セットアップでは、お客様がご自身でインストールしたアプリケーション、作成したデータ、各種設定やドライバは、元の状態に戻すことはできませんので、注意してください。

## ファイルやフォルダを選択してバックアップする

ファイルやフォルダをコピーすることで、バックアップできます。

ファイルやフォルダのコピーについては、「かんたんスタートガイド」をご覧ください。

## ハードディスクにあるファイルやフォルダをフロッピーディスクにバックアップする

ハードディスクにあるファイルやフォルダは、次の方法で簡単にバックアップ(コピー)することができます。


- 1 Windows 95のデスクトップの画面から「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。



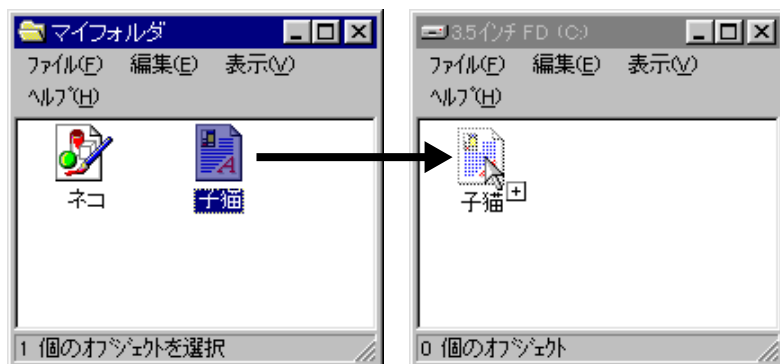
CEREBメニューの画面が表示されている場合は、CEREBメニュー左上にある切換ボタンをクリックして、CEREBメニューを最小化または右側に移動させ、Windows 95のデスクトップ画面を表示させてください。

- 2** バックアップを取りたいファイルまたはフォルダのあるドライブをダブルクリックして、バックアップを取りたいファイルまたはフォルダを表示させます。



- 3** [3.5インチフロッピーディスク アイコン ] をダブルクリックします。

- 4** バックアップを取りたいファイルまたはフォルダを 3.5 インチフロッピーディスク ウィンドウの方へドラッグします。



この方法で取れるバックアップは、フロッピーディスク1枚に入りきる容量のデータまでです。

- 5** バックアップを取りたいファイルまたはフォルダのアイコンが両方に表示されます。



これでファイルおよびフォルダのバックアップ(コピー)の作業は終了です。



### バックアップをこまめにとる

本体に内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかに数マイクロ(1000分の数ミリ)しか空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまいます。大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。

## 不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」または「スキップセクタ」といいます。パーソナルコンピュータは、このような場所にはデータを記録しないようにしています。

ハードディスクに対して、Windows 95の「スキャンディスク」などを実行すると、「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように予防されていたことを表しており、異常ではありません。なお、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数が次の表の値であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

内蔵ハードディスク	正常値
3G バイト	3,000,000,000バイト以上







- ・ ハードディスクが複数の領域(パーティション)に分割されている場合、表の正常値はすべての領域のバイト数を合計した値です。
- ・ 本機で確保可能な領域のサイズは、1つの領域あたり最大2,047Mバイトです。



### ドライブ番号

ハードディスクやフロッピーディスクドライブには、それぞれアルファベットで呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」といいます。本機のハードディスクは工場出荷時に2つの領域に分割されており、それぞれの領域にドライブ番号が割り当てられています。

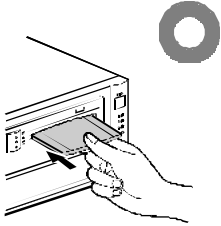
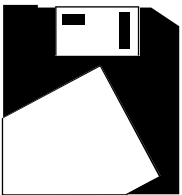
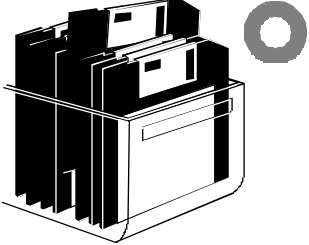

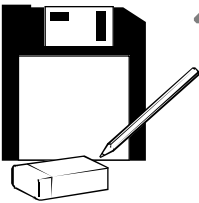
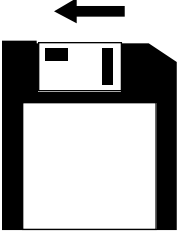
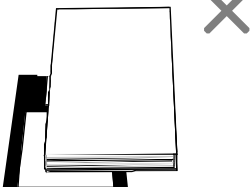
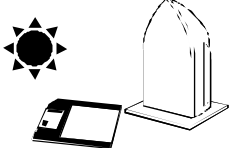

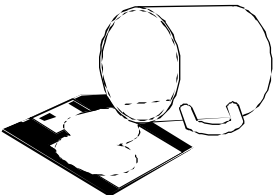
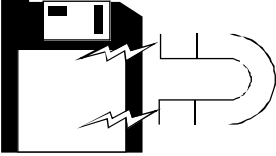
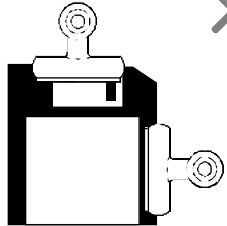
 Windows 95 (A.)	Aドライブ - ハードディスク
 (B.)	Bドライブ - ハードディスク
 3.5インチ FD (C.)	Cドライブ - フロッピーディスクドライブ
 (D.)	Dドライブ - CD-ROMドライブ
	ドライブ番号

# フロッピーディスクドライブ

コンピュータに入力したプログラムやデータは、フロッピーディスクに書き込んで保存することができます。

## フロッピーディスクを取り扱うときの注意

フロッピーディスクが壊れると、大切なデータやソフトウェアが使えなくなります。次の点に注意して大切に取扱ってください。

<p>フロッピーディスクドライブには正しい向きに奥まで静かに挿入してください。</p> 	<p>ラベルは正しい位置に貼ってください。</p> 	<p>使用後は収納箱へ入れて保管してください。</p> 
<p>ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。汚れたフロッピーディスクの使用は避けてください。</p> 	<p>鉛筆での記入や消しゴムの使用は避けてください。</p> 	<p>シャッターは開けないでください。</p> 
<p>フロッピーディスクの上にものをのせないでください。</p> 	<p>直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなる場所に置かないでください。</p> 	<p>飲食、喫煙しながらの使用は避けてください。</p> 
<p>溶剤類、飲み物等はフロッピーディスクに近づけないでください。</p> 	<p>フロッピーディスクに磁石などを近づけないでください。</p> 	<p>クリップ等ではさんだり、投げたり、落としたりしないでください。</p> 

# フロッピーディスクの入れ方/取り出し方.....

ここでは、フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクを入れる方法と取り出す方法を説明します。



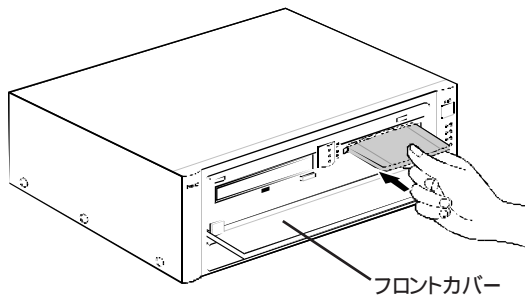
3.5インチフロッピーディスクは、必ずラベル部分を持つようしてください。中のディスク部分を触ると、データが壊れてしまうことがあります。



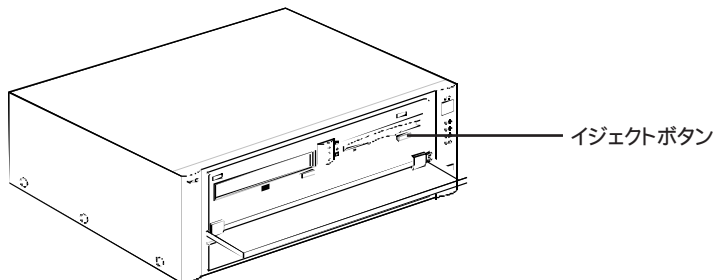
内蔵CD-ROMドライブで音楽CDを再生しているときは、フロッピーディスクを出し入れしないでください。

## フロッピーディスクの入れ方

- 1 フロントカバーを開けます。上部を手前に引くと開きます。
- 2 フロッピーディスクを、ラベルを貼る(貼ってある)面を上向きにして、ラベル側が手前になるように持ちます。



- 3 フロッピーディスクを、フロッピーディスクドライブに「カチッ」と音がするまで差し込みます。  
完全に差し込むと、イジェクトボタンが少しとび出します。



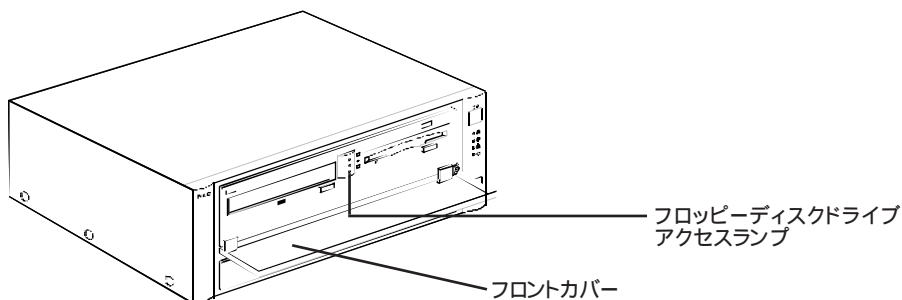
- 4 フロントカバーを閉めます。

## フロッピーディスクの取り出し方

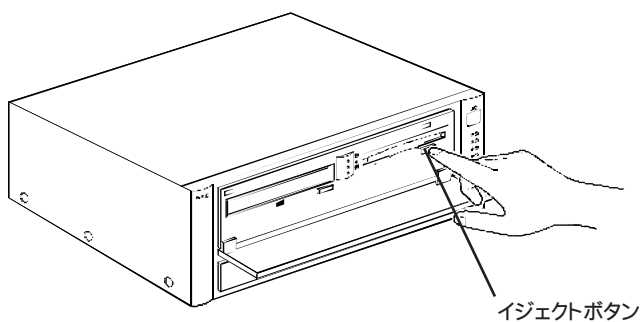


フロッピーディスクを取り出すときは、必ずフロッピーディスクドライブアクセスランプが消灯していることを確認してください。フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯していたり、点滅しているときに取り出すと、フロッピーディスクの内容が壊れてしまうことがあります。

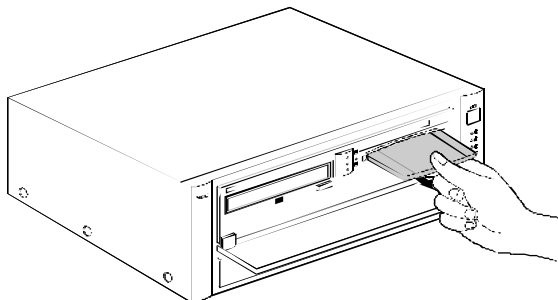
- 1 フロントカバーを開けます。上部を手前に引くと開きます。
- 2 フロッピーディスクドライブアクセスランプが消灯していることを確認します。



- 3 イジェクトボタンを押します。  
フロッピーディスクが少し出てきます。



- 4 フロッピーディスクを引き出します。



- 5 フロントカバーを閉めます。

# フロッピーディスクをフォーマット(初期化)する..

購入したばかりのフロッピーディスクは、「フォーマット済み」と書かれているもの以外は、そのままではデータを保存することができません。

データを保存できるようにするためには、「フォーマット(初期化)」という作業が必要です。

ここでは、Windows 95で2HDタイプのフロッピーディスクを1.44Mバイトにフォーマットする方法を説明します。Windows 95以外のOSをお使いの方は、各OSのマニュアルをご覧ください。



- ・すでにデータが書き込まれているフロッピーディスクをフォーマットすると、それまで書き込まれていたデータはすべて消えてしまい、二度とデータが取り戻せなくなってしまいます。大切なデータが書き込まれているフロッピーディスクは、誤ってフォーマットしないように注意してください。
- ・2DDタイプのフロッピーディスクには2DDの形式、2HDタイプのフロッピーディスクには2HDの形式でフォーマットしてください。異なった形式でフォーマットするとデータの読み書きができなくなることがあります。

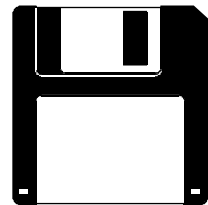


## フロッピーディスクの種類

フロッピーディスクには、データを記憶できる容量によって、次の種類があります。

種類	記憶容量	
2HD (両面高密度倍トラック)	1Mバイト <sup>1</sup> 2	1.44Mバイト <sup>1</sup>
2DD (両面倍密度倍トラック)	640Kバイト	

- 1 フォーマット方式によって選択できます。
- 2 OSによっては、1.2Mバイトと表示される場合があります。



3.5インチサイズフロッピーディスク  
本機の内蔵フロッピーディスクドライブでは、3.5インチサイズフロッピーディスクが使用できます。

本機のフロッピーディスクドライブでは、2HDタイプと2DDタイプのどちらでも使えます。



## フロッピーディスクをフォーマットする

**1** フォーマット(初期化)するフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

**2** Windows 95のデスクトップの画面で、[マイコンピュータ]アイコン  をダブルクリックします。



CEREBメニューの画面が表示されている場合は、CEREBメニュー左上にある切替ボタンをクリックして、CEREBメニューを最小化または右側に移動させ、Windows 95のデスクトップ画面を表示させてください。

[マイコンピュータ]ウィンドウが表示されます。

**3** [3.5インチFD]アイコン  をクリックします。

[3.5インチFD]アイコンに色がつきます。



[3.5インチFD]アイコンをダブルクリックするなどして、フロッピーディスクの内容を表示させていたり、エクスプローラでフロッピーディスクの内容を表示させていたりすると、フォーマットを行うことはできません。その場合は、内容を表示しているウィンドウを閉じてください。

**4** [ファイル]メニューをクリックして、メニューから[フォーマット]をクリックします。



[3.5インチFD]アイコンにマウスポインタを合わせて右クリックし、メニューから[フォーマット]をクリックしてもできます。

- 5 [フォーマット] ウィンドウが表示されます。  
ここで [容量] [フォーマットの種類] [オプション] をそれぞれ設定します。



- 6 「通常のフォーマット」をクリックします
- 7 [スタート] ボタンをクリックします。  
フォーマットが開始されます。  
フォーマットが終了すると、フォーマット結果が表示されます。
- 8 [閉じる] ボタンをクリックして、もう一度 [閉じる] ボタンをクリックします。  
これでフロッピーディスクにデータが保存できるようになりました。

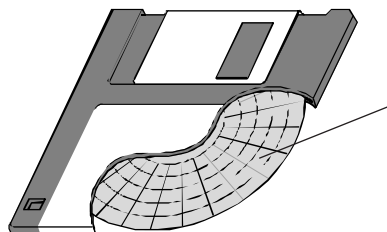


## フォーマット

フォーマット作業を行うと、どこにどのようにデータを書き込めばよいかわかるようにフロッピーディスクが磁気的に区画整理され、データが保存できるようになります。

フォーマットの形式は、使用するOSによって異なりますが、Windows 95では、次のOSでフォーマットされたフロッピーディスクを使用することができます。

- Windows
- MS-DOS



目には見えませんが、磁気的に区画が整理されます。

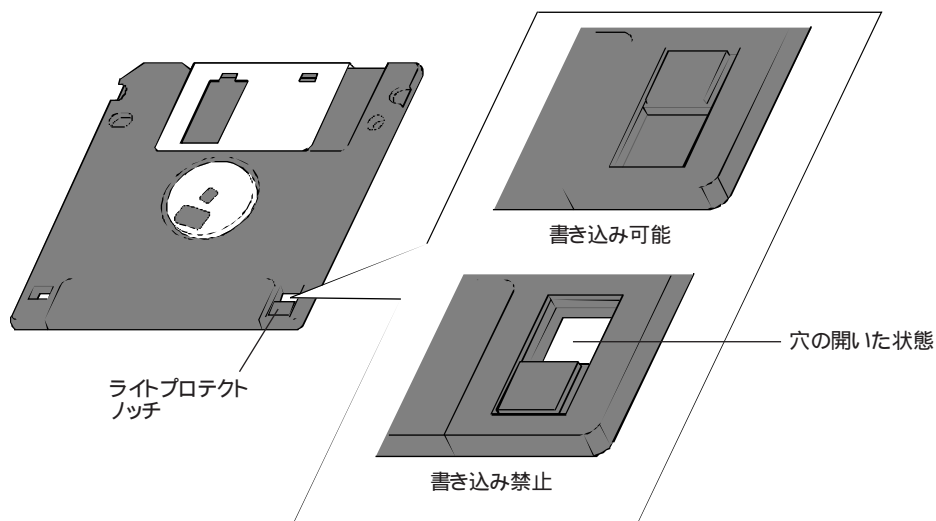
# フロッピーディスクの内容を保護する.....

フロッピーディスクに保存した大切なデータをなくさないために、次のような方法があります。

## ライトプロテクト

フロッピーディスクは、保存している内容を誤って消してしまうことのないように、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、ライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。

ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にずらすと、書き込み禁止になります。



## バックアップ

フロッピーディスクに保存しているデータを、他の記憶媒体などにコピーしておくことを「バックアップをとる」といいます。

フロッピーディスクは非常にデリケートにできています。ほこりが入ってしまったたり、折れてしまったりなど、何らかの事故によって、保存しているデータが壊れてしまうことがあります。万が一に備えて、大切なデータは定期的にバックアップをとっておきましょう。

ここでは、フロッピーディスクのデータを他のフロッピーディスクにバックアップする方法を、Windows 95の場合で説明します。Windows 95以外のOSをお使いの方は、各OSのマニュアルをご覧ください。

## Windows 95のデスクトップ画面上でのフロッピーディスクのバックアップ



すでにデータが書き込まれているフロッピーディスクをコピー先のディスクにすると、そのフロッピーディスクにそれまで書き込まれていたデータはすべて消えてしまい、二度とデータが取り戻せなくなってしまいます。大切なデータが書き込まれているフロッピーディスクを誤ってコピー先のフロッピーディスクにしないようにしてください。

- 1 バックアップをとりたい(コピー元の)フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。



誤ってデータを消さないよう、コピー元となるフロッピーディスクには、あらかじめライトプロテクトしておくことをおすすめします。



コピー元とコピー先のフロッピーディスクは同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください。

- 2 [マイコンピュータ アイコン ] をダブルクリックします。



CEREBメニューの画面が表示されている場合は、CEREBメニュー左上にある切換ボタンをクリックして、CEREBメニューを最小化または右側に移動させ、Windows 95のデスクトップ画面を表示させてください。

[マイコンピュータ]ウィンドウが表示されます。

- 3 [3.5インチFD アイコン ] をクリックします。


[3.5インチFD アイコン]に色がつきます。



[3.5インチFD アイコン]をダブルクリックするなどして、フロッピーディスクの内容を表示させていたり、エクスプローラでフロッピーディスクの内容を表示させていたりすると、フォーマットを行うことはできません。その場合は、内容を表示しているウィンドウを閉じてください

- 4** [ファイル]メニューをクリックして、メニューから[ディスクのコピー]をクリックします。



-  [3.5インチFD]アイコンにマウスポインタを合わせて右クリックし、メニューから[ディスクのコピー]をクリックしてもできます。

[ディスクのコピー]ウィンドウが表示されます。



コピー元とコピー先のドライブ名をそれぞれ指定します。

- 5** [開始]ボタンをクリックします。

ディスクのコピーが始まります。

コピー元のフロッピーディスクを読み終わると、フロッピーディスクをコピー先のフロッピーディスクに入れ替えるように指示されます。

- 6** イジェクトボタンを押し、フロッピーディスクを取り出します。

- 7** コピー先のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。

- 8** [OK]ボタンをクリックします。

- 9** ディスクのコピーが終了したら、[閉じる]ボタンをクリックします。

[ディスクのコピー]ウィンドウが閉じます。

- 10 イジェクトボタンを押して、フロッピーディスクを取り出します。
- 11 取り出したフロッピーディスクにデータの内容を書いたラベルを貼って大切に保管してください。



ディスクのコピーをするときは、必ず同じ容量でフォーマットしたフロッピーディスクを使用してください。

---

# ディスプレイ

本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。  
 ディスプレイは別売です。本機の機能を十分に使用するためには、BSワイドディスプレイテレビ( PC - DH32W1、PC - DH28W1 )または17インチディスプレイ( PC - DH171 )のご使用をおすすめします。  
 ここでは、ディスプレイと解像度について説明します。

## 解像度について.....

解像度とは、ディスプレイの画面上で文字やグラフィックを表現する度合いのことで、ドット数で表します。  
 例えば、640×480ドットというのは、ディスプレイの横(水平方向)に640個のドット(点)、縦(垂直方向)に480個のドットで表示できることを表しています。

## 本機で表示できる解像度と表示色.....


本機は、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

: 表示可


解像度	表示色	本機の解像度		ディスプレイ接続時の解像度	
		Windows 95	Windows 95のMS-DOSモード	BSワイドディスプレイテレビ( PC - DH32W1、PC - DH28W1 )	17インチCRTディスプレイ( PC - DH171 )
640×400ドット	4,096色中16色 / 256色	-			
	1,677万色中256色	-			
640×480ドット	26万色中256色		-		
	1,677万色中256色				
	65,536色 1,677万色		-		
800×600ドット	26万色中256色		-		
	65,536色				
	1,677万色				
864×480ドット	26万色中256色		-		
	65,536色				-
	1,677万色				
1,024×600ドット	26万色中256色		-		
	65,536色				-
	1,677万色				
1,024×768ドット	26万色中256色		-	-	
	65,536色				
	1,677万色				

## 解像度と表示色を変更する(簡易解像度切り替え機能)

解像度と表示色は、タスクバーから簡単に切り替えることができます。

- 1 タスクバーに表示されている  をクリックします。



 をポイントすると、現在の解像度が表示されます。



- 2 メニューが表示されたら、変更したい解像度をクリックします。



表示される解像度はお使いのディスプレイによって異なります。

- 3 この後は、画面表示をご覧になり、解像度を変更してください。

選択したものによっては再起動を促すメッセージが表示されますので、メッセージに従って再起動してください。



解像度や表示色が変更されて画面が切り替えられた後に、CEREBメニューの画面が最小化されてデスクトップの画面になった場合は、タスクバーに表示されている「CEREBメニュー」をクリックして、CEREBメニューの画面を表示させてください。



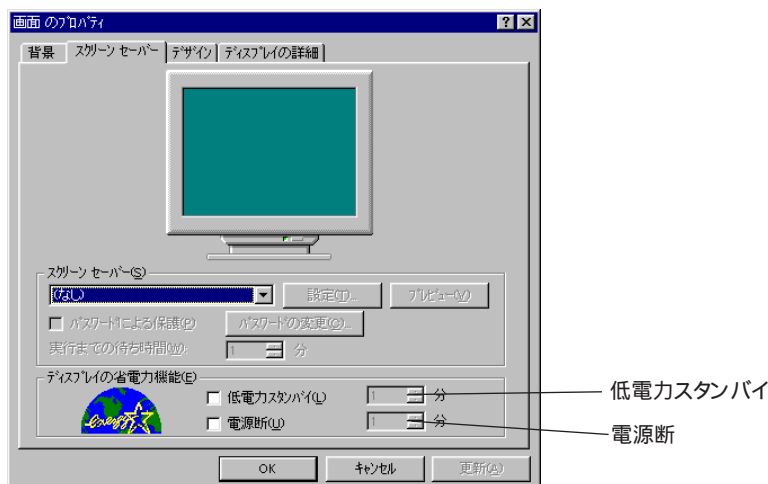
# ディスプレイのパワーマネジメント機能について．．

パワーマネジメント機能はWindows上で設定し、指定された時間(コントロールパネルで設定した時間)内に、まったく操作しなかった場合、ディスプレイの消費電力を節約することができます。

この機能を利用するには、ディスプレイがパワーマネジメント機能に対応している必要があります。

## ディスプレイのパワーマネジメント機能を使う

- 1 [ 書庫 ]グループの [ ユーティリティ ]の [ コントロールパネル ]アイコンをクリックします。  
[ コントロールパネル ]ウィンドウが表示されます。
- 2 [ コントロールパネル ]ウィンドウで [ 画面 ]アイコンをダブルクリックします。  
[ 画面のプロパティ ]ウィンドウが表示されます。
- 3 [ スクリーンセーバー ]タブをクリックします。



- 4 [ ディスプレイの省電力機能 ]の欄で設定します。

### 低電力スタンバイ

[ 低電力スタンバイ ]チェックボックスをオンにし、時間を設定すると、この機能に対応しているディスプレイの場合、設定した時間が経過する間に操作をしなかったときにディスプレイがスタンバイ状態になり、消費電力を節約することができます。

## 電源断

[電源断] チェックボックスをオンにし、時間を設定すると、この機能に対応しているディスプレイの場合、設定した時間が経過する間に操作をしなかったときにディスプレイの電源をOFFにすることができます。

- 5** 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックします。  
[画面のプロパティ] ウィンドウが表示されます。

# その他の別売のディスプレイを使う.....

本機には、次の表の別売のCRTディスプレイなどを接続することもできます。



Windows 95を使用する場合は、640×480ドット以上の解像度に対応したディスプレイを使用してください。



- 本機は、ご購入直後にWindows 95を起動するときは、800×600ドット(水平走査周波数47KHz、垂直走査周波数75Hz)で画面表示を行いますので、800×600ドット(47KHz、75Hz)の表示ができるディスプレイを使用してください。
- ディスプレイの調整機能を使って、画面の表示位置やサイズなどを調整する必要があります。

:要 :不要 :表示可

解像度(ドット)		640×400		640×480		800×600		1,024×768	
使用できるディスプレイ	水平走査周波数	31KHz	31KHz	38KHz	38KHz	47KHz	47KHz	56KHz	60KHz
	変換アダプタの要/不要 <sup>3</sup>								
PC-KH1711						1	1	1	1
PC-KH2021						1	1	1	1
PC-KM141 <sup>2</sup>	4			1			1		-
PC-KM151				1			1		-
PC-KM152 <sup>2</sup>				1			1		1
PC-KM153 <sup>2</sup>				1			5		-
PC-KM153R <sup>2</sup>	4						5		-
PC-KM153R2									
PC-KM154 <sup>2</sup>									
PC-KM155 <sup>2</sup>									
PC-TM151 <sup>2</sup>				1			1		1
PC-KM171				1			1		1
PC-KM172 <sup>2</sup>				1			1		1
PC-KM173 <sup>2</sup>	4			1					1
PC-KM173R <sup>2</sup>									
PC-KM173R2 <sup>2</sup>									
PC-KM174 <sup>2</sup>									
PC-KM174R <sup>2</sup>									
PC-KM175 <sup>2</sup>									
PC-TM171 <sup>2</sup>									
PC-KM211 <sup>2</sup>				1					1
PC-KM212 <sup>2</sup>									
PC-KM371 <sup>2</sup>				1			1	-	-
PC-KP651 <sup>2</sup>							1		
PC-PJ612 <sup>2</sup>								-	-
PC-PJ631 <sup>2</sup>									

- 初めて、この解像度を使用する場合、画面位置補正(ディスプレイの前面スイッチ操作)が必要です。
- このディスプレイは、パワーマネジメント機能に対応しています。
- 別売のディスプレイインタフェース変換アダプタ(PC-9821-K06)。
- ディスプレイに添付されている変換アダプタを使用して接続します。
- この解像度を使用する場合、画面位置補正(ディスプレイの前面スイッチ操作)が必要です。また、画面位置補正を行った後で、他の解像度を使用する場合は、再度、画面位置補正を行う必要があります。



本機の工場出荷時の設定は、解像度が800×600ドットになっています。以下のディスプレイを使用する場合は、事前に800×600ドットに対応した別のディスプレイで本体側の解像度の設定を変更する必要があります。

:要 :不要 :表示可

解像度(ドット)		640×400		640×480		800×600		1,024×768	
使用できるディスプレイ	水平走査周波数	31KHz		31KHz	38KHz	38KHz	47KHz	56KHz	60KHz
	変換アダプタの要/不要 <sup>4</sup>								
PC-KD1522						-	-	-	-
PC-KM291 <sup>1</sup>					<sup>2</sup>	-	-	-	-
PC-KP411 <sup>1</sup>						-	-	-	-
PC-TD151						-	-	-	-
PC-TD211						-	-	-	-
PC-TP611 <sup>1</sup> <sub>3</sub>						-	-	-	-
PC-PJ611						-	-	-	-
PC-KP511 <sup>3</sup>					-	-	-	-	-

- 1: このディスプレイは、パワーマネジメント機能に対応しています。
- 2: 初めて、この解像度を使用する場合、画面位置補正(ディスプレイの前面スイッチ操作)が必要です。
- 3: このディスプレイは、TV機能内蔵TFTフルカラー液晶ディスプレイです。
- 4: 別売のディスプレイインタフェース変換アダプタ(PC-9821-K06)



BSワイドディスプレイテレビ(PC-DH32W1、PC-DH28W1)または17インチディスプレイ(PC-DH171)以外のディスプレイを接続する場合は、98TVのフル画面表示および98インスタントTVが使用できません。

## ディスプレイに合わせて設定する

別売のディスプレイを使用する場合は、ディスプレイに合わせて、本体の設定を変更する必要があります。



本体が、ディスプレイに合わせて正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。  
また、選択できるはずの解像度が選択できないことがあります。

## 設定の方法

- 1 ディスプレイが本体に正しく接続されていることを確認します。
- 2 Windows 95が起動したら、[ 書庫 ]グループの[ ユーティリティ ]フォルダの[ コントロールパネル ]をクリックして、[ 画面 ]アイコンをダブルクリックします。



プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合は、必ず次の手順を行ってください。

プラグ&プレイに対応しているディスプレイの場合は、起動時にモニターを検出したことを表すメッセージが表示されます。このメッセージで、ディスプレイが検出されたことが確認できた場合は、次の手順は必要ありません。

詳しくは、ディスプレイに添付されているマニュアルをご覧ください。

ただし、プラグ&プレイに対応しているディスプレイであっても、そのディスプレイで表示できるはずの高解像度が、「解像度と表示色を変更する」(P.51)の手順で選択できない場合があります。その場合は、『困ったときにお読みください』をご覧の上、ディスプレイの設定をやり直してください。

- 3 [ 画面のプロパティ ]ウィンドウが表示されたら、[ ディスプレイの詳細 ]タブをクリックします。

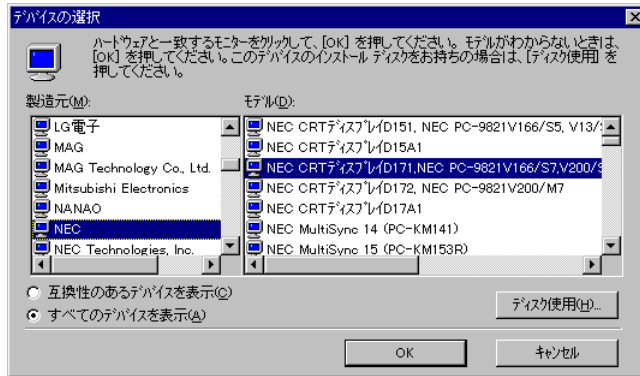
次のような画面が表示されます。



- 4 [ 詳細プロパティ ]ボタンをクリックします。
- 5 [ モニター ]タブをクリックして、[ 変更 ]ボタンをクリックします。

- 6** [すべてのデバイスを表示]がある場合はクリックします。

次のような画面が表示されます。



- 7** [製造元]と[モデル]を選択します。

[製造元]は、接続したディスプレイの製造元を選択してください。

[モデル]は、接続したディスプレイに対応した項目を選択してください。

詳しくは、ディスプレイに添付されているマニュアルをご覧ください。



ディスプレイ一覧に、接続したディスプレイの種類が表示されない場合は[製造元]の欄で(スタンダードモニター)を選択し、[モデル]の欄で接続したディスプレイがサポートしている解像度を選択してください。

- 8** [OK] ボタンをクリックし、[閉じる] ボタンをクリックします。

- 9** [OK] ボタンをクリックします。

- 10** Windowsを再起動するようというメッセージが表示された場合は、他のアプリケーションが終了していることを確認して、[はい] ボタンをクリックします。

# 別売の17インチディスプレイ(PC-DH171)の画面調整.....

本機の電源がONになっているとき、本体前面の画面表示調整ボタンを使って、本機のディスプレイに表示される内容の表示位置やゆがみなどを調整できます。

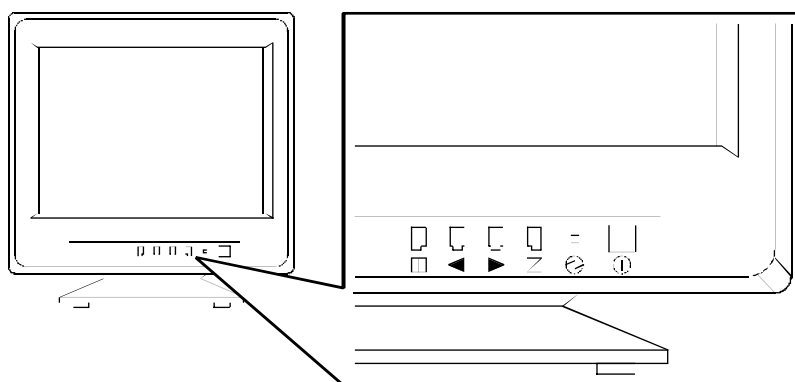


BSワイドディスプレイテレビ(PC-DH32W1/PC-DH28W1)の画面調整については、BSワイドディスプレイテレビの取扱説明書をご覧ください。

## 画面表示調整スイッチ

画面表示調整スイッチは、ディスプレイの前面にあります。

### 画面表示調整スイッチの位置



画像を表示したままディスプレイの向きを変えたりすると、表示に色ムラができることがあります。このようなときは、次のようにして画像の調整をしてください。

- ・ 一度ディスプレイの電源スイッチをOFFにし、しばらくたってから再度ONにする。
- ・ オンスクリーン画面を表示させて、手動消磁をする。



- ・ 消磁機能の動作中は、画面が揺れて見えますが故障ではありません。
- ・ 電源スイッチをONにした際、消磁装置の動作音がしますが、故障ではありません。

## 画面表示の調整

画面表示の調整は、オンスクリーン画面で行います。オンスクリーン画面は、メニュー画面と、メニュー画面上に表示される調整メニューアイコンに対応する調整画面で構成されています。

オンスクリーン画面を起動すると、まず、メニュー画面が表示されます。

### 1 オンスクリーン画面を起動します。

ディスプレイと本体の電源をONにします。

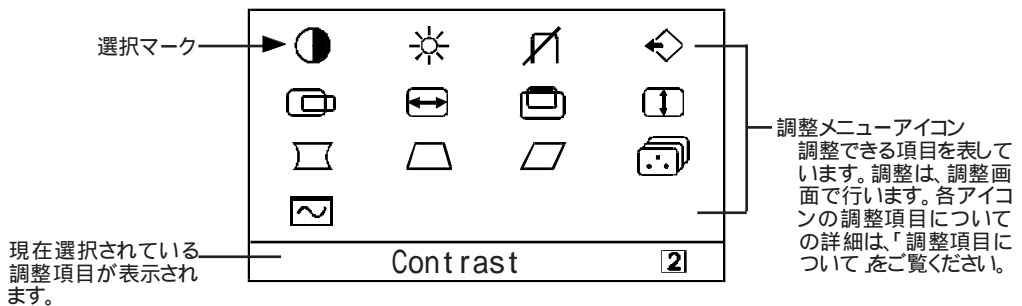
ディスプレイの消磁が働き、つづいてCEREBメニューなどの画面が表示されます。

ディスプレイ前面の画面表示調整スイッチの**1**キーを押します。



- ・ 本機を使用中にオンスクリーン画面を起動させると、作業中の画面の上にオンスクリーン画面が表示されます。
- ・ 本体の電源をONにせずにディスプレイの電源のみをONにしたときには、メニュー画面は表示されず、セルフテストの画面が表示されます。

### 2 メニュー画面の操作



### 基本操作

▶キーを押して、調整したい項目のアイコンに選択マークを移動します。

**2**キーを押します。

選択した項目の調整画面が表示されます。



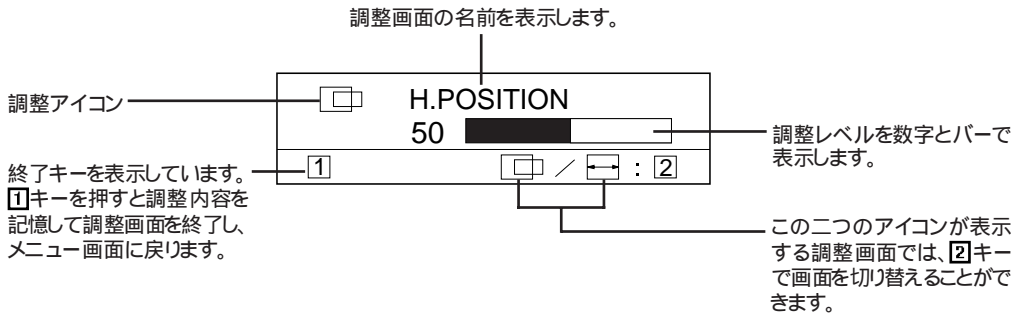
オンスクリーン画面の操作はディスプレイ前面の画面表示調整スイッチでのみ可能です。

マウスやメディアコントローラ、ワイヤレスキーボードでは操作できません。



### 3 調整画面で画面表示を調整します。

\*下記の画面は「水平位置調整」画面を選択した場合です。



調整画面の操作は、次のとおりです。  
基本操作(例:水平位置調整画面の場合)

◀▶キーを押して、好みの状態にします。

[1]キーを押します。

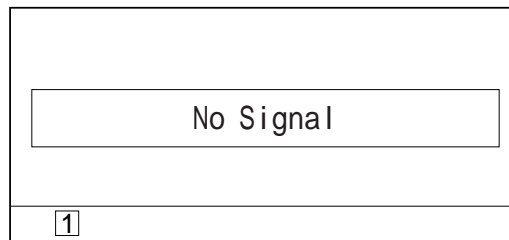
調整内容を記憶して、メニュー画面に戻ります。

### 4 オンスクリーン画面を終了します。

ディスプレイ前面の画面表示調整スイッチの[1]キーを押します。  
メニュー画面が消えます。

## MONITOR SELF-TEST(セルフテスト)

この画面は、ディスプレイが正常に動作していることを表示しています。



次のいずれかの場合に、画面表示調整スイッチのどれかを押すと表示されます。


- ・ 入力同期信号が範囲外の場合
- ・ パワーセーブモードに入っている場合( OFF STATE時のみ表示 )
- ・ 無信号の場合( コンピュータと接続されていない、コンピュータの電源がOFFになっているなど )

## 調整項目について

### ● コントラスト調整 (CONTRAST)

画像の濃淡を調整します。室内の明るさに応じて調整してください。

◀キーを押すと画像が薄くなり、▶キーを押すと画像が濃くなります。


 ・ ◀▶キーを押すと、ダイレクトにコントラスト調整画面を表示できます。

- ・ コントラスト調整画面上で、◀▶キーを同時に押すと工場出荷時の設定になります。
- ・ コントラストの調整具合によっては、小さな文字がぼやけたり、細かい横線が二重に見えたりすることがあります。
- ・ 画面表示内容によってはコントラストを調整しても一定の明るさ以上にならない場合があります。

### ☀ 輝度調整 (BRIGHTNESS)

画面の明るさを調整します。室内の明るさに応じて調整してください。

◀キーを押すと画面の明るさが暗くなり、▶キーを押すと画面の明るさが明るくなります。


 ・ 輝度調整画面上で、◀▶キーを同時に押すと工場出荷時の状態になります。

- ・ 輝度の調整具合によっては、色の純度が低くなる場合があります。

### ✂ 手動消磁 (DEGAUSS)

手動での消磁を行います。

アイコンを選択すると、数秒間消磁が働きます。


 ・ ディスプレイの電源がONになったときには、自動的に消磁が働きます。

- ・ 消磁機能の動作中は画面が揺れて見えませんが、故障ではありません。

### ◻ 水平位置調整 (H. POSITION)

映像の水平位置を調整します。


◀キーを押すと左へ移動し、▶キーを押すと右へ移動します。

 [2]キーを押すと、水平サイズ調整になります。

### ◻ 水平サイズ調整 (H. SIZE)

映像の水平サイズを調整します。

◀キーを押すとサイズが小さくなり、▶キーを押すとサイズが大きくなります。


 [2]キーを押すと、水平位置調整になります。

- ・ 映像の位置をあらかじめ画面の中央に設定すると、サイズ調整がしやすくなります。

### ◻ 垂直位置調整 (V. POSITION)

映像の垂直位置を調整します。


◀キーを押すと下へ移動し、▶キーを押すと上へ移動します。

 [2]キーを押すと、垂直サイズ調整になります。

### ◻ 垂直サイズ調整 (V. SIZE)

映像の垂直サイズを調整します。

◀キーを押すとサイズが小さくなり、▶キーを押すとサイズが大きくなります。

 [2]キーを押すと、垂直位置調整になります。

- ・ 映像の位置をあらかじめ画面の中央に設定すると、サイズ調整がしやすくなります。

### ◻ 垂直ピンクッション調整 (V. PINCUTION)

映像の垂直ピンクッションを調整します。

◀キーを押すと糸巻き状 (◻) に、▶キーを押すと樽形状 (◻) になります。

### ◻ 台形歪み調整 (TRAPEZOID)

映像の台形ゆがみを調整します。

◀キーを押すと上辺が狭く (◻) 、▶キーを押すと下辺が狭く (◻) になります。

### ◻ 平行四辺形歪み調整 (PARALLELOGRAM)

映像の平行四辺形ゆがみを調整します。

◀キーを押すと左倒れ状 (◻) に、▶キーを押すと右倒れ状 (◻) になります。

## カラー切り替え(COLOR)

映像の白色を切り替えることができます。

◀▶キーで、1(9300K)/2(6550K)/3( USER )の中から、白色にしたい色を選択してください。

3( USER )を選択すると、オンスクリーン画面の右下に2が表示されます。

**[2]**キーを押すとユーザカラー調整画面が表示されます。

### ユーザカラー( USER )

映像の白色を自分の好きな色に調整します。

**[2]**キーでR( 赤色 )/B( 青色 )を選んでください。

◀▶キーで好きな色に調整してください。



ユーザカラーは、工場出荷時の状態に戻すことができないので、設定を変更する前に工場出荷時の設定値を控えておいてください。

## メモリーリコール(RECALL)

画面表示の設定を工場出荷時の状態に戻します。

- **[1]**キー( YES )を押すと、設定内容をリコールしてメニュー画面に戻ります。  
(リコール= 工場出荷時の状態に戻る)
- **[2]**キー( NO )を押すと、設定内容をリコールせずにメモリー画面に戻ります。  
(リコール選択前の状態に戻る)



- ユーザカラーは、工場出荷時の状態に戻すことができないので、設定を変更する前に工場出荷時の設定値を控えておいてください。
- コントラストと輝度はリコールされません。コントラストと輝度を工場出荷時の設定に戻すときには、「コントラスト調整」、「輝度調整」それぞれの項目を参照してください。



約30秒間操作しなければ、リコールせずに画面が消えます。

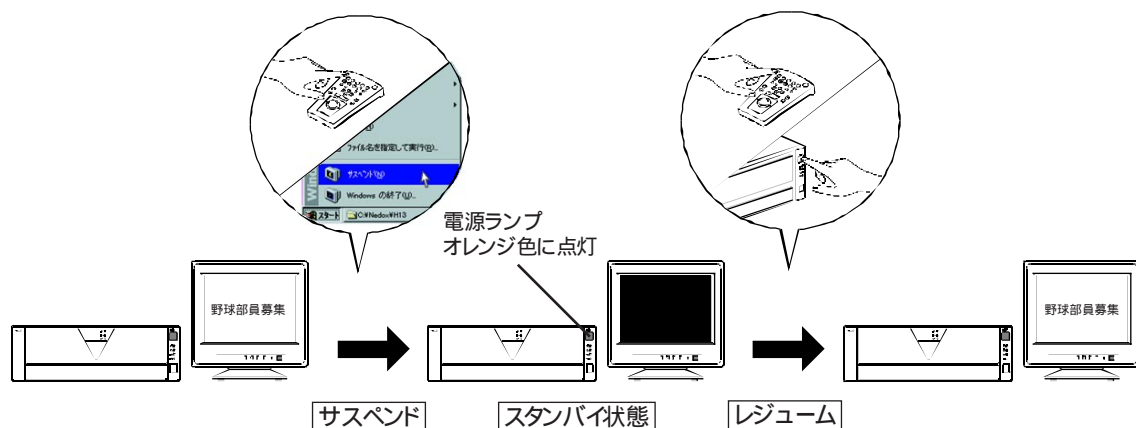
# サスペンド/レジューム機能

本機では、サスペンド/レジューム機能を使うことができます。ここでは、サスペンド/レジュームを使用するときの注意事項や、サスペンド/レジューム機能の設定の変更について説明しています。

## サスペンド/レジューム機能とは.....

本機では、作業を一時中断したいときなどのために便利なサスペンド/レジューム機能があります。作業を一時的にスタンバイ状態にすることをサスペンドといいます。サスペンド状態のときは、本機の電源は完全にはOFFになっていません。

サスペンドにすると、本体の電源を極力抑えた状態（スタンバイ状態）になります。したがって、消費電力を抑えることができます。しかし、周辺機器や通信回路などはサスペンドしても自動的に電源OFFにはなりません。また、サスペンド状態から作業を再開することを、レジュームといいます。



- ・ 使用するアプリケーションによってはレジュームできなかったり、アプリケーションソフトが正常に動作しないことがあります。このようなアプリケーションソフトの使用時にはサスペンド/レジューム機能を使用しないでください。
- ・ 使用する周辺機器によっては、レジュームできないことがあります。



- ・ 通信ソフトを使用中には、通信ソフトを終了させてからサスペンド状態にしてください。通信状態のままサスペンドすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときにサスペンド状態にした場合は、レジュームに若干時間がかかることがあります。
- ・ Video-CD、音楽CDを再生中にサスペンドした場合、CDは再生され続けます。サスペンドする前に再生を止めるようにしてください。

# サスペンド/レジューム機能を使用する.....

## サスペンドのしかた

### [ スタート ]メニューからサスペンドする

まず、[ スタート ]メニューからサスペンド機能を使用するには、[ スタート ]メニューに [ サスペンド ]が表示されるようにします (出荷時の状態では表示されていません)。なお、[ スタート ]メニューに [ サスペンド ]が表示されている場合は、手順 **7** から操作してください。

**1** [ 書庫 ]グループの [ ユーティリティ ]-[ コントロールパネル ]をクリックします。

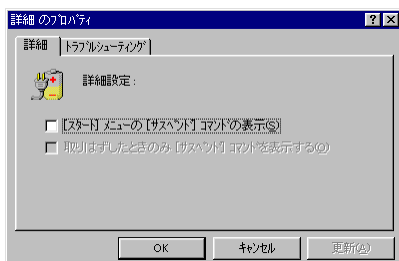
**2** [ パワーマネージメント ]アイコンをダブルクリックします。

[ 電源のプロパティ ]ウィンドウが表示されます。

**3** [ 詳細 ]ボタンをクリックします。

[ 詳細のプロパティ ]ウィンドウが表示されます。

**4** [[ スタート ]メニューの [ サスペンド ]コマンドの表示 ]をクリックして、チェックボックス  をオン (  )の状態にします。



**5** [ OK ]ボタンをクリックします。

[ 詳細のプロパティ ]ウィンドウが閉じます。

**6** [ OK ]ボタンをクリックします。

[ 電源のプロパティ ]ウィンドウが閉じます。

これでサスペンド/レジューム機能が使えるようになりました。



## 7 [スタート]ボタンをクリックします。

スタートメニューが表示されます。



## 8 [サスペンド]をクリックします。

本機がサスペンドになります。このとき、本体の電源ランプはオレンジ色に点灯します。



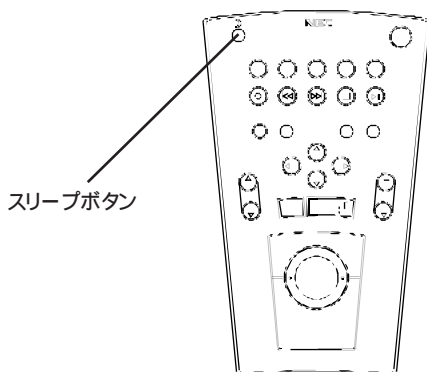
サスペンド中は、電源ケーブルが本体やACコンセントから外れないように注意してください。サスペンドの内容はACコンセントから供給される電源によって保たれています。電源の供給がなくなったときには、サスペンド内容は失われてしまいます。

## 98Timerでサスペンドする

98Timerを使うと、設定した時間に自動的にサスペンドすることができます(☞CEREBを使いこなそう)。サスペンド状態になると、本体の電源ランプはオレンジ色に点灯します。

## メディアコントローラでサスペンドする

メディアコントローラの左上の)(スリープ)ボタンを押します。



本機がサスペンド状態になります。このとき、本体の電源ランプはオレンジ色に点灯します。

## レジュームのしかた

### 電源スイッチでレジュームする

本体の電源スイッチを押します。  
しばらくすると、作業内容がレジュームされて表示されます。



レジュームするときは、本機の負担になりますので、サスペンド状態になって5秒以上たってからレジュームさせるようにしてください。



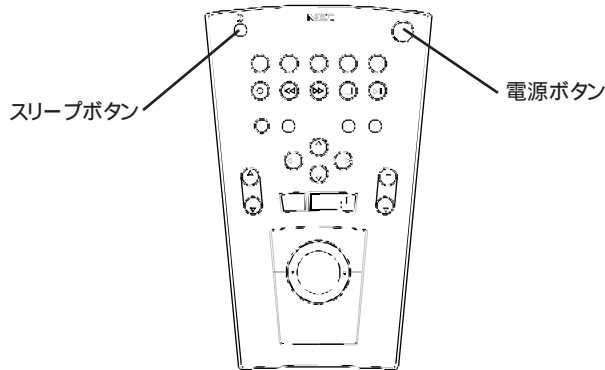
ディスプレイのパワーマネージメント機能を利用して、ディスプレイのパワーマネージメント機能が働いている状態と、本機がサスペンドされスタンバイ状態になっているのを間違えないようにしてください。

電源OFFの場合は本体の電源ランプは消灯します。ディスプレイがパワーマネージメント状態のときは、本体の電源ランプは緑色のままです。サスペンドしている場合は本体の電源ランプがオレンジ色に点灯します。

ディスプレイがパワーマネージメント状態のときは、マウスを動かすか、キーボードのキーを押すとパワーマネージメント前の状態に戻ります。

## メディアコントローラでレジュームする

本機がサスペンド状態のとき(電源ランプがオレンジ色に点灯)にメディアコントローラの左上の「スリープ」ボタンまたは右上の「電源」ボタンを押します。



しばらくすると、作業内容がレジュームされて表示されます。このとき、本体の電源ランプは緑色に点灯します。

## 日付/時刻を指定してレジュームする(SLエンハンスドオプション利用)

この機能を設定しておく、設定した日付/時刻になったら自動的にレジュームします。  
[ SLエンハンスドオプション ]の「再開」の「日付/時刻で指定」でこの機能を設定します  
(P.71)



98Timerでオンタイマ機能を設定している場合は、本機能は無効になります。  
98Timerで設定した時間にレジュームされます。

## 98Timerでレジュームする

98Timerを利用すると、指定した時間に本機をレジュームしたり、指定したアプリケーションを起動することができます(「CEREBを使いこなそう」)

## 電話やFAXの着信によりレジュームする(Wake up on ring機能)

98TELFAXの留守番電話機能を設定しておく、電話がかかってきたときやFAXが送られてきたときにサスペンド状態から自動的にレジュームして電話やFAXを受けることができます。



# サスペンド/レジューム機能使用時の注意.....

## サスペンド内容が失われるとき

次の場合には、サスペンド内容が失われます。

- ・ 電源ケーブルが、本体やACコンセントから外れたとき
- ・ 停電のとき
- ・ 電源スイッチを5秒間以上押し続けて、強制的に電源をOFFにしたとき



次に電源をONにしたときに「Windowsが正しく終了されませんでした...」と表示されますので画面の指示に従って本機を起動してください。

## サスペンド内容の復元が保証されない場合

次のような場合は、サスペンド内容は保証されません。

- ・ サスペンド内容の記憶中、または復元中にフロッピーディスクを入れ替えたとき
- ・ サスペンド内容の記憶中、または復元中にCD-ROMを入れ替えたとき
- ・ サスペンド内容の記憶中、または復元中に本機の環境を変更したとき
- ・ サスペンドしている状態で本機の機器構成を変更したとき

また、次のような状態でサスペンド状態にしたときには、サスペンド内容は保証されません。このような場合は、サスペンドを実行しないでください。

- ・ 98TVを使用しているとき
- ・ プリンタへの出力中のとき
- ・ モデムなどを使って通信中のとき
- ・ サウンド機能により音声を再生しているとき
- ・ フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・ CD-ROMを読み取り中のとき
- ・ 98標準キーボード(PC-9801-106)または98標準キーボード95(PC-9801-119)以外の別売のキーボードを接続しているとき

## サスペンド/レジューム機能が正しく実行されない場合

次のような場合には、レジュームが失敗したことを表わしています。

- ・ アプリケーションソフトが動作しない
- ・ サスペンド/レジューム機能が正しく動作しない(サスペンド内容を復元できない)
- ・ 本体の電源スイッチ、メディアコントローラのスリープボタンを押してもレジュームされない

このような状態になるアプリケーションソフトを使用している場合は、サスペンド/レジューム機能は使わないでください。

万一、電源スイッチを押してもレジュームできなくなったときには、電源スイッチを5秒間以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的にOFFになります。この場合、システムセットアップメニューの内容がご購入時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は再設定してください。

# サスペンド/レジューム機能の設定を変更する...



本機で設定できない項目をクリックするなどして選択しても、実際の設定では無効になります。

サスペンド/レジューム機能は、Windows 95の「パワーマネージメント」アイコンで表示される「電源プロパティ」ウィンドウで設定します。

**1** 「書庫」グループの「ユーティリティフォルダ」の「コントロールパネル」をクリックします。

**2** 「パワーマネージメント」アイコンをダブルクリックします。

「電源のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

## 電源管理を設定する



サスペンド/レジューム機能を使用する場合は、ここがチェックされていることを確認してください。

他に設定する必要がない場合は「OK」ボタンを、その他の設定をする場合は「更新」ボタンをクリックします。



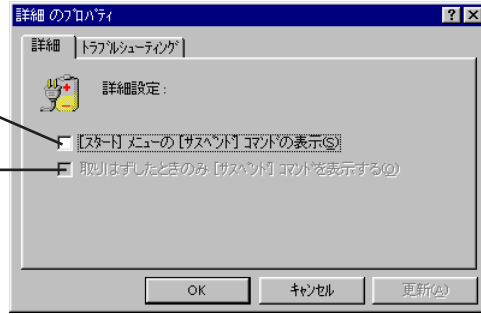
## サスペンドコマンドを表示する

1 [ パワーマネージメント ] タブの [ 詳細 ] ボタンをクリックします。

[ 詳細 ] タブのウィンドウで必要な項目を設定します。

サスペンド/レジューム機能を使用する場合は、ここがチェックされていることを確認してください。

本機では設定できません。



本機では、[トラブルシューティング] タブで設定できる項目はありません。

## レジュームする日付/時刻を設定する

1 [ パワーマネージメント ] タブのSLボタンをクリックします。

[ SL エンハンスドオプション ] ウィンドウで必要な項目を設定します。



本機では設定できません。

本機では設定できません。

設定が終了したら [ OK ] ボタンをクリックします。

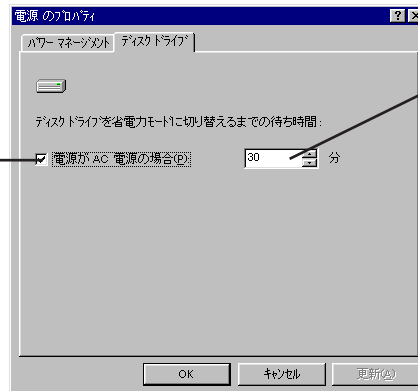
[ パワーマネージメント ] タブに戻ります。

## ハードディスクの省電力を設定する

### 1 [ ディスクドライブ ] タブをクリックします。

次の画面で必要な項目を設定します。

設定した時間が経過するまで、マウスやキーボードなどからの入力がなかったときにハードディスクのモータを停止させるかどうかを設定します。



ハードディスクのモータを停止させるまでの時間を設定します。

### 2 必要な項目の設定がすべて終了したら、[ OK ] ボタンをクリックします。

設定した項目によっては再起動のメッセージが表示されますので、画面の表示をご覧になり、操作を行ってください。

# サウンド

## 本機のサウンド機能 .....



本体にはスピーカが内蔵されていないため、別売のBSワイドディスプレイテレビ ( PC - DH28W1 / PC - DH32W1 ) または別売のアンブ内蔵スピーカセット ( PC - SP700 ( BK ) ) が必要になります。

### FM音源

FM音源は、音色・音程・音の強弱という音の三要素を合成して、楽器の音色に近い音声や効果音を再生できます。

FM音源を使うと、ゲームなどの音楽の演奏や、エレクトリック楽器、アコースティック楽器など、いろいろな音声を楽しめます。

本機には、エンハンスドFM音源機能 ( 標準FM音源 FM音源6音、リズム音源6音、SSG音源3音 ] 拡張FM音源 FM音源20音 ] ) が搭載されています。

### PCM録音 / 再生機能

PCM録音 / 再生機能は、マイクロホンから入力した音声などのアナログ信号を、デジタル信号に変換していろいろな処理を加える機能です。人の音声などを、原音に近い音で再現できます。

インストールされているWindowsのサウンド機能を使えば、ソフトウェアに含まれる音声データを再生したり、入力した音声を編集したり、文書などに貼り付けたりできます。

### MIDI音源

MIDIはMusical Instruments Digital Interfaceの頭文字をとったもので、楽器同士を接続して、演奏情報や音色情報をやりとりするための規格です。このMIDI規格に対応した音源がMIDI音源です。

MIDIでは、音程や音色などの演奏に関する情報の他、設定を切り替えるための情報、テンポをコントロールするための情報などのさまざまな情報をやりとりできるので、MIDI音源により表現力豊かな演奏ができます。

### エンハンスドステレオ機能

本機にはエンハンスドステレオ機能が内蔵されています。エンハンスドステレオ機能を使うとステレオ音の広がりが増します。

## 音量の調節

音量は次のように調整します。

### BSワイドディスプレイテレビを接続した場合

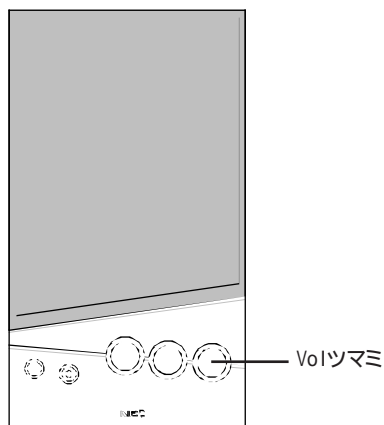
TV前面パネルの音量調節ボタンで音量を調節してください。上のボタンを押すと大きく、下のボタンを押すと小さくなります。



- ・ スピーカボリュームが最小になっていると、音は出ません。
- ・ TVのリモコンでも操作できます( TVの取扱説明書 )。

### アンプ内蔵スピーカセットを接続した場合

スピーカのVOLツマミで音量を調節してください。右へ回すと大きく、左へ回すと小さくなります。

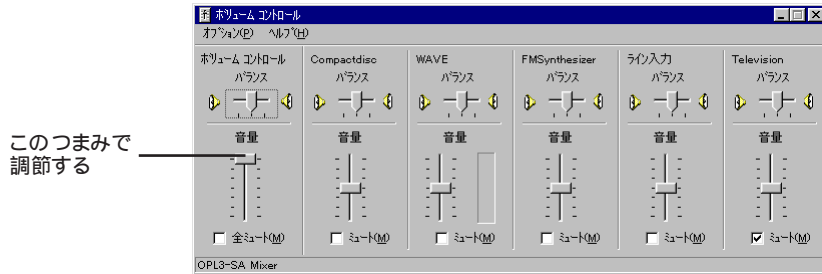


VOLツマミが最小の位置になっていると、音は出ません。

## Windows 95での音量調節 (BSワイドディスプレイテレビ、アンプ内蔵スピーカセット共通)

Windows 95でサウンド機能を利用しているときは、次の手順で音量調節できます。

- 1 [書庫]グループの[ユーティリティ][ボリュームコントロール]アイコンをクリックします。  
[ボリュームコントロール]ウィンドウが表示されます。



- 2 [ボリュームコントロール]の音量のつまみを上下にドラッグして、音量を調整します。
- 3  ボタンをクリックします。  
[ボリュームコントロール]ウィンドウが閉じます。



# ボリュームコントロールを使う.....

ボリュームコントロールは、内蔵音源を通じて再生される音声をコントロールしたり、内蔵音源を通じて録音するときの入力レベルをコントロールしたりできます。

各音源の音量が小さい場合や、音量が大きすぎて音割れ(音がとぎれる現象)があるときに調整してください。

ボリュームコントロールは[ 書庫 ]グループの[ ユーティリティ ]の[ ボリュームコントロール ]アイコンをクリックすると起動することができます。

つまみを上下することで、音量の大きさを調整することができます。

ON (  ) にすると、音声が入力 / 出力されなくなります。

各音源で、左右のスピーカのバランスを調整することができます。



この画面が表示されている状態で **[F1]** を押すとヘルプを表示することができます。

[ オプション ]-[ プロパティ ]で表示される画面で「再生」/「録画」/「その他」のいずれかを選択することで表示される項目を切り替えることができます。

各項目の説明は次のとおりです。

項目名	音量調整の種別			機能
	再生	録音	その他	
ボリュームコントロール				スピーカから出力されるすべての音量を調整します。
Compact disc				CDから出力される音量を調整します。
WAVE				WAVE データなどのPCM音源、または、ソフトウェアMIDI(VSC-88)を使用して出力される音量を調整します。
FMSynthesizer				FM音源(YMF715互換FMSynthesizer)を使用して出力される音量を調整します。
ライン入力				オーディオ入力端子に接続されている機器から入力される音を、スピーカから出力するとき、または、録音するときの音量として調整します。
マイク				マイクロホン端子に接続されているマイクロホンから入力される音を、スピーカから出力するとき、または、録音するときの音量として調整します。
Television				TVから出力される音量を調整します。
Telspeaker				FAXモデムボードから入力される音を、スピーカから出力するときの音量として調整します。
Auxiliary				AUX(TV、CD)から出力される音を録音するときの音量を調整します。
ループバック				スピーカから出力されているすべての音を録音するときの音量を調整します。
Wide Stereo				スピーカから出力されている音のワイドステレオ効果(エンハンスドステレオ機能)を調整します。

:選択可能



- ボリュームコントロールですべての音源コントロールが表示されない、または右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合には、次のいずれかの方法で、必要な音源のコントロールが表示されるようにしてください。
  - ディスプレイの解像度を変更する
  - 画面のプロパティの[ディスプレイの詳細]タブでフォントサイズを変更する
  - プロパティ< ボリュームコントロールの[オプション]メニューで選択します)の[表示するコントロール]で、使用しない音源の選択を解除する
 なお、ボリュームコントロールの表示が一部欠けた状態で解像度の切り替えを行っても、ボリュームコントロールの表示は変更されません。一度、ボリュームコントロールを終了し、再度ボリュームコントロールを起動してください。
- CDまたはTVの音を録音し、そのデータを再生した時、音が小さく感じられる場合があります。これはCD / TVの録音の音量はCD / TVの出力ボリュームの大きさに依存するためです。したがって、CDまたはTVの録音を行う際にはあらかじめボリュームコントロールを使用し、CD / TVの音量を大きくしておいてください。

## トーン調整

本機には、トーン調整機能が内蔵されています。

Windows 95では、次の手順でトーン調整を行うことができます。

- 1 [ 書庫 ]グループの[ ユーティリティ ]の[ ボリュームコントロール ]アイコンをクリックします。

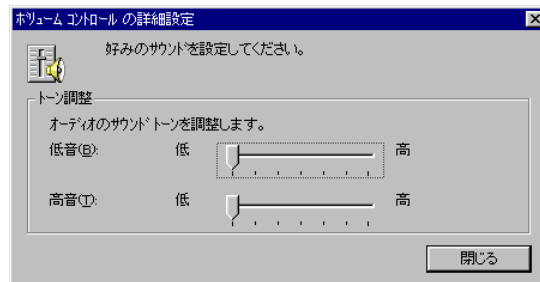
[ ボリュームコントロール ]ウィンドウが表示されます。

- 2 [ ボリュームコントロール ]の全ミュートの下に[ トーン ]ボタンが表示されていない場合は、[ オプション ]メニューの[ トーン調整 ]をクリックします。

[ トーン ]ボタンが追加表示されます。

- 3 [ トーン ]ボタンをクリックします。

[ ボリュームコントロールの詳細設定 ]ウィンドウが表示されます。



- 4 [ トーン調整 ]の[ 低音 ]のコントロールバーをドラッグすると低音を、[ 高音 ]のコントロールバーをドラッグすると高音を調整することができます。

低音も高音も、[ 高 ]の方へドラッグすると強調されます。


- 5 設定が終わったら、[ 閉じる ]ボタンをクリックします。

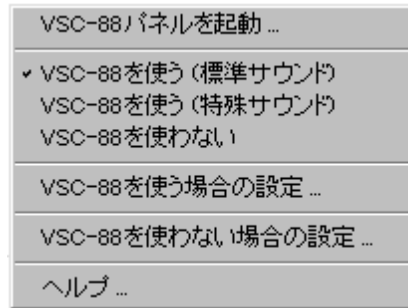
- 6 [ ボリュームコントロール ]ウィンドウの[ X ]をクリックして、ウィンドウを閉じます。

## VSC-88の設定を変更する

本機ではVSC-88の設定を簡単に変更することができます。[ VSC-88ヘルパー アイコンがタスクバーにあります。





- 1 タスクバーに表示されているをクリックすると次のようなメニューが表示されます。



- 2 表示されたメニューの中からそれぞれ目的の項目をクリックしてください。

詳しくは、メニューの[ ヘルプ ]をクリックして表示される[ VSC-88ヘルパーアイコンの使い方 ]をご覧ください。



[ VSC-88を使う (標準サウンド) ]または[ VSC-88を使う (特殊サウンド) ]を選択すると、タスクバーに表示されるアイコンはになります。[ VSC-88を使わない ]を選択するとになります。どちらを選択してもボリュームコントロールの操作方法は同じです。

## サウンド機能を使用する場合のご注意

本機では、本体内蔵のサウンド機能、または周辺機器を増設して、Windows 95上でマルチメディア機能を利用することができます。

利用できるマルチメディアの各機能について次の表に示します。

ウェーブフォームデータの録音、再生	MIDIデータの演奏	MIDIデータの記録、演奏
		注

： 本体内蔵のサウンド機能で利用できます。

注： MIDIデータの記録には、MIDIケーブルと入力機器が必要です。

外部MIDI音源は、GENERAL MIDI規格に対応している音源の使用を推奨します。




・ [MIDI 出力が] Roland VSC-88 ]に設定されている場合、MIDI演奏とオーディオ再生を同時に用いるアプリケーションによっては、MIDI演奏ができない、もしくはオーディオ音声がなくなることがあります。

これを回避するために、VSC-88付属のユーティリティ・ソフトによって、このようなアプリケーションを探し出して最適な状態に設定することができます。

詳しくは 書庫 グループの ヘルプ フォルダの [Virtual Sound Canvas VSC-88 ]にある [Virtual Sound Canvas VSC-88 Help ]の「トラブルシューティングQ&A」の「Q:MIDI演奏とオーディオ再生を同時に用いるアプリケーション(ゲームなど)で、音声やMIDI演奏が鳴らないことがあるのですがどうすればよいのでしょうか?」の項をご覧ください。

ただし、アプリケーションによっては、これらの設定変更だけでは対応できないものもあります。

このような場合には、タスクバーにある  をクリックし、表示されたメニューから [VSC-88を使わない] をクリックしてご使用ください。

- ・ MIDIデータの記録を行うには、市販のMIDI用アプリケーションソフトが必要です。
- ・ MIDIデータの演奏をFM音源で行う場合、同時に演奏できる音の数が限られているため、演奏できないデータがあります。
- ・ MIDIデータの演奏をFM音源で行う場合、外部MIDI音源をつないだ場合と音質が異なります。
- ・ システムセットアップメニューのマイクボリュームに関する設定は、Windowsでは無効になります。

## CD 音量設定時の注意事項

[ CDプレーヤ ]などでオーディオCDを再生中に、[ コントロールパネル ]にある [ マルチメディア アイコン ]をダブルクリックし、[ 音楽CD ]タブでヘッドホンの音量調節を変更した場合、その変更が有効になるのは、次回 [ CDプレーヤ ]などを起動したときからです。

# マイクロホン

マイクロホンを使用すると、本機に音声を取り込むことができます。



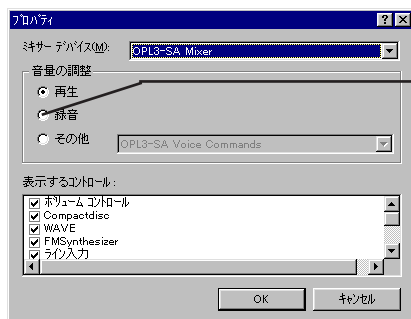
マイクロホンの接続のしかたは、「かんたんスタートガイド」をご覧ください。

## マイクロホンのボリュームを調節する.....

### Windows 95を使用している場合

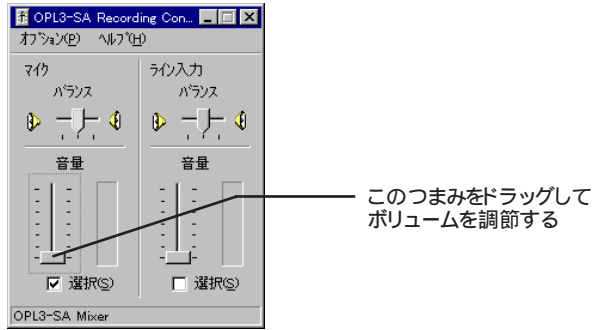
Windows 95を使用しているときは、マイクロホンのボリューム調節はWindows 95上で行います。システムセットアップメニューでの設定は、Windows 95では無効になりますので、注意してください。


- 1 Windows 95を起動します。
- 2 [書庫]グループの[ユーティリティ]の[ボリュームコントロール]アイコンをクリックします。  
[ボリュームコントロール]ウィンドウが表示されます。
- 3 [オプション]メニューの[プロパティ]をクリックします。  
[プロパティ]ウィンドウが表示されます。
- 4 [音量の調整]の[録音]をクリックします。




- 5 [OK]ボタンをクリックします。

- 6** [マイク]の音量つまみの部分でボリュームを調節してください。



- 7** 調節が終わったら、 ボタンをクリックして、この画面を閉じてください。

## そのほかの場合の調節

OSやアプリケーションソフトによって異なりますが、本機をMS-DOSモードで使用する  
ときなどは、システムセットアップメニューでマイクロホンのボリュームを調節します  
( P. 145 )。



# サウンドレコーダーで音を取り込む.....

サウンドレコーダーを使って、マイクロホンから音声を録音することができます。サウンドレコーダーを使って録音したサウンドは、ファイルとして保存することができます。加工したり、他のアプリケーションに取り込んだりすることができます。サウンドレコーダーは[スタート]メニューから[プログラム]-[アクセサリ]-[マルチメディア]-[サウンドレコーダー]をクリックすると起動することができます。



詳しい使い方はヘルプをご覧ください。



## ハウリング

マイクロホンをスピーカセットやテレビの内蔵スピーカに近づけると、スピーカからキーンという大きな音が出ることがあります。これをハウリング現象といい、故障ではありません。この場合は、次の対策を行ってください。

- ・ マイクロホンをスピーカセットやテレビの内蔵スピーカから遠ざける
- ・ [書庫]グループの[ユーティリティ][ボリュームコントロール][マイク]の音量つまみでボリュームを下げる(Windows 95の場合)
- ・ システムセットアップメニューでマイクボリュームを下げる(MS-DOSモードの場合)

# FAXモデムボード

本機に内蔵されているFAXモデムボードでは、ファクシミリ通信機能、データ通信機能、インターネット通信機能、留守番電話機能、スピーカホン機能を使うことができます。また、市販の電話機を接続するためのコネクタがついています。

## FAXモデムボードの機能.....

ここでは、FAXモデムボードの機能を説明します。



加入電話回線を使用する場合、送信レベルは工場出荷時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合は送信レベルの調整が必要な場合があります。

送信レベルの調整は、工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、送信レベルの調整については、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

当社指定のサービス窓口の電話番号、受付時間については、添付の『98あんしんサポートガイド』をご覧ください。



- ・ キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れてしまいます。
- ・ FAXモデムボードのダイヤル信号は、ご使用になる加入電話回線のダイヤル信号に合わせた調整が必要です( ATコマンド一覧の「ダイヤルパルススピードの設定」参照 )  
加入電話回線がトーン式かダイヤル式かわかりにならないときはNTTに確認してください。
- ・ コードレスホンや親子電話など、加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- ・ FAXモデムボードはファクシミリ通信網には対応していません。
- ・ FAXモデムボードに接続できる回線は2線式のみです。
- ・ 回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合や、接続しにくい場合があります。
- ・ FAXモデムボードに接続できる電話機は2線式の回線用のみです。電話機の種類によっては動作しない機種がありますのでご注意ください。また、電話機用モジュラーコネクタに接続されている外付け電話機をパソコン本体から離れたところに設置している場合は、送信 / 受信の際に外付け電話機が使用されていないことを確認してください。

## 最高33600bpsまでの各種通信



FAXモデムボードは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、FAXモデムボードやパソコン本体等を破損する場合があります。

電話回線を利用して最高33600bpsの全二重データ通信と最高14400bpsの半二重ファクシミリ通信ができます。

データ通信 : 300/1200/2400/4800/7200/9600/12000/14400  
/16800/19200/21600/24000/26400/28800/31200/  
33600bps

ファクシミリ : 300/2400/4800/7200/9600/12000/14400bps



- ・ 回線の状態によっては希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・ 電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでファクシミリの通信ができないことがあります。この場合は通信速度を下げてください。
- ・ 海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。

## データ通信機能

本機にインストールされている次のデータ通信ソフトウェアを使用することにより、パソコン通信等のデータ通信を行うことができます。

- ・ Windows 95 のハイパー ターミナル
- ・ BIGLOBEサインアップナビ
- ・ PC-VANナビゲータ
- ・ NIFTY Manager
- ・ 通信カラオケソフト シングる
- ・ 通信ジューク カラオケ
- ・ Angel Line for Windows
- ・ Microsoft® Works for Windows® 95

その他の市販データ通信ソフトウェアの動作については、各メーカーにお問い合わせください。



データ通信を行う場合、フロー制御はハードウェアRTS/CTS(工場出荷時の設定)に設定してください。それ以外に設定するとデータ抜けが生じる可能性があります。

## ファクシミリ通信機能

パソコンデータをダイレクトにFAXに送信できます。また、パソコンでFAXを受信でき、効率的にFAX送受信をサポートします。

FAXモデムボードのファクシミリ通信機能は、本機にインストールされている次のFAXソフトウェアでの動作を保証しています。

- ・ 98TELFAX
- ・ Windows 95 の Microsoft Fax
- ・ Microsoft® Works for Windows® 95

その他の市販FAXソフトウェアの動作については、各メーカーにお問い合わせください。



- ・ 留守番電話およびスピーカホン通話から切り換えてファックス送受信を行う場合、外付けスピーカからモニタ音が聞こえなくなりますが、ファックス送受信は正常に行えます。
- ・ ファックスを送信する相手が音声応答機能を持ったファックスの場合、相手音声の内容によってファックスの送信が行えなくなることがあります。その場合は、外付けの電話機またはスピーカホンで相手の音声が終わったのを確認してから送信を開始してください。

## インターネット通信機能

次のインターネットソフトウェアを使用することにより、インターネットによる通信を行うことができます。

- ・ Microsoft® Internet Explorer 3.02 for Windows® 95 日本語版

その他の市販のインターネットソフトウェアについては、各メーカーにお問い合わせください。

## 留守番電話機能・スピーカホン機能

「98TELFAX」を使用することにより、パソコンで電話をかけたり、留守番電話機能やスピーカホン機能が使えます。



- ・スピーカホン機能とは、パソコンに接続されているマイクロホンとスピーカで電話のように通話する機能で、ハンズフリー機能と呼ばれることもあります。
- ・回線の状態により、通話時に雑音が入ることがあります。
- ・スピーカホン通話中に相手側からの肉声以外の音(保留音など)が入るとスピーカからの音が大きくなったり、小さくなったりすることがあります。その場合は、マイクロホンの音量レベルを下げてください。
- ・マイクロホンからの音声スピーカセットから出ることがあります。その場合は、通話の音量レベルを下げるか、マイクロホンを口元から離してください。
- ・外付け電話機に留守番電話機能がある場合、電話機の機能の一部が使えないことがあります。

## MNPクラス4/5

エラー訂正を行うMNPクラス4と、エラー訂正およびデータ圧縮を行うMNPクラス5を搭載しています。

MNPクラス5では、最大2倍程度の実効通信スピードが得られます。

## V.42(LAPM) V.42bis

エラー訂正を行うV.42(LAPM)とデータ圧縮を行うV.42bisを搭載しています。

V.42とV.42bisを併用することにより、最大4倍程度の実効通信スピードが得られます。

## ATコマンド

データ通信の制御コマンドは、世界標準であるHayes ATコマンド体系およびSレジスタに準拠しています。

## 通信速度を指定する場合のご注意

Windows 95では従来の通信速度に加えて、高速通信を設定できます。

ただし、アプリケーションによって、使用できる通信速度は異なります。

# ビットキャスト放送

本機にはビットキャスト受信ボードが内蔵されています。

## ビットキャスト放送について.....

ビットキャスト放送とは、地上波テレビ放送の電波の隙間に、パソコン向けのHTMLデータを放送するサービスです。本機に内蔵されているビットキャスト受信ボードへアンテナ端子を接続することにより、ビットキャスト放送が受信できます。受信した内容を見るには、付属の「ビットキャストブラウザ」を使用します。ビットキャスト放送のデータの搬送スピードは約40kbpsで、33.6kbpsのアナログモデムを使ってインターネットへ接続した場合より若干高速です。

「ビットキャストブラウザ」の詳しい使い方については、『ビットキャストブラウザユーザーズガイド』をご覧ください。



- ・ ゴーストが多い場所やテレビ電波が弱い場所、極端に電波が強い場所では、ビットキャスト放送が受信できないことがあります。
- ・ テレビ放送の電波状態や接続状況によっては、データの取りこぼしが発生する場合があります。アンテナの向きを変更したり、アンテナとの接続距離を短くする等の方法で受信状況を改善することにより、発生頻度が低くなることもあります。
- ・ 地上波テレビ放送以外でのテレビ放送（CATV会社のテレビ放送中継サービス）は、ビットキャスト放送の対応を行っていない場合があります、受信できないことがあります。



### ビットキャスト放送でできること

ビットキャスト放送は1997年7月現在、TBS(株)東京放送がサービス放送を行っており、TBSの受信地域で利用可能です。また、関東地区以外でも順次サービスが開始される予定です。

ビットキャスト放送ではテレビの放送と同時にHTMLデータが送信されます。例えば、音楽番組ではテレビの映像と同時にHTMLデータにより関連情報、詳細な情報を同時に入手し、閲覧することができます。またビットキャスト放送のデータリンクからモデムを通じてインターネットへアクセスし、関連するWebサイトをたどるとすることも可能です。

現在のビットキャスト放送は地上波放送を利用するものですが、将来はケーブルテレビや衛星放送への応用が期待されています。

# 本機のお手入れ

本機のお手入れは、それぞれ次の要領で行ってください。

## ⚠注意



お手入れの前には、本機の電源をOFFにして電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。

感電の原因となることがあります。



電源ケーブルのプラグにほこりがたまったままの状態、本機を使用しないでください。

電源ケーブルのプラグにほこりがたまったまま長い間清掃しないと、プラグのピンの中で放電トラッキング現象が起こり、火災の原因となります。

## 本体外側

乾いたきれいな布で拭いてください。

汚れがひどい場合は、水か中性洗剤を布に含ませ、かたくしぼってから、拭き取ってください。



- ・ 水や中性洗剤は、絶対に本体に直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・ シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。本体の外装を傷めたり、故障の原因となったりします。

## パソコン本体

定期的に内部を清掃することをおすすめします。本機を長期間使用すると、本体内部にほこりがたまることがあります。

本体内部の清掃については、ご購入元またはNECサービスセンター、サービスステーションにご相談ください。

## 電源ケーブル

定期的に清掃することをおすすめします。電源ケーブルのプラグを長期間ACコンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。

## ワイヤレスキーボードのお手入れ

乾いたきれいな布で拭いてください。

汚れがひどい場合は、水か中性洗剤を布に含ませ、かたくしぼってから、ふき取ってください。



- ・ 水や中性洗剤は、絶対にワイヤレスキーボードに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・ シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。ワイヤレスキーボードの外装を傷めたり、故障の原因となります。

キーのすきまに入ったゴミなどがとれない場合は、ご購入元または最寄りのNECサービスセンター、サービスステーションにご相談ください。

## マウスのお手入れ

マウス内部のボールやローラが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。特に、ボールやローラに油分が付着すると、動きが悪くなったり、故障の原因となったりします。このような場合、次のようにして、各々の部品をクリーニングしてください。

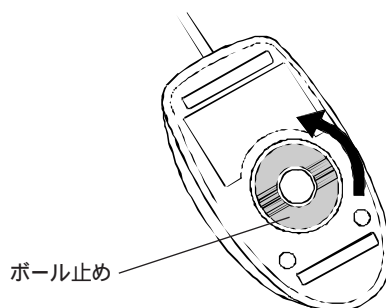
### マウス外側のクリーニング

乾いたきれいな布で拭いてください。

汚れがひどい場合は、水か中性洗剤を布に含ませ、かたくしぼってから、拭き取ってください。

### ボールのクリーニング

- 1 マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回します。



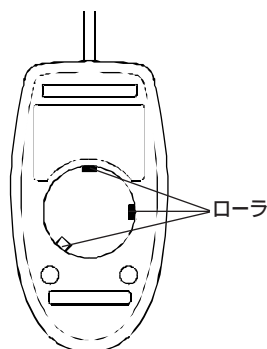
- 2 ボール止めを取り外し、ボールを取り出します。
- 3 ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とします。



- 4** 水で中性洗剤を洗い流します。
- 5** 乾いた布で水分を拭き取り、風通しの良い場所で十分に乾燥させます。このときに、ローラのクリーニングも行うとよいでしょう。
- 6** ボールをマウス内に戻します。
- 7** ボール止めを、取り外したときと逆の手順で取り付けます。

## ローラのクリーニング

- 1** 前述の**1**~**2**の手順で、ボールを取り出します。
- 2** マウス内部のローラについた汚れを、乾いた布でこすり落とします。汚れが布で落ちない場合は、柔らかい歯ブラシなどで汚れを取り除きます(このとき、歯ブラシに、水や歯みがき粉などをつけないでください)。



- 3** ボールをマウス内に戻します。
- 4** ボール止めを、取り外したときと逆の手順で取り付けます。



- ・ クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- ・ クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
- ・ 水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・ シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装を傷めたり、故障の原因となったりします。
- ・ ローラの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラに傷が付き、故障の原因となります。

## フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブは、1ヵ月に1回程度を目安として、清掃することをおすすめします。

フロッピーディスクドライブの清掃用として、クリーニングディスクがあります(別売)。クリーニングディスクについては、ご購入元またはNECサービスセンター、サービスステーションにお問い合わせください。

## メディアコントローラ

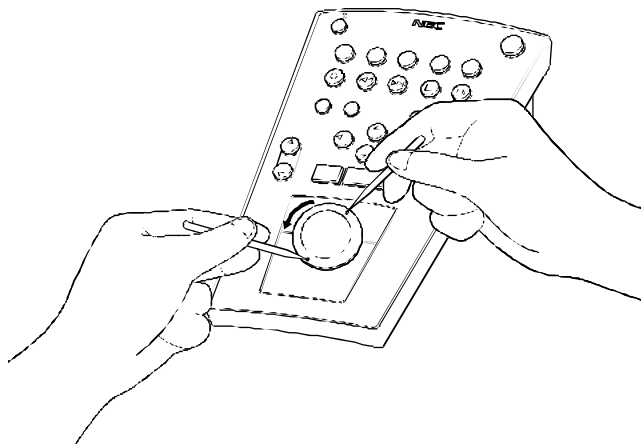
乾いたきれいな布で拭いてください。

汚れがひどい場合は、水か中性洗剤を布に含ませ、かたくしぼってから拭きとってください。

### トラックボールのクリーニング

メディアコントローラのトラックボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。このような場合は、次のようにしてボールをクリーニングしてください。なお、このクリーニングは1ヵ月に1回が目安となります。

- 1 トラックボールのボール止めを、つまようじなどの先の細いもので、下図の矢印の方向(逆時計回り)に回します。



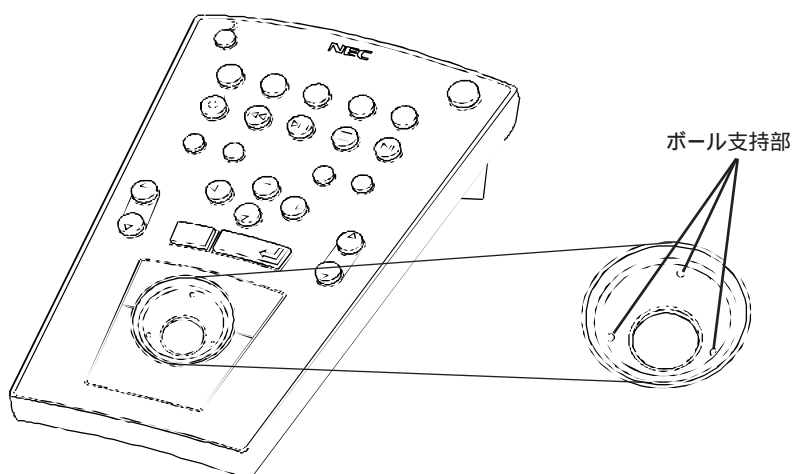
シャープペンシルの先など、金属製のものを使用すると傷が付く恐れがありますので、使用しないでください。

- 2 ボール止めを取り外し、メディアコントローラを傾けてボールを取り出します。
- 3 ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とします。
- 4 水で中性洗剤を洗い流します。

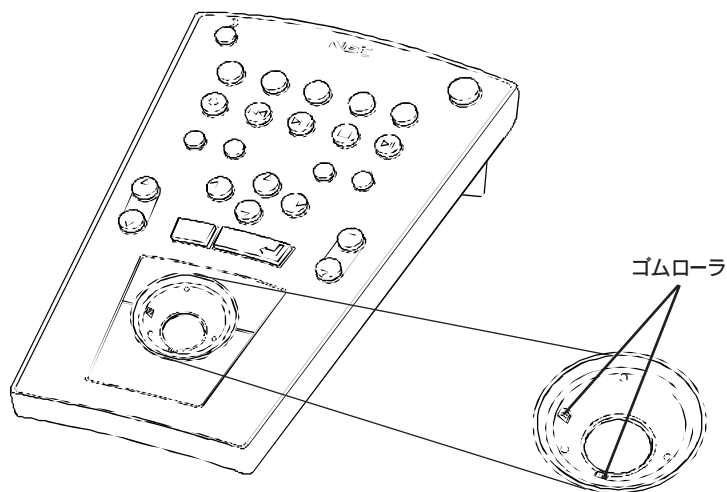
- 5** 乾いた布で水分を拭き取り、風通しのよい場所で十分に乾燥させます。このときに、ゴムローラなどのクリーニングも同時に行うとよいでしょう。
- 6** ボールをメディアコントローラ内に戻します。
- 7** ボール止めを、取り外したときと逆の順序で取り付けます。

## ゴムローラのクリーニング

- 1** 前述の**1**～**2**の手順で、ボールを取り出します。
- 2** 3箇所あるボール支持部(小さな球)の汚れを少量の無水アルコールで湿した綿棒で拭き取ります。



- 3** 2箇所あるゴムローラの汚れを少量の無水アルコールで湿した綿棒で拭き取ります。



- ・ 水や中性洗剤は、絶対にメディアコントローラに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・ シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。メディアコントローラの外装を傷めたり、故障の原因となったりします。

## ディスプレイ画面

乾いた柔らかい布で、軽く拭いてください。

汚れがひどい場合は、水にひたした布をよくしぼって汚れた部分を軽く拭き、その後乾いた柔らかい布で拭いてください。



ブラウン管は傷つきやすいので、硬いものでこすったり、たたいたりしないでください。化学ぞうきんをお使いになる場合には、化学ぞうきんについている注意書をご覧ください。



## 本機の機能を拡張する 機器について

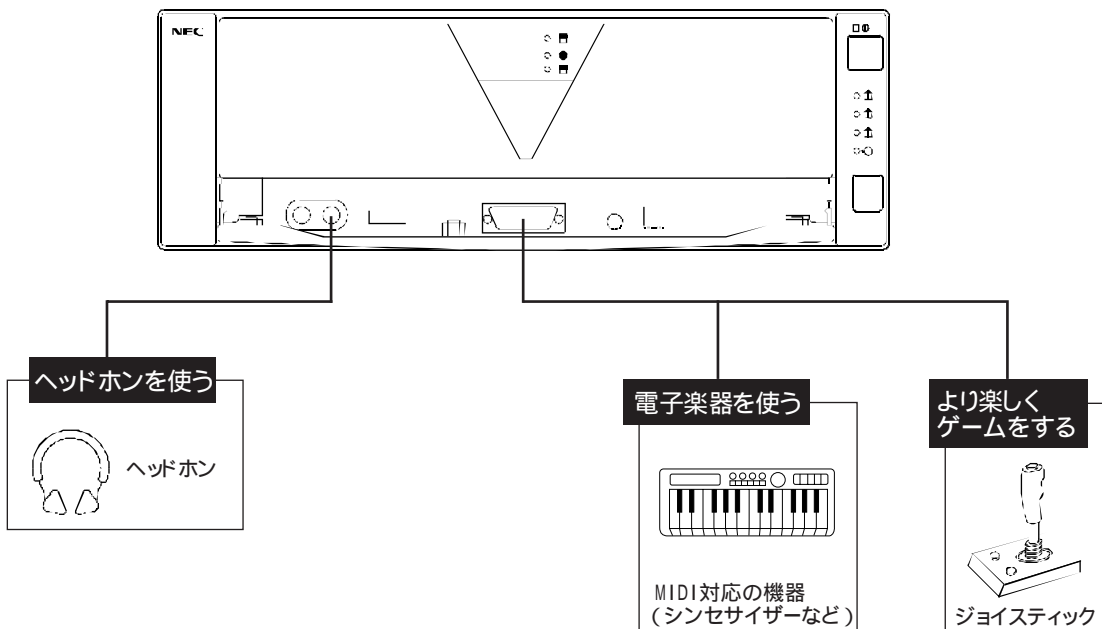
周辺機器の接続方法や扱い方、注意事項を説明しています。

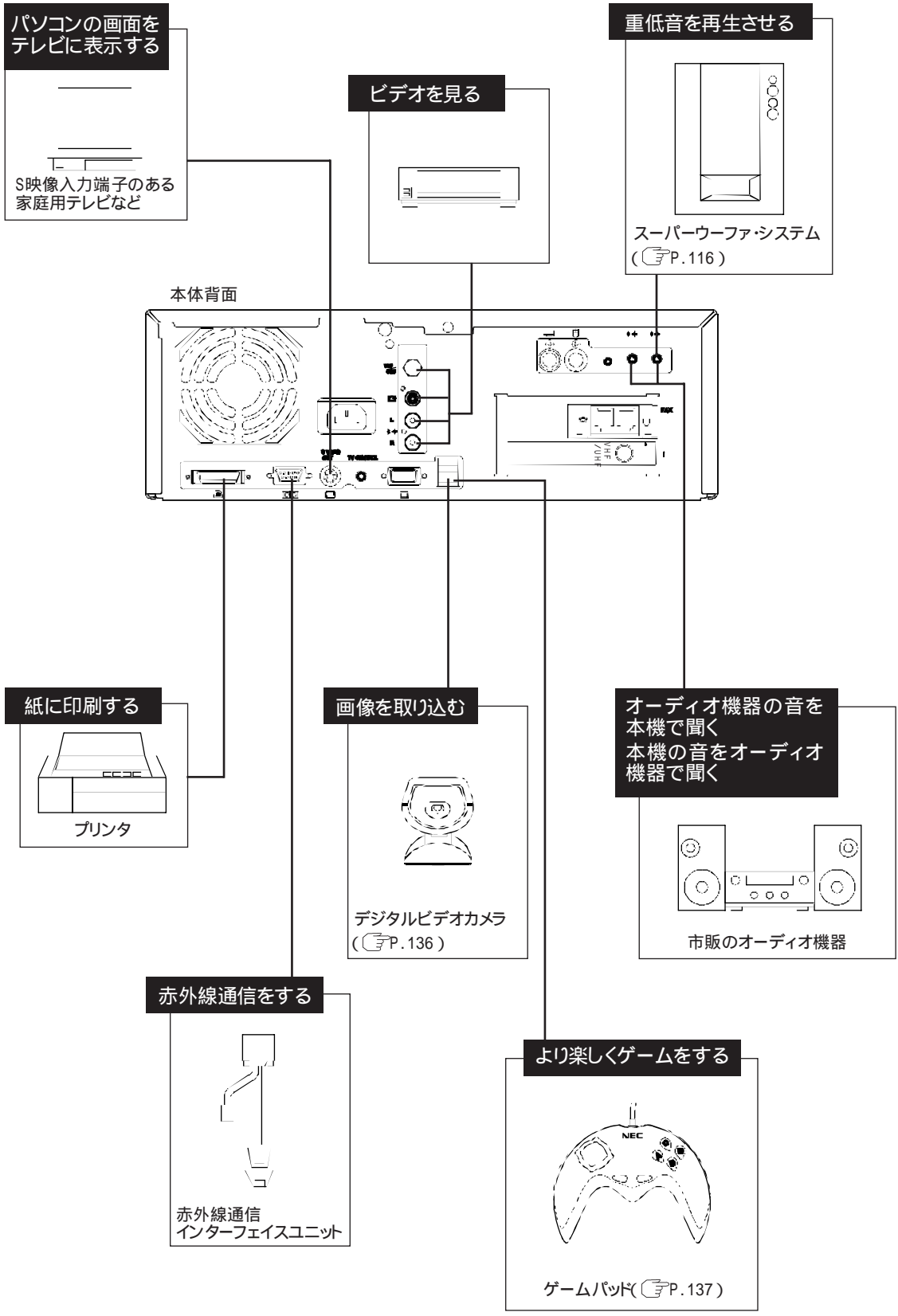
- 接続できる周辺機器について
- 機器の取り付けについて
- プリンタを使う
- ヘッドホン
- スーパーウーファ・システムを接続する
- 外部オーディオ機器を使う
- ビデオ機器を接続する
- テレビを接続する
- ジョイスティックおよびMIDI対応機器を接続する
- メモリを増やす
- シリアルコネクタに機器を接続する
- USBコネクタに機器を接続する

# 接続できる周辺機器について

本機には、次のような別売の周辺機器を接続できます。

本体前面







# 機器の取り付けについて

## 取り付けの際の注意.....

### ⚠警告



雷が鳴り出したら本機やアンテナ線、モジュラーケーブル、電源ケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け/取り外しをしたりしないでください。落雷による感電のおそれがあります。

### ⚠注意



濡れた手で触らないでください。

電源ケーブルがACコンセントに接続されているときに、濡れた手で本体に触ると、感電の原因となります。

電源ケーブルがACコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。

感電の原因となります。

周辺機器の取り付け/取り外しをするときは、必ず電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。



電源ケーブルがACコンセントに接続されたまま周辺機器の取り付け/取り外しをすると、本機や周辺機器の故障、場合によっては感電の原因となります。



本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意してください。



本体を、ルーフカバーを外したままの状態で使用しないでください。感電や火災の原因となります。



使用直後は、CPUやCPUの周辺には触れないでください。本機の使用直後はCPUが熱くなっていますので、手を触れるとやけどするおそれがあります。周辺機器の取り付け/取り外しは電源をOFFにしたあと30分以上たってから行うことをおすすめします。



・ 取り外したネジは、組み立ての際、取り付け忘れのないようにしてください。

## 別売の周辺機器について.....

本機に、別売の周辺機器 プリンタ、メモリなどを取り付ける場合、周辺機器が本機に対応していることをご確認ください。

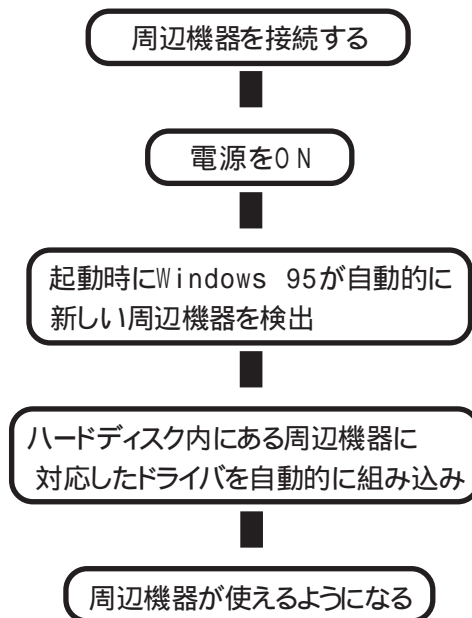
また、周辺機器によっては、使用上の制限事項がある場合があります。説明書などをよくご覧のうえ、ご使用ください。

当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元または発売元などに、上記の事項をご確認ください。

## 周辺機器用のドライバ .....

「ドライバ」は言葉のとおり、周辺機器を「動かす」ために必要なソフトウェアです。周辺機器を増設した際には、ドライバを設定します。周辺機器をどのように動かすのか、周辺機器の決まりをパソコンに教える必要があるからです。

Windows 95では、接続する周辺機器によっては、自動的にドライバが組み込まれます。



この仕組みに対応した周辺機器であり、かつハードディスク内にドライバがある場合は、何もする必要がありませんが、そうでない場合は、自分でドライバを組み込まなければなりません。本書のそれぞれの機器のページや周辺機器に添付されていたマニュアルをご覧の上、ドライバの組み込みを行ってください。



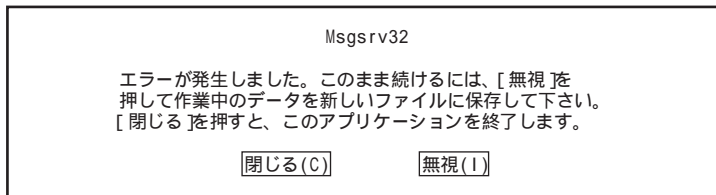
- ・ドライバの機能、セットアップ方法やお問い合わせ先については、各ドライバの READMEファイルをご覧ください。
- ・ドライバを正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使えないばかりか、本機の動作も不安定になることがあります。その場合は周辺機器のマニュアルに従って、正しくドライバを組み込み直してください。

## DirectX対応のゲーム等を使用する場合のご注意

現在インストールされているサウンドドライバは最新のバージョンです。以前のバージョンのドライバを上書きしないようにしてください。

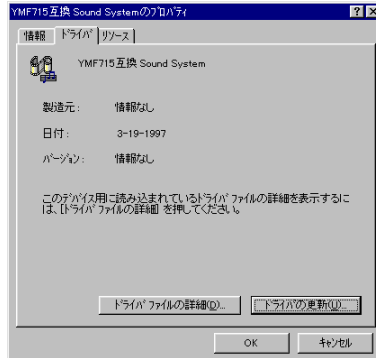
しかしアプリケーションソフトによっては、アプリケーションのインストール中にサウンドドライバが以前のバージョンへ置き換わってしまう場合があります。

再起動中に下記のようなエラーが表示されて起動できない場合は、[ 閉じる ] ボタンをクリックしてください。その後、下記の手順に従ってドライバをアップデートしてください。



- 1** Windows 95を終了し、Safe モードで本機を再起動(電源をONにしたら「Windowsを起動しています」と表示されている間に **[F8]** を押す)させます。
- 2** [ スタート ]メニューから **[ 設定 ]** を選択し、[ コントロールパネル ] を開きます。
- 3** [ コントロールパネル ] の [ システム ] アイコンをダブルクリックし、[ システムのプロパティ ] を表示させます。
- 4** [ デバイスマネージャ ] タブをクリックします。
- 5** [ サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ ] をダブルクリックします。  
[ YMF715互換 Sound System ] が表示されます。
- 6** [ YMF715互換 Sound System ] を選択して [ プロパティ ] ボタンをクリックします。

- 7** [YMF715互換 Sound Systemのプロパティ]の[ドライバ]タブをクリックします。

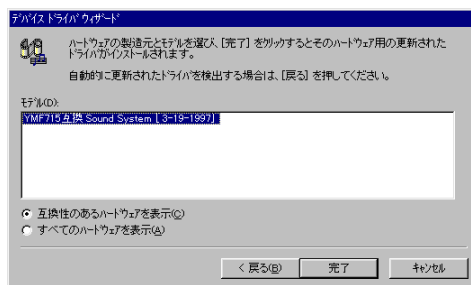


- 8** [ドライバの更新]をクリックして[デバイスドライバウィザード]を表示させます。



- 9** [一覧からドライバを選ぶ(N)]をチェックして[次へ]ボタンをクリックします。

- 10** [デバイスドライバウィザード]の[完了]ボタンをクリックします。



表示される日付は異なることがあります。

- 11** Windows 95を再起動すると正常に利用できるようになります。

## 周辺機器添付ディスクからドライバをインストールする場合の注意 (ドライバの組み込みができない場合)

新たな周辺機器を接続後、新しいハードウェア「デバイスドライバウィザード」が起動されます。ここで「次へ」ボタンをクリックし、「場所の指定」ダイアログボックスで周辺機器に添付されているマニュアル等で記述されているディレクトリを指定します。しかし、以下のように「ドライバが見つかりません」と表示され、「場所の指定」ダイアログボックスの画面に戻ってしまい、ドライバのインストールが実行できない場合があります。このような場合、下記のインストール手順でドライバをインストールしてください。



- 1 上記のエラーが表示された状態で、「完了」ボタンをクリックし、処理を終了させます。
- 2 「スタート」メニューから「設定」を選択し、「コントロールパネル」を開きます。
- 3 「コントロールパネル」の「システム」アイコンをダブルクリックし、「システムのプロパティ」を選択します。
- 4 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 5 新たに使用する周辺機器は「その他のデバイス」の下に登録されていますので、該当するデバイス名を指定し、「プロパティ」ボタンをクリックします。
- 6 「ドライバ」タブをクリックします。
- 7 「ドライバの更新」ボタンをクリックし、起動される「デバイスドライバウィザード」から、「場所の指定」にオプション機器のマニュアル等で記述されているフォルダを指定します。
- 8 「一覧からドライバを選ぶ」をクリックして「次へ」ボタンをクリックします。
- 9 一覧からデバイスの種類を選び、「次へ」ボタンをクリックします。

- 10** [ ディスク使用 ] ボタンをクリックします。  
この後は、周辺機器に添付されているマニュアルを参照しながら、画面の指示に従ってください。

### 周辺機器添付ディスクからドライバをインストールする場合の注意 (ドライバの媒体を要求される場合)

プリンタなどのオプション機能に添付されているフロッピーディスクからドライバをインストールする場合、「Windows 95 Disk xxラベルの付いたディスクを挿入して [ OK ] を押してください」というようなメッセージが表示されるときがあります。  
この場合、まず [ OK ] ボタンをクリックしてください。続いて [ ファイルのコピー元 ] を入力する画面が表示されますので、「A: ¥WINDOWS¥OPTIONS ¥CABS 」と入力し [ OK ] ボタンをクリックしてください。この後は、周辺機器に添付されているマニュアルを参照しながら画面の指示に従ってください。



### 周辺機器とドライバの状態を調べる

Windows 95のコントロールパネルを使って、組み込んだドライバの状態を調べることができます。コントロールパネル内にある「システム」のアイコンを開き、「デバイスマネージャ」のタブをクリックしてください。接続されている周辺機器の一覧が表示できます。



ここで、もし各アイコンに赤い「x」印や黄色い「!」印がついていたなら、ドライバや周辺機器に何らかの障害が発生していることを示しています。

アイコンが正しく表示されていれば、その周辺機器は正しく動作しています。



「スタンダードディスプレイアダプタ」と「YMF715 互換MPU401」と「NEC OpenHCD USB Host Controller」に赤い「x」印がついていますが、異常ではありません。

## 本機に添付されている周辺機器用ドライバ

周辺機器をセットアップする際のドライバは、最新版が「チュートリアルCD-ROM」の¥driversディレクトリに格納されていますので、そのドライバを使用してください。格納されているドライバの種類については、¥drivers¥readme.txtを参照してください。「チュートリアルCD-ROM」にないドライバについては「Windows 95 Companion CD-ROM」に格納されているドライバをご使用ください。



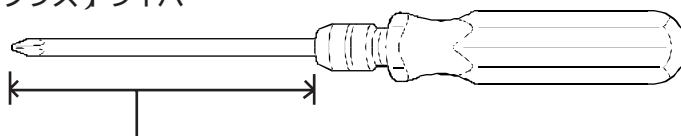
- ・ 周辺機器のドライバやマニュアルがWindows 3.1用のものしかない場合は、上記の手順でドライバを探してご使用ください。
- ・ 周辺機器に添付されているドライバがWindows 95用で、上記の手順でドライバが見つからない場合は、周辺機器に添付のドライバを使用してください。

なお、ドライバは本機出荷後にバージョンアップすることがあります。PC-VANなどの各BBSに登録されている情報を参照し、必要に応じてダウンロードしてください。また、PC-VANのジャンプコードなどについては『困ったときにお読みください』のPart 2の「NECのサポート体制について」をご覧ください。

## 必要な工具について.....

本機では、カバー類の取り外し/取り付けや、周辺機器の取り付け/取り外しをする場合に、次のような工具が必要です。

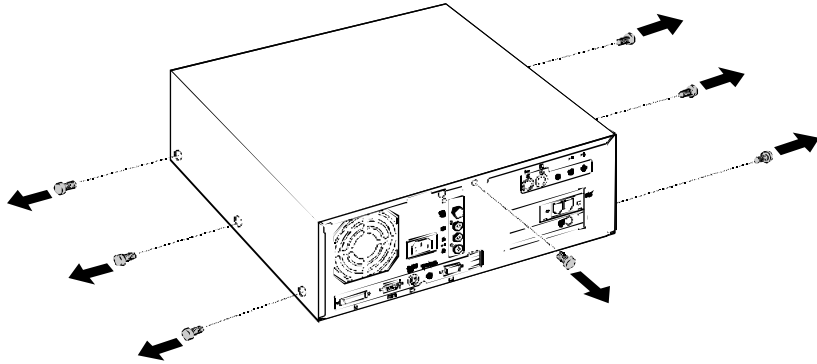
- ・+(プラス)ドライバ



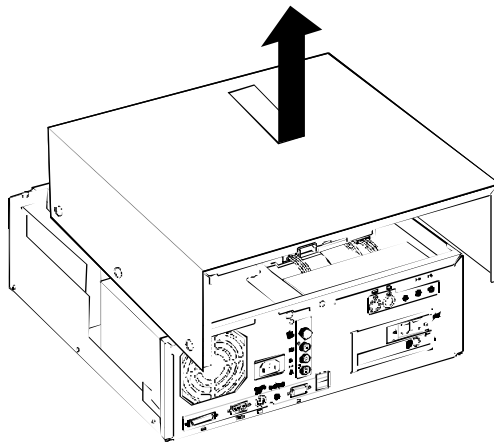
この部分が長い方が、作業が容易に行えます。

## ルーフカバーの外しかた .....

- 1** 本機の電源をOFFにします。
- 2** 電源ケーブルを抜きます。
- 3** 本体側面のネジ6本と、背面のネジ1本を外します。



- 4** ルーフカバーを後方に引き出してから、上方向に持ち上げて取り外します。



取り外したネジは、なくさないように大切に保管してください。また、ルーフカバーを取り付けるときに、ネジを付け忘れないようにしてください。



# プリンタを使う

プリンタは、パーソナルコンピュータが処理したデータや、画面に表示されているデータを紙に印字する装置です。

## プリンタを接続する.....

### ⚠注意



感電注意




発火注意

作業の前に本機の電源をOFFにし、電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。

電源ケーブルを接続したままで作業すると、感電、発煙の原因となります。

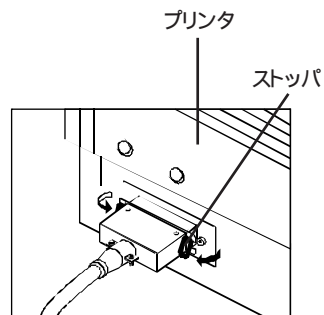
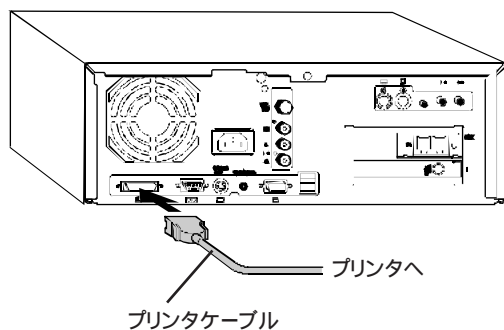


プリンタと本機との接続には、36ピンパラレルインターフェイスに対応した別売のプリンタケーブル（PC-CA202/204）を使用してください。

- 1 本機の電源をOFFにします。
- 2 電源ケーブルを抜きます。
- 3 プリンタケーブルの小さい方のケーブルコネクタを、本体背面の  と書かれたコネクタに差し込みます。
- 4 大きい方のケーブルコネクタを、プリンタのコネクタに差し込み、ストップで止めます。



プリンタは、機種によって接続するコネクタの位置が異なります。詳しくは、使用するプリンタのマニュアルをご覧ください。



- 5 プリンタの電源ケーブルプラグを、ACコンセントに奥までしっかり差し込みます。

# プリンタの設定をする.....

プリンタを使うには、どんなプリンタを使用するかを設定する必要があります。



プリンタの設定をする前に、プリンタの製造元と製品(モデル)名を確認してください。

## 本機にプリンタを接続して使う



- ・ セットアップを行う前に、プリンタが正しく接続されていることを確認してください。
- ・ プリンタドライバが組み込まれていないと、印刷出力時にフォントが正しく印刷されない場合があります。出荷時に組み込まれているプリンタドライバは、削除しないでください。

- 1 プリンタが正しく接続されていることを確認します。
- 2 [書庫]グループの[ユーティリティ][コントロールパネル]アイコンをクリックします。  
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- 3 [プリンタ]アイコンをダブルクリックします。  
[プリンタ]ウィンドウが表示されます。  
すでに設定済みのプリンタがある場合は、[プリンタ]ウィンドウにプリンタのアイコンが表示されています。



## 4 [ プリンタの追加 アイコンをダブルクリックします。

プリンタウィザードが表示されます。



## 5 [ 次へ ] ボタンをクリックします。

## 6 表示されるリストの中から、使用するプリンタの製造元とプリンタ、または、互換性のあるプリンタを選択します。



## 7 [ 次へ ] ボタンをクリックします。



プリンタにインストールディスク(ドライバディスク)がついている場合は[ ディスク使用 ] ボタンをクリックして、インストールディスクのデータをインストールします。

## 8 表示されるリストから、プリンタを使用できるポート( 接続先 ) を選択します。



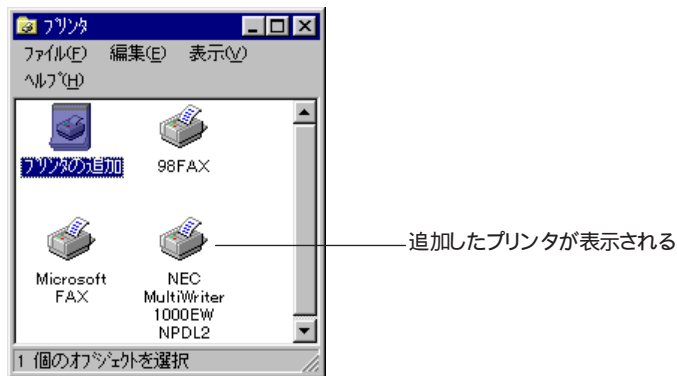
- 9 [次へ] ボタンをクリックします。
- 10 使用するプリンタに名前を付けます。  
通常のプリンタとして使用する場合は、はい をクリックしてください。



- 11 [次へ] ボタンをクリックします。
- 12 テストページを印刷する場合は、「はい」を選択します。
- 13 設定が終了したら、[完了] ボタンをクリックします。

手順 7でインストールしなかった場合、インストールディスクが必要な場合は、[ ディスクの挿入 ] ウィンドウが表示されますので、プリンタに添付されているマニュアルをご覧のうえ、指定されたディスクをセットしてください。

設定が全て終了すると、新しく追加したプリンタのアイコンが [ プリンタ ] ウィンドウに表示されます。



## プラグアンドプレイ(PnP)対応プリンタを使う場合の注意事項

プラグアンドプレイ(PnP)対応プリンタ(以下、PnPプリンタとします)を本機と接続し、プリンタの電源を入れて、Windows 95を起動すると、PnPプリンタが検出され、プリンタドライバを組み込むために「デバイスドライバウィザード」が起動します。

このときにPnPプリンタの製造元から提供されているプリンタドライバのディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、「デバイスドライバウィザード」の「次へ」ボタンをクリックしても、「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした」と表示され、プリンタドライバの組み込みができない場合があります。このような場合には、「完了」ボタンをクリックして「デバイスドライバウィザード」を一度終了し、以下の手順でPnPプリンタのプリンタドライバを組み込んでください。

- 1** 「書庫」グループの「ユーティリティ」の「コントロールパネル」アイコンをクリックし、「プリンタ」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「プリンタ」フォルダにある「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックします。
- 3** 「プリンタウィザード」が起動したら、「次へ」ボタンをクリックします。
- 4** 「ディスク使用」ボタンをクリックします。
- 5** 「フロッピーディスクからインストール」が表示されたら、PnPプリンタの製造元から提供されているプリンタドライバのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、「配布ファイルのコピー元」にフロッピーディスクのドライブ名を指定して「OK」ボタンをクリックします。
- 6** 「プリンタウィザード」の「プリンタ」にご使用になるPnPプリンタの名称が表示されますので、「次へ」ボタンをクリックしてください。
- 7** 「プリンタウィザード」の「利用できるポート」からプリンタで使用するポートを選択し、「次へ」ボタンをクリックします(通常は「LPT1: プリンタポート(36pinパラレルインターフェイス)」を選択します)。
- 8** PnPプリンタをWindowsアプリケーションで通常使用する場合は、「Windowsアプリケーションで、このプリンタを通常のプリンタとして使いますか?」の箇所では「はい」をクリックしてください。「はい」にチェックが入ったことを確認し、「完了」ボタンをクリックすると、ファイルのコピーが始まり、必要なファイルをシステムにコピーします。

**9** [ プリンタのインストール完了 画面で [ 終了 ] ボタンをクリックしてください。



手順**9**の終了後にデバイスドライバウィザードが起動する場合は、デバイスドライバウィザード内の [ キャンセル ] ボタンをクリックしてください。

**10** [ スタート ] ボタン - [ Windowsの終了 ] をクリックし、[ コンピュータを再起動する ] をクリックして [ はい ] ボタンをクリックしてください。本機が再起動します。

以上でプリンタドライバの組み込みは完了です。



## プリンタの種類

プリンタは印字方式の違いから、いくつかの種類に分けられます。

### ドットインパクトプリンタ(シリアルプリンタ)

インクリボンに紙を押し当て、インクリボンの上から、細いピンでドット(点)を打ち付けて印刷します。印刷音が比較的大きく、印刷品質もやや落ちますが、印刷コストが低いといった利点があります。

### 熱転写プリンタ

熱で溶けるインクリボンに紙を押し当て、インクリボンの上から、熱したヘッドを押しつけて印刷します。印刷品質が比較的高く、鮮やかなカラー印刷ができますが、その反面、印刷コストが高く、印刷速度も遅くなります。

### インクジェットプリンタ

紙にインクを吹きかけることによって印刷します。消費する電力も小さく、印刷音も静かなうえ、比較的速く印刷できます。


### ページプリンタ

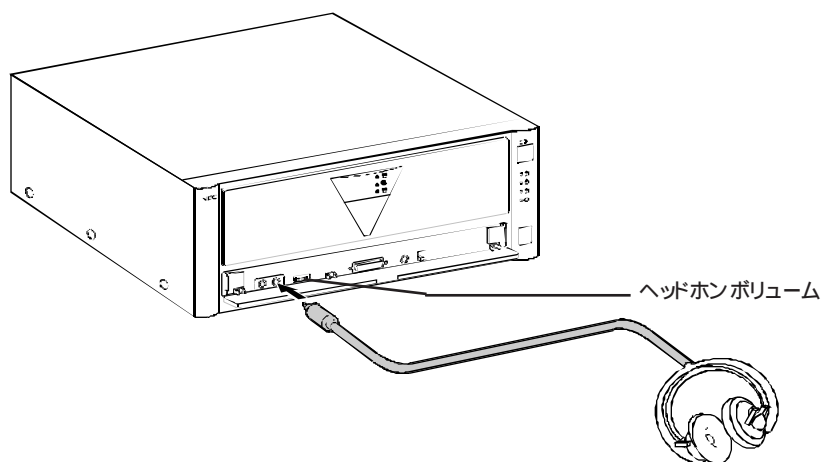
コピー機と同様の原理で、トナーという細かい粉を紙に付着させて印刷します。消費電力はやや大きくなりますが、印刷速度が速く、高品質な印刷ができます。

# ヘッドホン

## ヘッドホンを接続する.....

再生した音楽などをヘッドホンで聴くときは、市販のヘッドホンを接続してください。

ヘッドホンのミニプラグを本体前面の「」と書かれた端子に差し込みます。  
ヘッドホンは、耳にあてたまま接続しないでください。



- ・ ヘッドホン端子には、ヘッドホン以外の機器を接続しないでください。故障の原因となります。
- ・ ヘッドホンをご使用になる際は、ヘッドホンボリュームで音量を小さくしてからヘッドホンを接続し、その後適切な音量に調整してください。

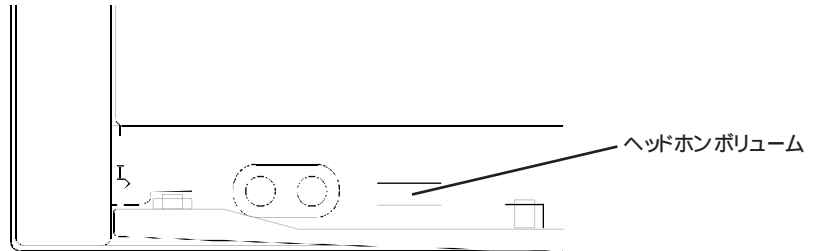


- ・ ヘッドホンの音量調節は、ヘッドホンボリュームで行います。Windows 95の「ボリュームコントロール」の音量つまみが最小またはミュートになっていると、ヘッドホンボリュームを調節してもヘッドホンから音は出力されません。
- ・ ヘッドホンを接続しても外部スピーカの音量は変わりません。外部スピーカの音量はそれぞれの機器で調整してください。

# ヘッドホンのボリュームを調節する.....

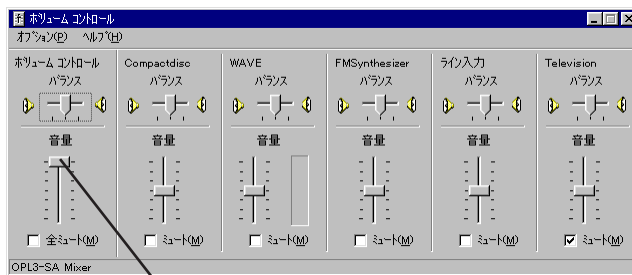
## ヘッドホンボリュームで音量を調節する場合

ヘッドホンボリュームを右へ回すと音量が大きくなり、左へ回すと音量が小さくなります。




## Windows 95で音量を調節する場合

- 1 Windows 95を起動します。
- 2 [書庫]グループの[ユーティリティ]の[ボリュームコントロール]アイコンをクリックします。  
[ボリュームコントロール]ウィンドウが表示されます。
- 3 [ボリュームコントロール]の音量つまみの部分でボリュームを調節してください。



このつまみをドラッグしてボリュームを調節する

- 4 調節が終わったら、 ボタンをクリックして、この画面を閉じてください。

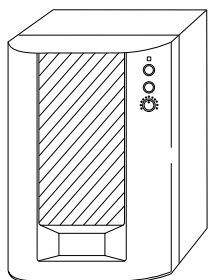
## ヘッドホンの音量設定時の注意事項

[CDプレーヤ]などでオーディオCDを再生中に、[コントロールパネル]にある[マルチメディア]アイコンをダブルクリックし、[音楽CD]タブでヘッドホンの音量調節を変更した場合、その変更が有効になるのは、次回[CDプレーヤ]などを起動したときからです。



# スーパーウーファ・システムを 接続する

別売のスーパーウーファ・システム( PC - SW700( BK ) )は、重低音を再生する専用のスピーカーです。

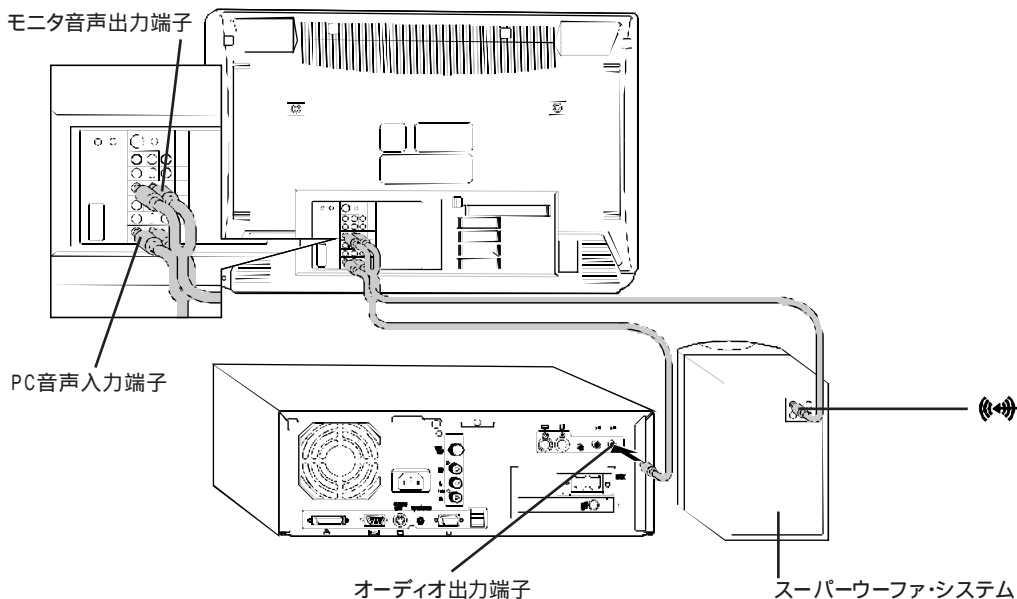


## スーパーウーファ・システムを接続する.....

### 接続方法




BSワイドディスプレイテレビを接続している場合

別売のスーパーウーファ・システムとBSワイドディスプレイテレビのモニタ音声出力端子を、市販のケーブルで接続します。



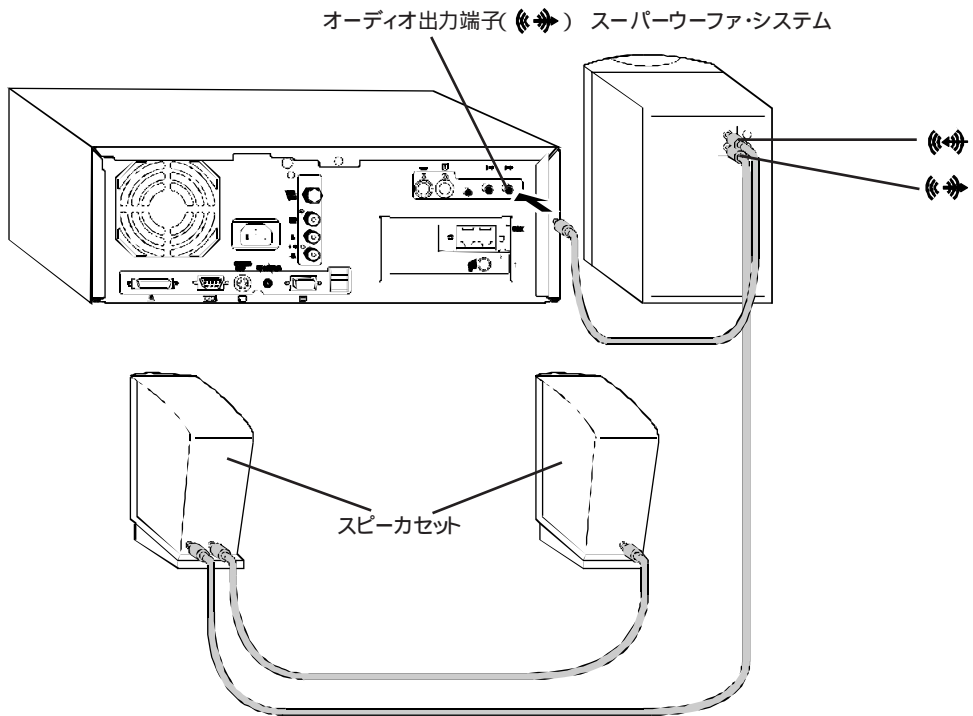
この接続の場合、テレビを単独で使用する場合もスーパーウーファ・システムから音声がでます。スーパーウーファ・システムから音声を出したくない場合は、スーパーウーファ・システムの電源をOFFにしてください。

スピーカセットを接続している場合

- 1 別売のスーパーウーファ・システムに添付のステレオミニプラグケーブルのコネクタを、スーパーウーファ・システム背面の「」と書かれた端子に接続します。
- 2 ケーブルのもう一方のコネクタを、本体背面の「」と書かれた端子に接続します。
- 3 スピーカセットのケーブルを、スーパーウーファ・システム背面の「」と書かれた端子に接続します。





- ・ ディスプレイとスーパーウーファ・システムを近づけすぎると、画面表示が乱れることがあります。
- ・ 詳しくは、スーパーウーファ・システムのマニュアルをご覧ください。



# 外部オーディオ機器を使う


## 外部オーディオ機器を接続する.....

本機で再生する音声をオーディオ機器で聴いたり、録音したりするときは、本機のオーディオ出力端子(  )とオーディオ機器の音声入力端子を接続してください。また、MDプレーヤやラジカセの音声出力端子と本機のオーディオ入力端子(  )を接続すると、MDプレーヤやラジカセの音声を本機で聴くことができます。




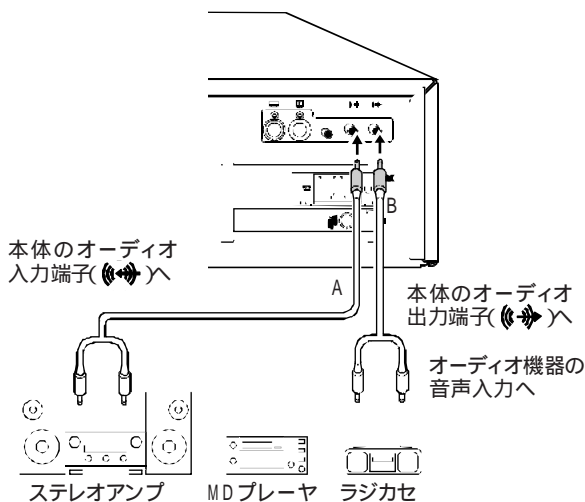
- ・ ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、本体には添付されていないので、オーディオショップなどでお買い求めください。
- ・ ステレオアンプやラジカセ、MDプレーヤの詳しい接続のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

### A. オーディオ入力端子の接続

オーディオケーブルのミニプラグを、本体背面のオーディオ入力端子(  )に接続します。

### B. オーディオ出力端子の接続

オーディオケーブルのミニプラグを、本体背面のオーディオ出力端子(  )に接続します。

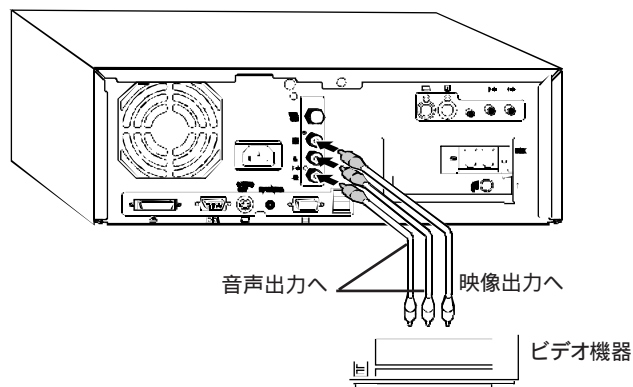


BSワイドディスプレイテレビ、またはアンプ内蔵スピーカセットを接続する場合には、本体のオーディオ出力端子を使用します。

# ビデオ機器を接続する

本機でビデオの再生画面を表示するときは、ビデオ機器を接続してください。本機には、通常のビデオ信号を入力できます。

本体背面の映像入力端子、音声入力端子にケーブルを接続します。

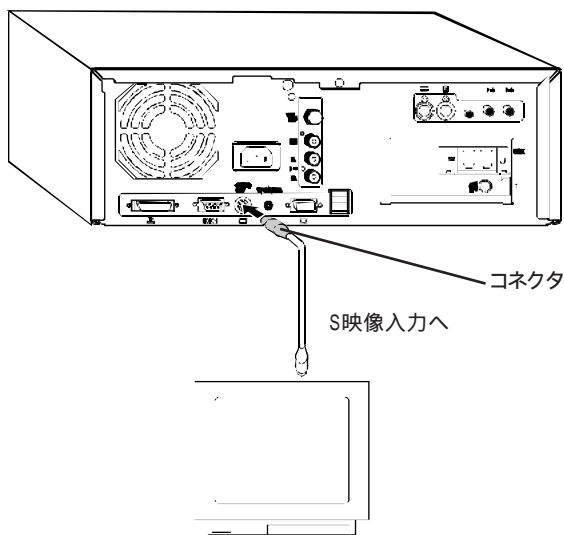


- ・ 本機ではビデオの映像を表示することはできますが、ビデオ機器の操作はできません。ビデオ機器のより詳しい接続のしかたや録画、再生などの操作は、ビデオ機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・ ビデオ機器を接続して、映像や音声にノイズが出るときは、本機とビデオ機器の距離を十分に離してください。
- ・ ビデオ機器に「画質」「シャープネス」などの調整つまみがある場合は、これらの調整位置によっては画像が乱れることがあります。画像が乱れる場合は、調整つまみで画像を調整してください。
- ・ 別売のBSワイドディスプレイテレビを使用する場合は、ディスプレイとビデオ機器をケーブルで接続してください。詳しくは、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

# テレビを接続する

本機に、S映像入力端子のある家庭用テレビなどを接続すると、本機の画面を家庭用テレビなどの画面に表示できます。

本体背面のS映像出力端子にケーブルを接続します。



- ・ 購入後最初のセットアップ、再セットアップ、MS-DOSを使用する場合には、S映像出力端子に接続したテレビは使用できません。本機を使用する際は、あらかじめ別売のパソコン用ディスプレイをご用意ください。
- ・ 本機の解像度を640×480ドットに設定してください。本機の解像度は、工場出荷時には800×600ドットに設定されていますので、800×600ドット表示に対応しているディスプレイを接続し、解像度を640×480ドットに切り替えてください。
- ・ ディスプレイとテレビなどの表示の切り替えは、テレビなどを接続した状態で行ってください。



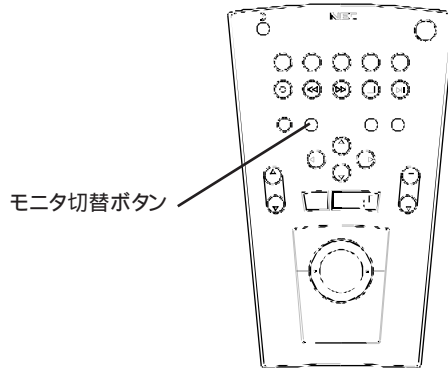
- ・ テレビに表示した場合、ディスプレイには何も表示されません。
- ・ 細かい文字などは、うまく表示できない場合があります。
- ・ 音声をテレビやオーディオ機器で聞く場合は、本機とテレビやオーディオ機器をP.118のBのように接続してください。

## 表示の切り替え方

ディスプレイとテレビを切り替えるには次の方法があります。

### メディアコントローラを利用する

メディアコントローラの「モニタ切替」ボタンを押します。



### メディアコントローラユーティリティから切り替える

- 1 [書庫]グループの[ユーティリティ]の[メディアコントローラユーティリティ]アイコンをクリックします。次の画面が表示されます。



- ・ オーバースキャン時は、画面の一部が見えません。
- ・ アンダースキャン時は、接続する機器によっては画面の一部が見えない場合があります。
- ・ スキャンモードの切り替えはメディアコントローラユーティリティで設定します。

- 2 [モニタ切替]のチェックボックスをクリック(オン)して、[ディスプレイ出力]か[テレビ出力]のどちらかをクリックします。

- 3 [OK]ボタンをクリックします。

モニタが切り替わります。

## [ モニタ切替 ]を行うときの注意

- デスクトップ領域が640×480ドットのときのみテレビ出力が可能となっています。他のデスクトップ領域の場合は、画面のプロパティなどを使用してデスクトップ領域を640×480ドットに切り替えてからモニタ切り替えを行うようにしてください。
- テレビ出力しているときに、MS-DOSフルスクリーン画面になった場合はディスプレイ表示に切り替わります。
- 98インスタントTV、インスタントCD、インスタントTELFAXを使用する場合は、テレビ出力ができませんので必ずディスプレイを接続してご使用ください。
- アンダースキャン時は、接続する機器によっては画面の一部が見えないことがあります。

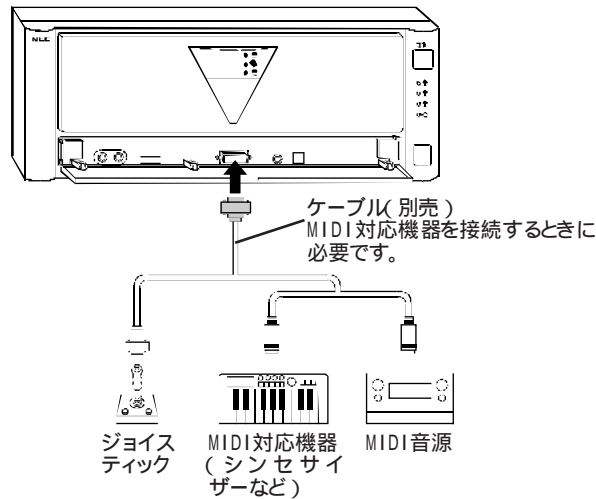
# ジョイスティックおよびMIDI対応機器を接続する

本機では、ジョイスティックを使用してゲームをすることができます。また、シンセサイザーなどのMIDI対応の機器を接続して、音楽を楽しむこともできます。ジョイスティックやMIDI対応機器は、本体前面のMIDI / ジョイスティックコネクタに接続します。



- ・ 本機のMIDI / ジョイスティックコネクタには、MPU-401対応MIDI機器またはSound Blaster16対応ジョイスティックを接続することができます。各機器については、製造元または販売元にお問い合わせください。
- ・ ジョイスティックおよびMIDI対応機器の詳しい接続のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・ MIDI機器接続用のケーブルは、パソコンショップや楽器店などでお買い求めください。
- ・ 本機にシンセサイザーなどのMIDI対応機器を接続して使用するときは、市販のMIDI音源を接続する必要があります。
- ・ 本機でのMIDI IN/OUTの切り替えについては、『困ったときにお読みください』をご覧ください。

## ジョイスティックおよびMIDI対応機器の接続のしかた







- ・ MIDI / ジョイスティックコネクタにMIDI対応機器を接続するときには、コネクタをしっかりと合わせて接続してください。コネクタがずれていると、コネクタのピンを破損するおそれがありますので、ご注意ください。
  - ・ 本機のMIDI / ジョイスティックコネクタには、サウンドボード( PC-9801-26, PC-9801-73, PC-9801-86 )対応のジョイスティックは接続できません。
  - ・ MIDIインターフェイスと2nd CCUを同時に使用することはできません。
  - ・ MIDIから入力する場合は、システムセットアップメニューで「サウンド」を { BIOSを切り離す(MIDI有効) または 使用する(MIDI有効) } に設定してください。  
なお、その際に割り込み「IRQ5 (INT1)」を他のデバイスが使用している場合は、「IRQ5 (INT1)」を解放してからシステムセットアップメニューの設定を行ってください。
  - ・ 割り込みの確認のしかたは「Windowsで割り込みレベルを確認する」(P.155)をご覧ください。
- 

## ジョイスティックを設定する

ジョイスティックは [ 書庫 ] グループの [ ユーティリティ ] の [ コントロールパネル ] アイコンをクリックして、[ ジョイスティック ] アイコンをダブルクリックして表示される画面で設定します。

詳しくはジョイスティックに添付されているマニュアルをご覧ください。

# メモリを増やす

本機には、32Mバイトのメモリが標準で搭載されています。大量のメモリを必要とするOSやアプリケーションソフトを使用する場合には、別売の増設RAMサブボード(PC-9821-MD1、MD2)を取り付けることで、メモリを増やすことができます。

## 増設RAMサブボードについて.....

本機には、32MバイトのRAMサブボード(DIMM)が1枚、標準で取り付けられています。

さらに、次の2種類の増設RAMサブボード(DIMM)を、1枚単位で最大2枚まで取り付けることができます。

型名	メモリ容量
PC-9821-MD1	32Mバイト
PC-9821-MD2	64Mバイト

メモリは、最大128Mバイトまで増設できます。

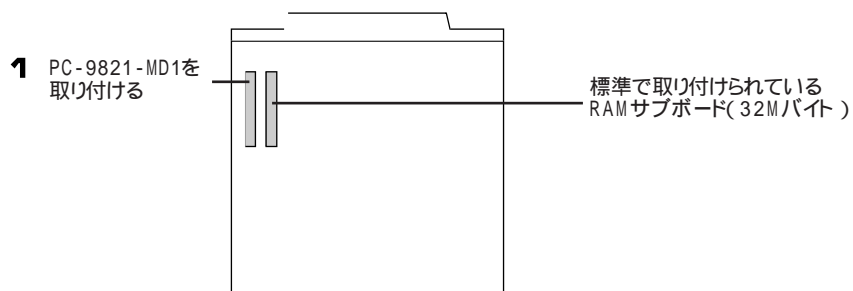
メモリを128Mバイトに増設するときは、標準で取り付けられている32MバイトのRAMサブボード(DIMM)を取り外してから、64Mバイトの増設RAMサブボード(DIMM)を2枚取り付けます。



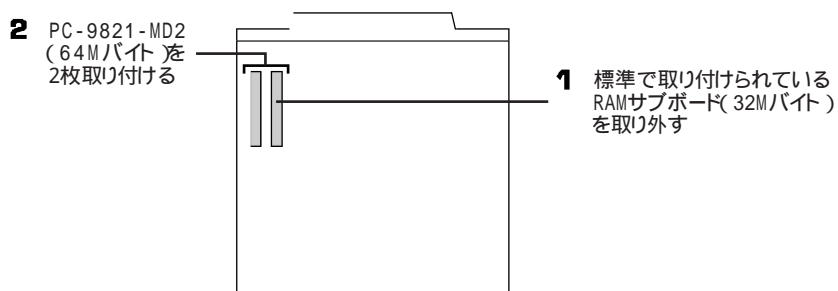
- ・ 増設RAMサブボード(SIMM)は取り付けられません。
- ・ 利用するOSにより、使用できるメモリ容量は異なります。詳しくは、各OSのマニュアルをご覧ください。
- ・ ユーザーズメモリ容量は、搭載メモリの総容量より0.4Mバイト少ない値になります。

## 増設RAMサブボードの取り付け例

例 1 ) 64Mバイト(ユーザーズメモリ63.6Mバイト)にする場合



例 2 ) 128Mバイト(ユーザーズメモリ127.6Mバイト)にする場合



本機に標準で取り付けられているRAMサブボードは、他のコンピュータでは  
使用できません。

## 増設RAMサブボードの取り付けかた

増設RAMサブボードは、本体内部の増設RAMサブボード用コネクタに取り付けます。

### ⚠注意



感電注意



発火注意

作業の前に本機の電源をOFFにし、電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。



電源ケーブルを接続したままで作業すると、感電、発火の原因となります。



発火注意

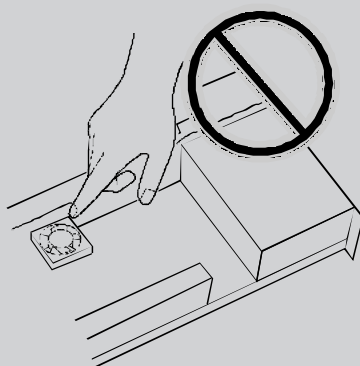
増設RAMサブボードは、正しく取り付けてください。

増設RAMサブボードを取り付けるときには、カチッと音がしてコネクタの左右のフックが確実にかかるようにしてください。確実に取り付けていないと発火の原因となることがあります。



高温注意

使用直後は、CPU、CPUの周辺、RAMサブボードには触れないでください。本機の使用直後はCPUやRAMサブボードが熱くなっていますので、手を触れるとやけどするおそれがあります。増設RAMサブボードの取り付け/取り外しは電源をOFFにしたあと30分以上たってから行うことをおすすめします。



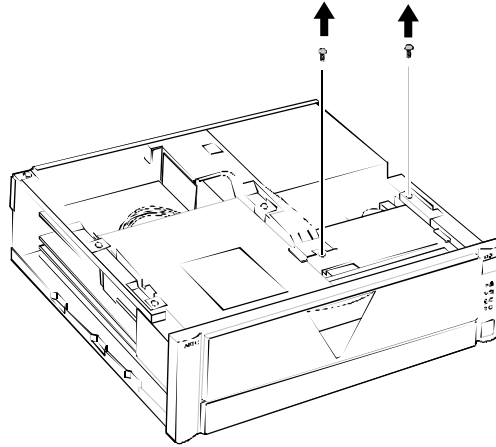
けが注意

本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意してください。

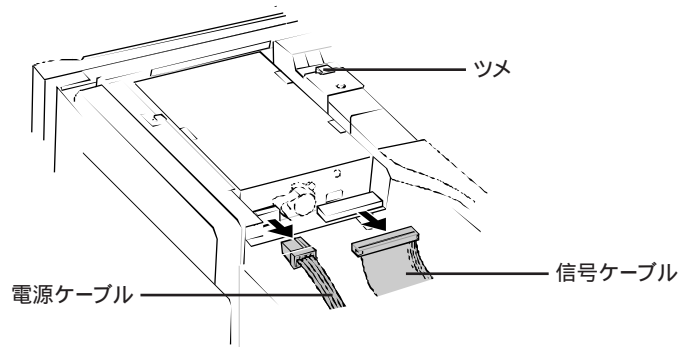


増設RAMサブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMサブボードを扱うと、増設RAMサブボードが破損する原因となります。増設RAMサブボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

- 1 ルーフカバーを外します(☞P. 107 )
- 2 3.5インチフロッピーディスクドライブを固定しているネジ2本を取り外します。



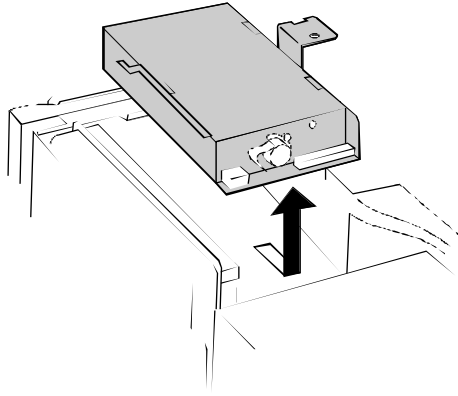
- 3 3.5インチフロッピーディスクドライブに接続されている信号ケーブル、電源ケーブルを外します。



ケーブルを外すときは、コネクタのピンが曲がらないように注意してください。

- 4 3.5インチフロッピーディスクドライブを本体背面側にスライドさせ、上部のツメから外します。

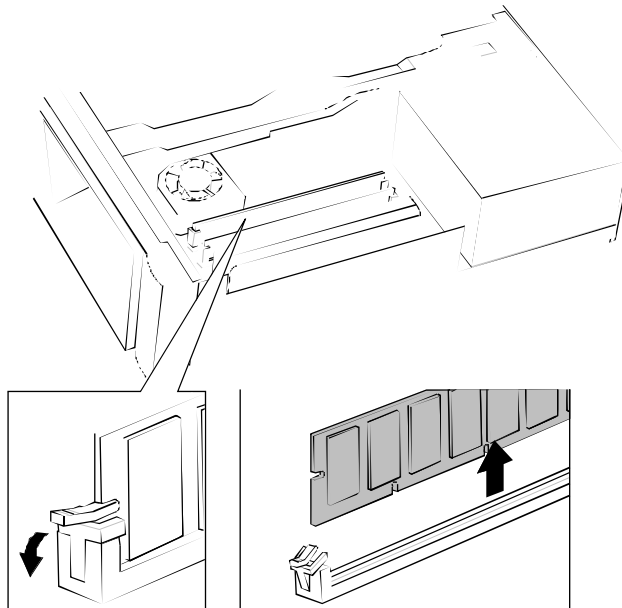
**5** 3.5インチフロッピーディスクドライブを取り外します。



標準で取り付けられているRAMサブボードの取り外し方

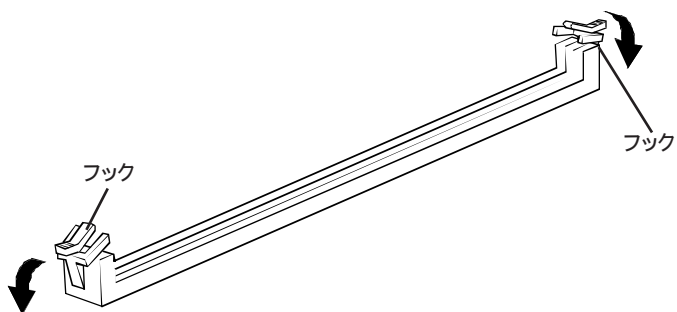
本体に標準で取り付けられているRAMサブボードを取り外すには、次のようにします。

- 1** 左右2ヶ所のフックを外側に広げます。

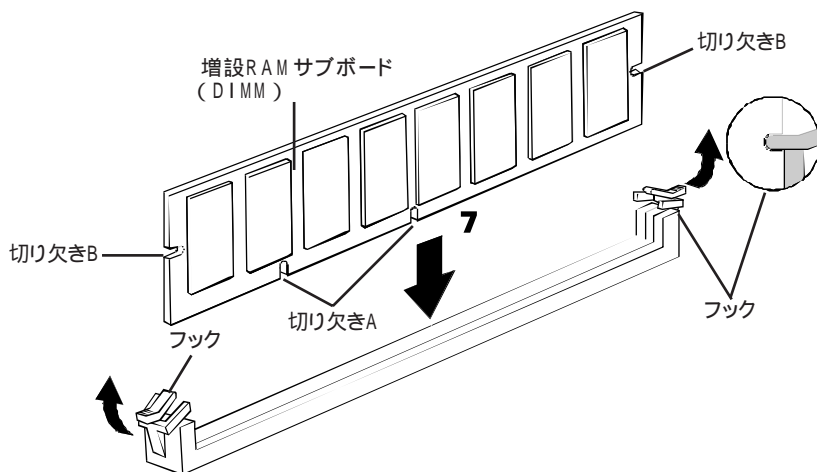


- 2** 標準で取り付けられているRAMサブボード(DIMM)をまっすぐ上に引き抜きます。

- 6** 増設RAMサブボード用コネクタの左右2ヶ所のフックを外へ広げます。



- 7** 増設RAMサブボード(DIMM)を切り欠きAの位置に注意して、増設RAMサブボード用コネクタに垂直に差し込みます。

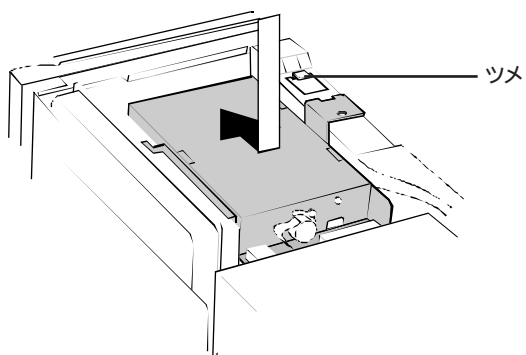


フックの形状は、図と多少異なることがあります。

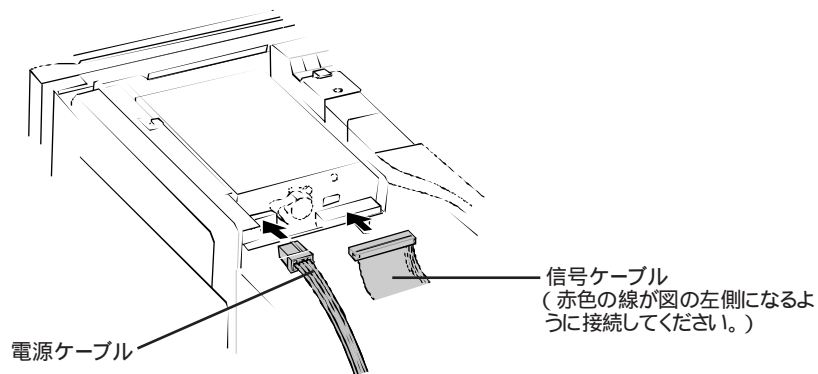
- 8 このとき、増設RAMサブボード(DIMM)を奥までしっかり押し込みます。正しく取り付けられると、左右2ヶ所のフックが切り欠きBに引っかかります。
- 9 左右の切り欠きBに、フックが引っかかっていることを確認してください。



- 10** 3.5インチフロッピーディスクドライブを本体前面側にスライドさせ、上部のツメにひっかけて本体に取り付けます。

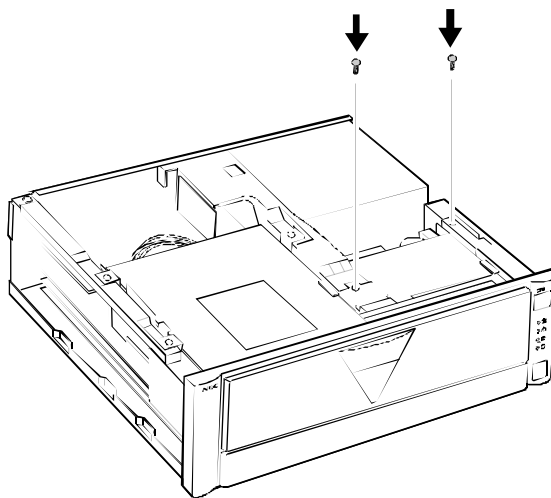


- 11** 3.5インチフロッピーディスクドライブに信号ケーブル、電源ケーブルを接続します。



ケーブルを接続するときは、コネクタのピンが曲がらないように注意してください。

**12** 手順 **2**で外したネジ2本で、3.5インチフロッピーディスクドライブを固定します。

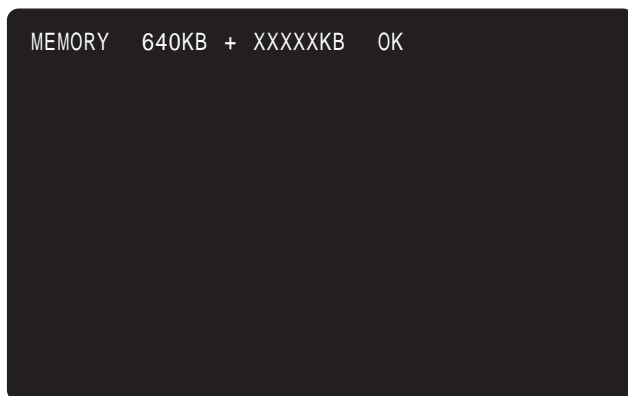


**13** ルーフカバーを外したときと逆の手順で取り付け、手順 **1**で外したネジで固定します。

# 増やしたメモリ容量を確認する.....

増やしたメモリ容量が認識されたかどうかを確認します。

- 1 メモリの増設後、電源をONにします。  
メモリチェックの画面が表示されます。



- 2 増やした分だけ、メモリ容量が増えていることを確認します。




メモリ容量が増えていなかったら、次のことを確認してください。

- ・ メモリが正しく接続されているか
- ・ 本機で使えるメモリを取り付けているか
- ・ メモリの組み合わせは正しいか



## Windows 95でメモリ容量を確認する


増やしたメモリはWindows 95でも確認できます。

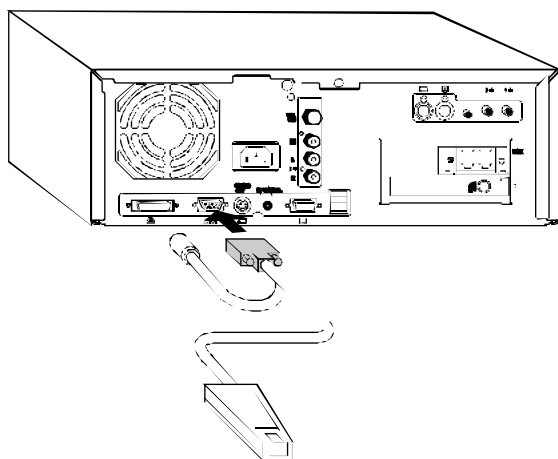
- 1 [書庫]グループの[ユーティリティ]の[コントロールパネル]をクリックします。  
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- 2 [システム]アイコン  をダブルクリックします。  
[システムのプロパティ]ウィンドウが表示されます。  
[情報]タブまたは[パフォーマンス]タブで確認することができます。

# シリアルコネクタに機器を接続する

本体背面のシリアルコネクタには、別売の赤外線通信インターフェイスユニットを接続できます。赤外線通信インターフェイスユニットを接続すると、赤外線通信機能を持つノートパソコンなどとの間でデータの送受信ができます。

## 赤外線通信インターフェイスユニットの接続のしかた

- 1 本機の電源をOFFにします。
- 2 電源ケーブルを抜きます。
- 3 別売の赤外線通信インターフェイスユニット( PC - 9821 - U03R )のコネクタを本体背面の「2[]」と書かれたコネクタに接続します。



- ・ MIDI インターフェイスと2nd CCUを同時に使用することはできません。
- ・ シリアルインターフェイス(チャンネル2)に機器を接続して使用するには、システムセットアップメニューの「動作環境の設定1」で「2nd CCUを{使用する}出荷時の設定」に設定してください。この場合、割り込み「IRQ5(INT1)」を使用します。他のデバイスがIRQ5(INT1)を使用している場合は、「IRQ5(INT1)」を解放してから「2nd CCU」を使用するように設定してください。
- ・ 本体背面のシリアルコネクタは、PC-9800シリーズのシリアルインターフェイス(チャンネル2)と同じ仕様です。PC-9800シリーズのシリアルインターフェイス(チャンネル1)専用の機器を接続する場合は、別売の変換コネクタが必要です。また、シリアルインターフェイス(チャンネル1)の同期伝送モードはサポートしておりません。




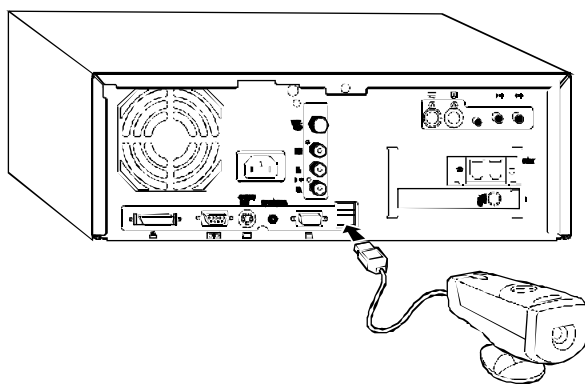
接続のしかたや通信条件などについての詳しい説明は、赤外線通信インターフェイスユニットのマニュアルをご覧ください。

# USBコネクタに機器を接続する

本体背面のUSBコネクタには、別売のデジタルビデオカメラや、ゲームパッドを接続できます。


## デジタルビデオカメラの接続のしかた

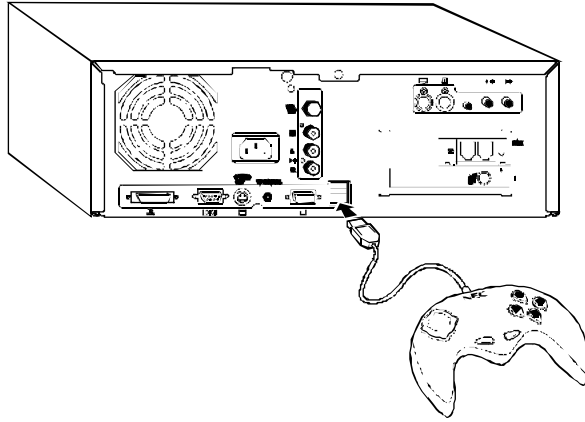
別売のデジタルビデオカメラ( PC-MC201、PC-MC201S )を本体背面の「」と書かれたコネクタに接続します。デジタルビデオカメラを接続すると、動画を取り込むことができます。



デジタルビデオカメラについての詳しい説明は、デジタルビデオカメラに添付されている取扱説明書をご覧ください。

## ゲームパッドの接続のしかた

別売のゲームパッド(PC-GP101)を本体背面の「」と書かれたコネクタに接続します。ゲームパッドを接続すると、ゲームパッド対応のゲームソフトなどの操作を、よりかんたんに楽しめます。



ゲームパッドについての詳しい説明は、ゲームパッドに添付されている取扱説明書をご覧ください。



## システムの設定を変更する

システムの設定を変更する、システムセットアップメニューとメモリスイッチの役割や使用方法を説明しています。

システムセットアップメニュー

メモリスイッチ(98環境設定ユーティリティ)

割り込みレベル・DMAチャンネル・ROMアドレス空間



# システムセットアップメニュー

システムセットアップメニューは、使用するアプリケーションソフトや接続する周辺機器に合わせて本機の設定を変更するためのメニューです。システムセットアップメニューは、工場出荷時にあらかじめ設定されているので、特に必要のない場合は変更しないでください。

## 起動のしかた.....

本体の電源がOFFになっている場合

- 1 キーボードの **[HELP]** を押しながら、電源スイッチを押して電源をONにします。  
または、キーボードの **[HELP]** を押しながら、メディアコントローラの「電源」ボタンを押して、電源をONにします。  
システムセットアップメニューの「メインメニュー画面」が表示されます。

本体の電源がすでにONになっている場合

- 1 Windows 95を終了し、本機の電源をOFFにします。  
他のOSを使用している場合は、OSの終了手順に従って、本機の電源をOFFにします。
- 2 キーボードの **[HELP]** を押しながら、電源スイッチを押して電源をONにします。  
システムセットアップメニューの「メインメニュー画面」が表示されます。



**[HELP]** は、システムセットアップメニューが表示されるまで押したままにしてください。

# 操作のしかた.....

システムセットアップメニューを起動すると、まず「メインメニュー画面」が表示されます。システムセットアップメニューは、この「メインメニュー画面」から各「メニュー画面」を呼び出します。

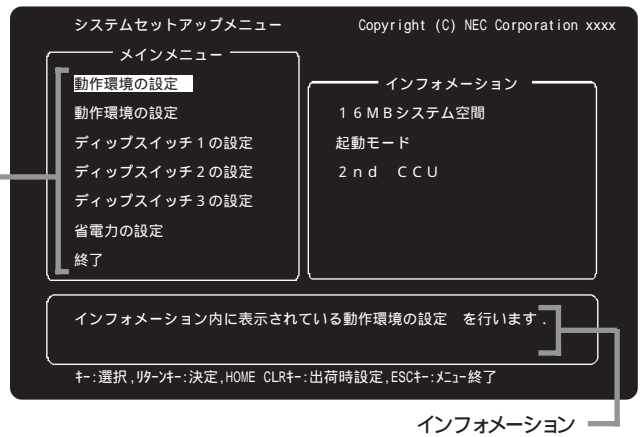
各機能の設定は、「メニュー画面」で行います。


## 「メニュー画面」の呼び出し方

- 1 キーボードの **[↑]** を押して、呼び出したいメニューを反転させます。

反転させると、そのメニューで設定できる項目が「インフォメーション」に表示されます。

- 2 キーボードの **[↓]** を押します。  
1で反転させたメニューの「メニュー画面」が表示されます。



 「メインメニュー画面」でシステムセットアップメニューの操作を中止する場合には、キーボードの **[ESC]** を押すか、「メインメニュー」の「終了」を選び、**[↓]** を押します。

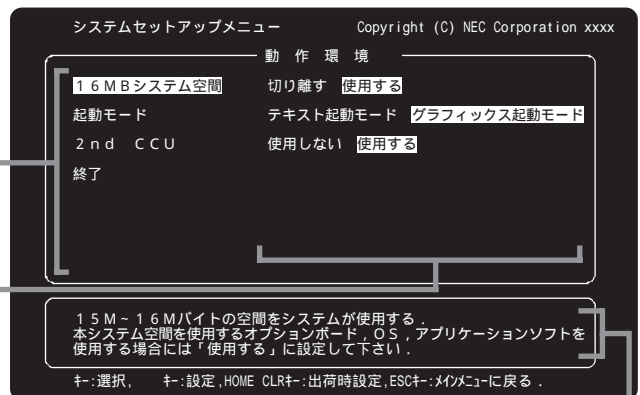
## 機能の設定のしかた

- 1 キーボードの **[↑]** を押して、設定したい項目を反転させます。

- 2 キーボードの **[←]** を押して、1で反転させた項目の設定値を選びます。

- 3 設定が終了したら、次のどちらかの方法で、「メニュー画面」を終了します。

- ・ キーボードの **[ESC]** を押す
- ・ 「終了」を選び、キーボードの **[↓]** を押す



設定する項目についてのヘルプメッセージが表示されます。「ディップスイッチ1~3の設定」では、ディップスイッチイメージも表示されます。

「メニュー画面」を終了すると、「メインメニュー画面」に戻ります。

## システムセットアップメニューの終了のしかた

次のどちらかの方法で、システムセットアップメニューを終了します。

- ・ キーボードの **ESC** を押す
- ・ 「メインメニュー」の「終了」を選び、キーボードの **↵** を押す

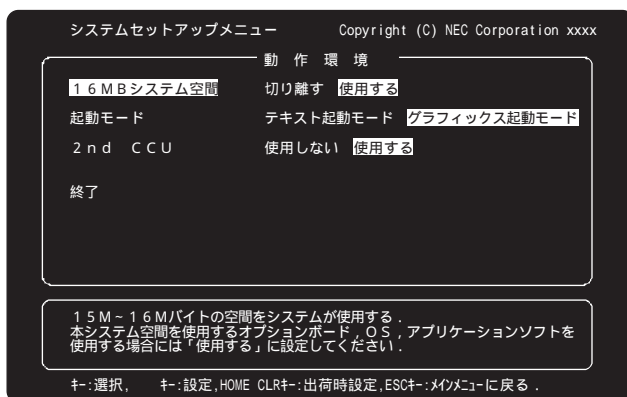
システムセットアップメニューを終了すると、自動的にリセットされ、本機が新しい設定で再起動します。

## システムセットアップメニューの設定を工場出荷時の設定に戻す方法

システムセットアップメニューが起動した状態で、キーボードの **HOME CLR** を押します。

## 動作環境の設定.....

### 動作環境の設定



(工場出荷時の設定)

### 16MBシステム空間

メモリアドレスF00000h ~ FFFFFFFhの空間を16MBシステム空間といいます。Windowsは、この空間をシステム管理用に使うので、通常は**使用する**に設定します。

{ 切り離す }	メモリアドレスF00000h ~ FFFFFFFhを増設したメモリとして使います。
{ 使用する }	メモリアドレスF00000h ~ FFFFFFFhを16MBシステム空間として使います。 次のようなときは、{ 使用する }に設定してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ Windowsを使用するとき</li><li>・ 16MBシステム空間を使用するボードを取り付けたとき</li><li>・ 16MBシステム空間を使用するOSやアプリケーションソフトをお使いになるとき</li></ul>



{使用する}に設定した場合、メモリチェック時に表示されるメモリ容量は、実際のメモリ容量より1Mバイト少ない容量が表示されます。

## 起動モード

本機の電源をONにしたときのモードを設定します。

{テキスト起動モード}	グラフィックスを表示せずに、メモリチェックの内容を表示します。
{グラフィックス起動モード}	グラフィックスを表示し、メモリチェックの内容を表示します。



- ・ キーボードの **[TAB]** を押しながら本機の電源をONにすると、起動モードの設定にかかわらずテキスト起動モードになります。
- ・ テキスト起動モードに設定して本機の電源をONにしたときに、「固定ディスク起動メニュープログラム」が表示された場合は、「1:Windows 95」が選択されていることを確認してキーボードの **[Esc]** を押してください。
- ・ MS-DOSやWindows 95のMS-DOSモードなどを使用するとき、起動時のグラフィックスが不必要な場合は{テキスト起動モード}に設定して起動してください。

## 2nd CCU

シリアルインターフェイスを使用するかどうかを設定します。シリアルインターフェイスに別売の機器を接続する場合は、{使用する}に設定してください。



本機のシリアルインターフェイスはPC-9800シリーズのシリアルインターフェイス(チャンネル2)と同じ仕様です(☞P.135)。本機には、PC-9800シリーズのシリアルインターフェイス(チャンネル1)と同じ仕様のシリアルインターフェイスはありません。

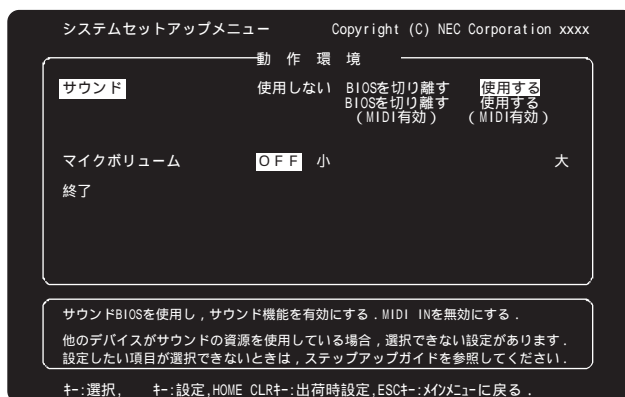


- ・ 2nd CCUを使用する場合、次の資源を使用します。

I/Oポート	238-23F
割り込みレベル	IRQ5( INT1 )

- ・ {使用する}に設定できない場合は、他のデバイスが上記の資源を使用しています。この場合、他のデバイスが使用している資源を解放してから、設定を行ってください。
- ・ サウンド機能のMIDI INや、オプションボードで割り込みレベル「IRQ5( INT1 )」を使用する場合は、2nd CCUを{使用しない}に設定してください。

## 動作環境の設定



(工場出荷時の設定)

### サウンド

本体に内蔵されたサウンド機能を使用するかどうかを設定します。

{ 使用しない }	サウンドに関する機能が使用できなくなります(電源をONにしたときの音は、テキスト起動モード時の「ピポッ」という音になります)。この設定を行うことにより、サウンド機能が使っていた割り込みチャンネルが使用できるようになります。また、「マイクボリューム」の設定は無効になります。
{ BIOSを切り離す }	MIDI INが使用できない環境で、サウンド機能とEMSを同時に使用し、EMSのページフレームアドレスをCC000h ~ CFFFFh番地に設定するときに設定します。
{ 使用する }	MIDI INが使用できない環境で、サウンド機能が使用できます。
{ BIOSを切り離す (MIDI有効) }	MIDI音源が使用できる環境で、サウンド機能とEMSを同時に使用し、EMSのページフレームアドレスをCC000h ~ CFFFFh番地に設定するときに設定します。
{ 使用する (MIDI有効) }	MIDI音源が使用できる環境で、サウンド機能が使用できます。



- ・ サウンド機能を使用する場合、次の資源を使用します。

I/Oポート	F40-F47、1488-148B、C24、C2B、C2D、AC6C-AC6F、A460、188、18A、18C、18E、F4A-F4B、548E-548F、1480-1487、148C-148D、0480-0481
割り込みレベル	IRQ12( INT5 )
DMAチャンネル	#0、#1

- ・ サウンドBIOSを使用する場合、上記の資源に加えて次の資源を使用します。

ROMアドレス空間	CC000-CFFFFh
-----------	--------------

- ・ MIDI IN機能を使用する場合、上記の資源に加えて次の資源を使用します。

割り込みレベル	IRQ5( INT1 )
---------	--------------

- ・ 使用したい設定にできない場合は、他のデバイスが上記の資源を使用しています。この場合、他のデバイスが使用している資源を解放してから、設定を行ってください。
- ・ 2nd CCUや、オプションボードで割り込みレベル「IRQ5( INT1 )」を使用する場合は、MIDI IN機能を使用しない環境に設定してください。

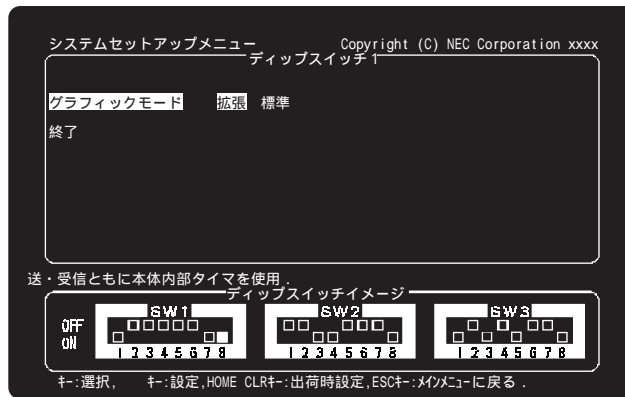
## マイクボリューム

マイクロホンの入力レベルを設定します。入力レベルが小さすぎるときや、大きすぎるときに調整してください。15段階で調整できます。通常は中央の位置で使用します。また、「OFF」に設定するとマイクロホンからの音声入力ができなくなります。



Windows95上では、ここでのマイクボリュームの設定は有効ではありません。Windows95上でのマイクボリュームの調整はP.82をご覧ください。

# ディップスイッチ1の設定.....



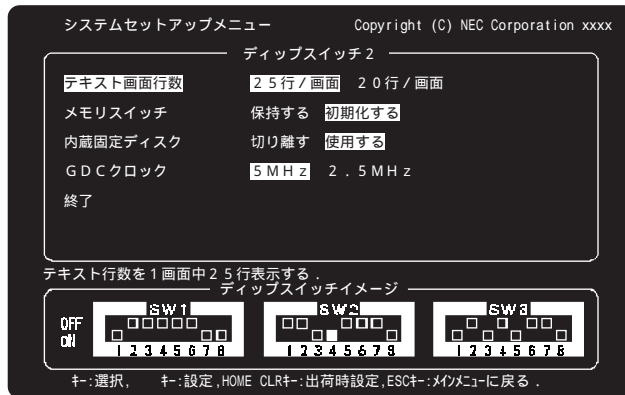
## グラフィックモード

ディスプレイの画面表示を、拡張グラフィックモードで表示するか、基本グラフィックモードで表示するかを選択します。

{ 拡張 } を選択すると拡張グラフィックモードの4096色中16色表示に、{ 標準 } を選択すると基本グラフィックモードの8色中8色表示になります。

通常は { 拡張 } で使用します。

## ディップスイッチ2の設定.....



(工場出荷時の設定)

## テキスト画面行数

テキスト画面の行数を指定します。一画面を25行で表示するか20行で表示するかを選択します。

## メモリスイッチ

メモリスイッチは、ディップスイッチと同じように、本機の状態を設定するスイッチです。メモリスイッチの内容は、Windows 95の場合は「コントロールパネル」の「98環境」で設定します(☞P. 151)。

この項目では、電源をONにするときに、変更したメモリスイッチの内容を初期化するか、変更した内容を保持するかを設定します。

メモリスイッチを変更する場合には、必ず「保持する」にしてください。

{初期化する}のままでは、電源をOFFにすると、メモリスイッチの内容が工場出荷時の初期状態に戻ってしまいます(☞P. 152)。



## 内蔵固定ディスク

本体内蔵のハードディスクを使用するかどうかを選択します。{ 切り離す }にすると、本体内蔵ハードディスクは使用できなくなります。



「起動モード」を{ グラフィックス起動モード }に設定した場合は、「内蔵固定ディスク」を{ 使用する }に設定してください。

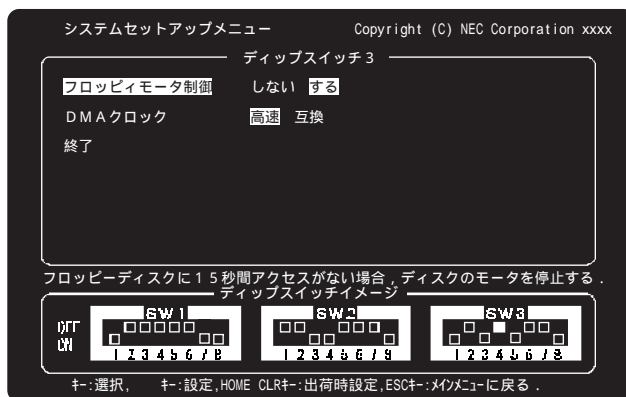
## GDC クロック

グラフィックの処理速度を選択します。

通常は、高速にグラフィック描画ができる{ 5MHz }に設定されています。

市販のアプリケーションソフトの中には、まれにこの設定で正常に動作しないものがあります。その場合は、{ 2.5MHz }に設定してください。

## ディップスイッチ3の設定.....



## フロッピーモータ制御

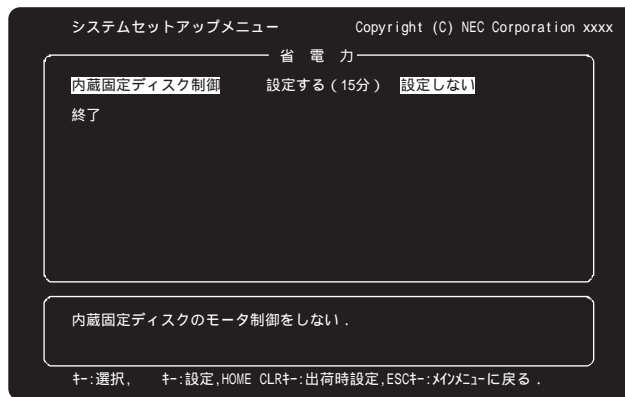
フロッピーディスクドライブのモータ制御を指定します。

{ する } に設定すると、フロッピーディスクドライブをアクセスしないで一定時間を超えるとフロッピーディスクドライブのモータが自動的に停止し、再びアクセスを行うと自動的に回転を始めます。

## DMA クロック

DMAを高速モードクロックで動作させるか、互換モードクロックで動作させるかを選択します。{ 高速 } にすると10MHzに、{ 互換 } にすると5MHzになります。通常は { 高速 } で使用します。



# 省電力の設定.....



## 内蔵固定ディスク制御

内蔵ハードディスクのモータの制御時間を設定します。

内蔵ハードディスクをアクセスしないで一定時間を超えると、内蔵ハードディスクの回転を自動的に停止します。再びアクセスを行うと自動的に回転を始めます。

{ 設定する ( 15分 ) } の設定時間は、キーボードの   を使って15分から60分まで、5分単位で変えることができます ( 設定した時間が短いほど節電に効果があります )。



Windows 95で内蔵固定ディスク制御の機能を使用する場合は、[ コントロールパネル ] の [ パワー管理 ] アイコンをダブルクリックして表示される [ 電源のプロパティ ] ウィンドウの [ ディスクドライブ ] タブで設定してください。その場合、ここでは [ 設定しない ] にしておいてください。



{ 設定する } にした場合、設定した時間になると画面が一瞬止まるように見えますが、故障ではありません。

# メモリスイッチ(98環境設定ユーティリティ)

メモリスイッチは、システムセットアップメニューと同様、本機の状態を設定するスイッチです。通常は、工場出荷時のままでよいのですが、場合によっては変更する必要があります。Windows 95をお使いの場合は、「98環境設定ユーティリティ」を使ってメモリスイッチを変更することができます。

メモリスイッチでは、次の設定を変更することができます。

- ・ 起動するドライブの検索順番を変更する(BOOT装置を変更する)



SWITCHコマンドを利用すると、上記の設定に加えて、次の項目の設定を変更することができます。

- ・ プリンタ
- ・ 画面の表示色
- ・ 数値データプロセッサの設定

SWITCHコマンドは、MS-DOSプロンプト画面から次のように入力して起動します。

SWITCH 

なお、Windows 95でSWITCHコマンドを使用するときは、MS-DOSモードから起動してください。[MS-DOSプロンプト]ウィンドウから起動しても、設定は有効になりません。MS-DOSモードと[MS-DOSプロンプト]ウィンドウについては、このマニュアルの付録の「Windows95でMS-DOSを利用する」をご覧ください。

## メモリスイッチを変更する

メモリスイッチは、Windows 95の場合は「コントロールパネル」の「98環境ユーティリティ」で設定します。

98環境設定ユーティリティでは、メモリスイッチの内容を変更/表示できます。メモリスイッチとは、コンピュータ本体内の専用メモリにあるソフトウェア的なスイッチです。メモリスイッチを変更したい場合は、98環境設定ユーティリティを使って、次の手順で変更してください。



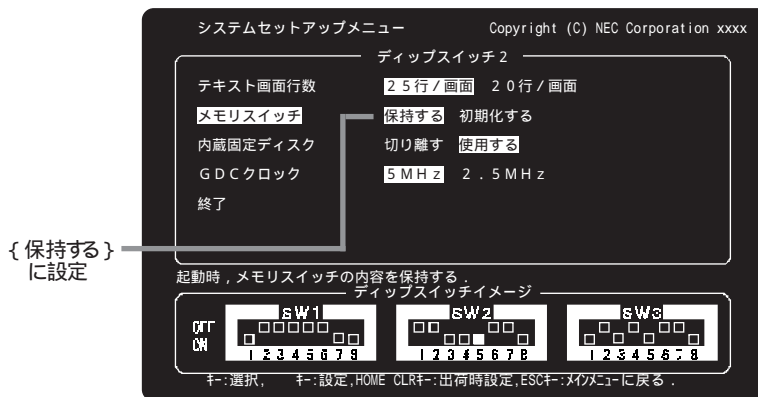
メモリスイッチを変更する前には、システムセットアップメニューの「ディップスイッチ2の設定」の「メモリスイッチ」を「保持する」(SW2-5 ON)に設定してください。「メモリスイッチ」が「初期化する」(SW2-5 OFF)のままでは、メモリスイッチの変更は保持されません。そのため、変更後に電源をOFFにすると、メモリスイッチの内容は初期化され、工場出荷時の初期状態に戻ってしまいます。



メモリスイッチの内容は、本体内蔵のバッテリーによって保たれています。本体の電源ケーブルを抜いたままの状態が2か月ほど続くと、システムセットアップメニューでメモリスイッチを「保持する」にしても、工場出荷時の設定に戻ってしまうことがあります。

このような場合には、メモリスイッチを「初期化する」に設定し、一度システムセットアップメニューを終了します。メニューが終了し、リセットされたら、再度メモリスイッチを「保持する」にしてから、メモリスイッチを設定し直してください。


- 1 システムセットアップメニューを起動し、「ディップスイッチ 2 の設定」を選択します。
- 2 「メモリスイッチ」を選択し、「保持する」に設定します。

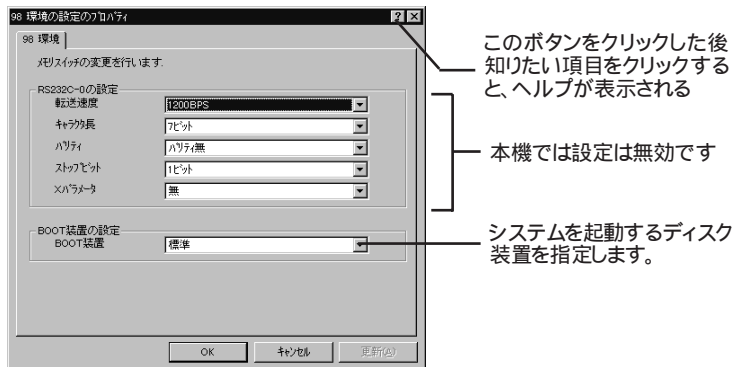


- 3 キーボードの **[ESC]** を押します。  
メインメニューに戻ります。
- 4 キーボードの **[ESC]** を押します。  
システムセットアップメニューが終了し、本機が再起動します。
- 5 [ 書庫 ]グループの [ ユーティリティ ]の [ コントロールパネル ]アイコンをクリックします。  
[ コントロールパネル ]ウィンドウが表示されます。

**6** [ 98環境 ]アイコン  をダブルクリックします。

[ 98環境の設定のプロパティ ]ウィンドウが表示されます。

画面上の項目にある  をクリックし、表示された中から選択したいものをクリックしてください。



本機では、RS-232C-0の設定を行っても有効にはなりません。

**7** 本機を再起動させてください。

[ スタート ]メニューの[ Windowsの終了 ]をクリックし、表示された[ Windowsの終了 ]ウィンドウで [ コンピュータを再起動する ]をクリックした後、[ はい ]ボタンをクリックしてください。

本機が再起動したら、メモリスイッチの変更の作業は終了です。

# 割り込みレベル・DMAチャネル・ROMアドレス空間

ここでは、本体内蔵の各種インターフェイスで使用する「割り込みレベル」、「DMAチャネル」、「ROMアドレス空間」を示します。

## 本機が使用している「割り込みレベル」

割り込みレベル インターフェイス	IRQ3 (INT0)	IRQ4	IRQ5 (INT1)	IRQ6 (INT2)	IRQ9 (INT3)	IRQ10 (INT4)	IRQ11 (INT4.5)	IRQ12 (INT5)	IRQ13 (INT6)
フロッピーディスクインターフェイス									
マウスインターフェイス									
ビットキャスト受信ボード									
ハードディスクインターフェイス									
MIDIインターフェイス			*1						
サウンド機能*2									
ウィンドウアクセラレータ									
FAXモデムボード									
2nd CCU			*1						
USBインターフェイス									

- : 工場出荷時の設定
- : プラグ&プレイ機能により、自動的に空いているレベルに設定される割り込みレベル
- : 出荷時は未使用に設定

- \*1: システムセットアップメニューの「動作環境の設定」画面の「2nd CCU」を「使用しない」に設定すると、「IRQ5 (INT1)」の割り込みが解放できます(工場出荷時は「使用する」になっています)。また、システムセットアップメニューの「動作環境の設定」画面の「サウンド」を「BIOSを切り離す(MIDI有効)」または「使用する(MIDI有効)」に設定すると、「IRQ5 (INT1)」の割り込みをMIDIが使用します(工場出荷時は「使用する」になっており、MIDI INは使用できません)。MIDIインターフェイスと2nd CCUを同時に使用することはできません。
- \*2: システムセットアップメニューの「動作環境の設定」画面の「サウンド」を「使用しない」に設定すると、サウンドによる割り込みを解放できます。

## 本機が使用している「DMAチャネル」

DMAチャネル インターフェイス	#0	#1	#2	#3
フロッピーディスクインターフェイス				
サウンド				

- : 工場出荷時の設定



## 本機が使用している「ROMアドレス空間」

インターフェイス	使用しているROMアドレス
ハードディスク/CD-ROMインターフェイス	D8000h ~ DBFFFh
サウンド機能*3	CC000h ~ CFFFFh

\*3: システムセットアップメニューの「動作環境の設定」画面の「サウンド」を「BIOSを切り離す(MIDI有効)」または「BIOSを切り離す」または「使用しない」に設定すると、サウンドが使用しているROMアドレス空間を解放できます。



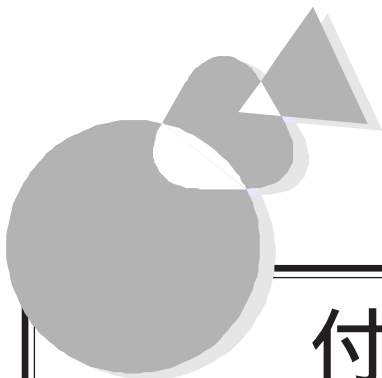
### Windowsで割り込みレベルを確認する

割り込みレベル、DMAチャンネル、ROMアドレス空間の設定状況は、Windows95のコントロールパネルで確認することができます。

- 1** [スタート]ボタン - [設定] - [コントロールパネル] をクリックします。
- 2** [システム] のアイコンをダブルクリックし、[ デバイスマネージャ ] タブをクリックします。
- 3** [コンピュータ] が反転表示されていることを確認し、[ プロパティ ] ボタンをクリックします。
- 4** 確認したいリソースのラジオボタンをクリックすると設定値の一覧が表示されます。







# 付録

Windows 95でMS-DOSを利用する  
PCIセットアップユーティリティの利用  
ATコマンド  
目的別索引  
索引  
システムセットアップメニュー早見表  
アイコン早見表  
機能仕様  
FAXモデムボード機能仕様

# Windows 95でMS-DOSを利用する

ここでは、Windows 95のMS-DOSモードを利用するときの注意事項を説明しています。

コマンドの書式の説明では、次のような意味で記号を使用しています。

- < > ...この中の項目は、必ず入力します。
- [ ] ...この中の項目は、必要に応じて入力します。
- | .....この記号で区切られた項目のうち、どれか一つを入力します。

## MS-DOSモードを利用する.....

MS-DOSモードを利用すると、従来のMS-DOSで起動したときと同じような環境で本機を使うことができます。

MS-DOSモードを利用するには、次のように操作します。

### 本機をMS-DOSモードで再起動する

- 1** [スタート]ボタンをクリックして、[Windowsの終了]をクリックします。
- 2** [MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]をクリックして、[はい]ボタンをクリックします。

本機がMS-DOSモードで再起動し、次のような画面が表示されます。

```
MSCDEX Version 2.25
Copyright (C) Microsoft Corp. 1986-1995. All rights reserved.
ドライブ Q: = ドライブ\CD_101 ユニット 0

A Iかな漢字変換が使用可能です
辞書は、ドライブ A: の %WINDOS%\SYSTEM\NECAL.DICです
A: %WINDOS>
```

## MS-DOSモードを終了する

- 1 コマンドプロンプトの画面から、次のように入力してください。

EXIT 

Windows 95が再起動します。



### MS-DOSモードとMS-DOSプロンプト

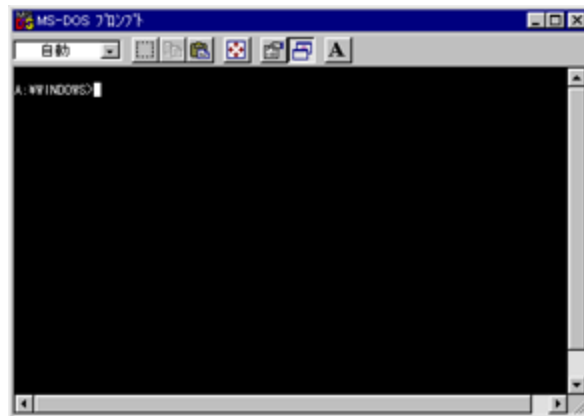
MS-DOSを利用するには、「MS-DOSモード」と「MS-DOSプロンプト」とがあります。

「MS-DOSモード」は、従来のMS-DOSで起動したときと同じような環境になるため、他のアプリケーションと一緒に使うことはできません。

「MS-DOSプロンプト」は、MS-DOSをWindows 95上でマルチタスクのアプリケーションとして使用できるようにしたものです。

「MS-DOSプロンプト」を利用するには、次のように操作します。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[プログラム]-[MS-DOSプロンプト]をクリックします。  
[MS-DOSプロンプト]ウィンドウが表示されます。



なお、コマンドやアプリケーションによっては、「MS-DOSプロンプト」からは使用できないものもあります。

# DOS環境設定ユーティリティ.....

従来からのMS-DOSの環境やMS-DOSアプリケーションを引き続きご利用になる方のために、DOS環境設定ユーティリティを用意しています。

DOS環境設定ユーティリティは、システム構築ファイル( CONFIG.SYS )と自動起動ファイル( AUTOEXEC.BAT )をMS-DOSモードで快適にご利用になるための設定を変更します。

Windows 95の起動ドライブのルートディレクトリにCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATを作成します。既にCONFIG.SYSが存在する場合はそれを更新します。



Windows 95は、従来のWindows 3.XのようにMS-DOSをベースに動作していませんので、CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの設定変更による影響はWindows 95にはありません。

## CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATを編集する

CONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATはテキスト形式のファイルなので、[メモ帳]などのテキストエディタで編集/更新することができます。しかし、このDOS環境設定ユーティリティを使用すると、より簡単に編集/更新することができます。

### CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの編集

DOS環境設定ユーティリティで、CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATを編集します。

**1** [書庫]グループの[ユーティリティ]の[コントロールパネル]アイコンをクリックします。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

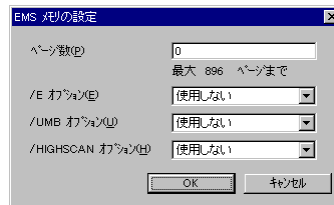
**2** [DOS環境]アイコンをダブルクリックします。

[DOS環境のプロパティ]ウィンドウが表示されます。



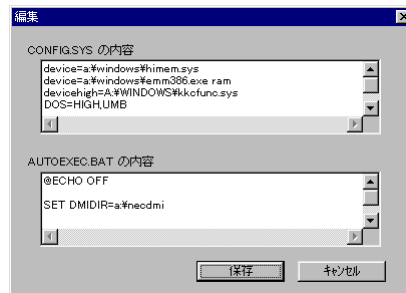


- 3** [ 設定項目 ]の[ C D - R O M ] [ E M S メモリ ] [ B R E A K ]を設定し、[ CONFIG.SYSの内容 ]を変更します。[ 詳細 ]ボタンをクリックすると、[ EMSメモリの設定 ]ウインドウが表示されます。



- 4** [ ページ数 ] [ /E オプション ] [ /UMB オプション ] [ /HIGHSCAN ] を設定した後、[ OK ]ボタンをクリックします(画面上の各項目の [▼] をクリックします。クリック後、表示されたなかから選択したいものをクリックしてください。設定を変更するごとに [ 更新 ]ボタンをクリックしてください。ページ数はそのまま数値をキー入力してください)。
- 5** 編集したい内容を直接入力して設定するには、[ 編集 ]ボタンをクリックしてください。

[ CONFIG.SYSの内容 ] [ AUTOEXEC.BATの内容 ]が表示されます。



- 6** 入力した変更内容を有効にするには、[ 保存 ]ボタンを押してください。[ DOS環境のプロパティ ]ダイアログボックスに戻ります。
- 7** 今までのCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの設定を有効にする場合は、[ OK ]ボタンをクリックしてください。また、元に戻す場合は、[ 元に戻す ]ボタンをクリックしてください。



変更した内容を有効にするには、本機を再起動する必要があります。

## CONFIG.SYSの設定内容

CONFIG.SYSは、MS-DOSモードで使用するハードウェアの構成やメモリの環境を設定するファイルです。

CONFIG.SYSは、Windows 95の起動するドライブのルートディレクトリに作成されず、CONFIG.SYSの設定項目については、次のとおりです。



すでに設定されている内容については、チェックボックスにチェックマークが付いています。

### ・CD-ROM

MS-DOSモードで使用するCD-ROMのドライバを組み込みます。次の書式で指定されます。

```
DEVICE=A:¥WINDOWS¥COMMAND¥NECCD.SYS /D:CD_101
```

オプションスイッチ	機能
/D:CD_101	CD-ROMを使用するための指定をします。



MS-DOSモードでCD-ROMを使用するには、CD-ROMドライバを組み込んだ後に、MSCDEX.EXEを実行する必要があります。MSCDEXはコマンドラインから実行するか、またはDOSSTART.BATに記述します( P.175 )。AUTOEXEC.BATにはMSCDEX.EXEの記述を入れしないでください。

<書式例>

```
A:¥WINDOWS¥COMMAND¥MSCDEX.EXE /D:CD_101
```

なお、Windows 95用のCD-ROMドライバがインストールされていない場合は、CD-ROMのチェックボックスは選択できません。

### ・BREAK

プログラムまたは処理の実行を中止する+キーの機能を、ディスクを対象とした読み書き作業などに拡張したり、設定の解除をします。次の書式で指定されます。

```
BREAK=[ ON | OFF ]
```

オプションスイッチ	機能
ON	プログラムまたは処理の実行を中止する機能を拡張します。
OFF	拡張する設定を解除します。



## ・EMSメモリ

プロテクトメモリをEMSメモリとして使えるようにします。また、コンベンショナルメモリを節約するために、UMBメモリを使用できます。次の書式で指定されます。

```
DEVICE=A:¥WINDOWS¥EMM386.EXE [RAM | /P=XXX | /
E=XXXX-YYYY | /UMB | /HIGHSCAN ]
```

オプションスイッチ	機 能
RAM	上位メモリの未使用メモリ領域をコンベンショナルメモリのように利用できます。 /P=XXX 使用するページ数を指定します。指定できる範囲は、0～896です。
/E=XXXX-YYYY	UMBとしてアロケートしない範囲を設定します( MS-DOSと同様 )。
/UMB	RAMと同等です。
/HIGHSCAN	RAMまたはUMBと同時に指定し、上位メモリの未使用メモリ領域をチェックします。



# USKCGM コマンド.....

USKCGMコマンドは、ユーザが定義する文字パターン(ユーザー定義文字、または外字)を作成したり、ファイルへの保存やファイルから読み出したりするユーティリティです。また文字パターンをメモリに読み込んだり、プリンタに送って印字したりすることもできます。

## USKCGM コマンドの書式

USKCGMコマンドは、次の書式でコマンドプロンプトから実行します。

USKCGM [[ <d: > ] <パス名> <ファイル名> [ /P ]

<ファイル名>を指定すると、指定されたファイルを外字ファイル(ユーザー定義文字パターンを格納したファイル)として読み込み、その内容をパーソナルコンピュータ本体内のメモリに登録します。また、すべてのパラメータを省略すると、機能を選択するメニューが表示されます。

オプションスイッチ	機 能
/P	[ファイル名]で指定した外字ファイルの内容をプリンタに送ります。以後そのプリンタはその文字パターンを印字できるようになります。



## USKCGM コマンドを使用する

ここでは、メニューを利用してUSKCGMコマンドを実行します。

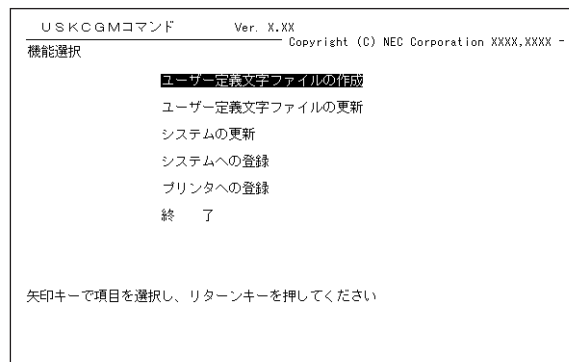
### USKCGM コマンドの起動

コマンドプロンプトからUSKCGMコマンドを起動します。

- 1 [スタート]メニューから[プログラム]-[MS-DOSプロンプト]をクリックします。  
[MS-DOSプロンプト]ウィンドウが表示されます。
- 2 コマンドプロンプトから次のように入力して、ユーザー定義文字管理ユーティリティ (USKCGM) を実行します。




ユーザー定義文字管理ユーティリティの機能を選択するメニューが表示されます。

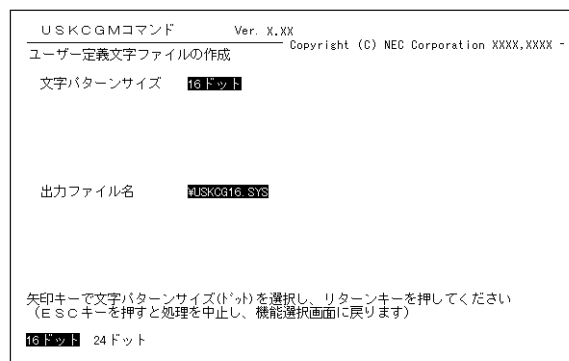
USKCGM 



### ユーザー定義文字ファイルの作成

ユーザー定義文字ファイルを作成します。

- 1 機能選択画面で、[ユーザー定義文字ファイルの作成] を   で選択した後、 を押します。ユーザー定義文字ファイルの作成画面が表示されます。



- 2 ユーザー定義文字ファイルの作成画面で、[ 文字パターンサイズ ]と [ 出力ファイル名 ]を設定します。  
ユーザー定義文字ファイルの作成を確認するメッセージが表示されます。
- 3 確認の後、**Y**を押してください。  
ユーザー定義文字ファイルが作成されます。

## ユーザー定義文字ファイルの更新

ユーザー定義文字ファイルを更新します。

- 1 機能選択画面で、[ ユーザー定義文字ファイルの更新 ]を **↑**/**↓**で選択した後、**↵**を押します。ユーザー定義文字ファイルの更新画面が表示されます。

USKCGMコマンド Ver. X.XX Copyright (C) NEC Corporation XXXX,XXXX - ユーザー定義文字ファイルの更新

入力対象 **ファイル**

入力ファイル名 **MUSK0316.SYS**

出力ファイル名 **MUSK0316.SYS**

矢印キーで入力対象を選択し、リターンキーを押してください。  
(ESCキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります)

**ファイル** システム

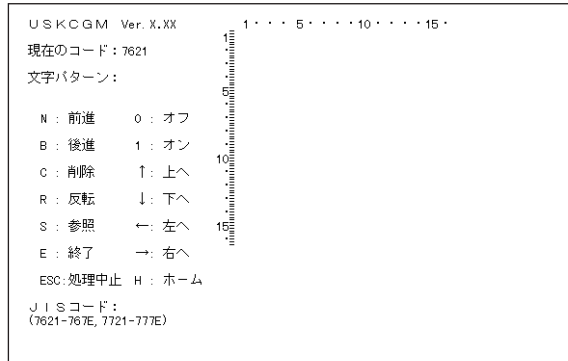
- 2 ユーザー定義文字ファイルの更新画面で、[ 入力対象 ] [ 入力ファイル名 ] [ 出力ファイル名 ]を設定します。  
ユーザー定義文字ファイルの更新を確認するメッセージが表示されます。
- 3 確認の後、**Y**を押してください。  
ユーザー定義文字ファイルが更新されます。



## システムの更新

システムを更新します。

- 機能選択画面で、[システムの更新] を **↑** **↓** で選択した後、**↵** を押します。  
システムの更新画面が表示されます。

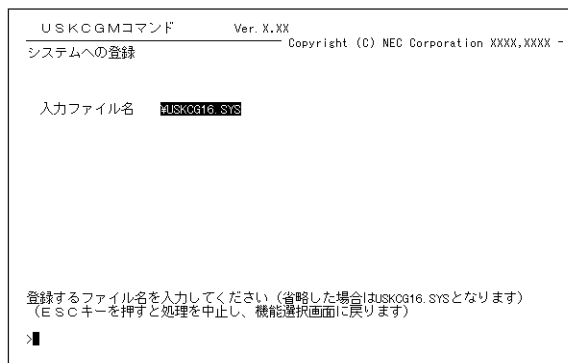


- システムの更新画面で、システムの更新を設定します。  
システムの更新を確認するメッセージが表示されます。
- 確認の後、**↑** **↓** を押してください。システムが更新されます。

## ユーザー定義文字ファイルのシステムへの登録

ユーザー定義文字ファイルをシステムに登録します。

- 機能選択画面で、[システムへの登録] を **↑** **↓** で選択した後、**↵** を押します。  
システムへの登録画面が表示されます。



- システムへの登録画面で、[入力ファイル名] を設定します。  
システムへの登録を確認するメッセージが表示されます。

- 3** 確認の後、**[Y]** **[↵]** を押してください。  
ユーザー定義文字がシステムへ登録されます。



ユーザー定義文字をシステムへ登録するには、コマンドプロンプトから次のように入力する方法もあります。

USKCGM <ドライブ名> <パス名> <入力ファイル名> **[↵]**

## ユーザー定義文字ファイルのプリンタへの登録

ユーザー定義文字ファイルをプリンタに登録します。

- 1** 機能選択画面で、**[プリンタへの登録]** を **[↑]** **[↓]** で選択した後、**[↵]** を押します。  
プリンタへの登録画面が表示されます。

```
USKCGMコマンド Ver. X.XX Copyright (C) NEC Corporation XXXX, XXXX -
プリンタへの登録
入力対象      ファイル
入力ファイル名  USKCG24.SYS
登録するファイル名を入力してください。(省略した場合はUSKCG24.SYSとなります)
(ESCキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります)
>
```

- 2** プリンタへの登録画面で、**[入力ファイル名]** を設定します。  
プリンタへの登録を確認するメッセージが表示されます。

- 3** 確認の後、**[Y]** **[↵]** を押してください。  
ユーザー定義文字がプリンタへ登録されます。



ユーザー定義文字をプリンタへ登録するには、コマンドプロンプトから次のように入力する方法もあります。

USKCGM <ドライブ名> <パス名> <入力ファイル名> /P **[↵]**

## マルチメディア機能の利用.....

MS-DOSモードでマルチメディアアプリケーションを利用する場合は、マルチメディア対応ドライバ(拡張グラフィックドライバと拡張サウンドドライバ)を、必要に応じて組み込まなければなりません。拡張グラフィックドライバを組み込むと、256色を使用したグラフィックが描画できるようになります。また、拡張サウンドドライバを組み込むと、FM音源6音、SSG音源3音、リズム音源6音を使用する音楽演奏や録音、再生を行うアプリケーションを利用できるようになります。組み込みには、次の3つの方法があります。

- A. コマンドプロンプトから常駐プログラムとして組み込む方法(メモリを有効活用できます)
  - B. ADDDRVコマンドでデバイスドライバとして組み込む方法
  - C. CONFIG.SYSファイルでデバイスドライバとして組み込む方法
- ここでは、それぞれの組み込む手順を説明します。

### A. コマンドプロンプトから常駐プログラムとして組み込む方法

MS-DOSモードのコマンドプロンプトからマルチメディア対応ドライバを組み込む方法と、常駐を解除する方法を記述します。

- 1** 拡張グラフィックドライバ(AVGDRV.EXE)を組み込むには、コマンドプロンプトから次のように入力します。

AVGDRV 

入力後は、AVGDRVが組み込まれて常駐します。

- 2** 拡張サウンドドライバ(AVSDRV.EXE)を組み込むには、コマンドプロンプトから次のように入力します。

AVSDRV 

入力後は、AVSDRVが組み込まれて常駐します。

- 3** 組み込んだドライバが必要でなくなれば、組み込んだ逆順に次のように入力して常駐を解除します。

AVSDRV /R 

AVGDRV /R 



- ・ コマンドプロンプトから組み込んだものは、DELDRVを使って解除することはできません。
- ・ 拡張グラフィックドライバの組み込み、および解除は、Windows上の[MS-DOSプロンプト]からは行わないでください。Windowsを実行中の場合は、必ず終了させてから行ってください。
- ・ 拡張サウンドドライバでは、FM音源機能はご利用になれません。

拡張グラフィックドライバと拡張サウンドドライバの書式は、次のとおりです。

### 拡張グラフィックドライバの書式

AVGDRV [ /E [ ] /C [ ] /S [ ] /R [ ] ]

スイッチ	機能
/E	ドライバの一部をEMSメモリに読み込み、メインメモリの消費を抑えます。
/C	数値演算コプロセッサを使います。数値演算コプロセッサが実装されている場合にのみ指定できます。
/S	設定系の機能のみを組み込み、描画系の機能は組み込みません。
/R	常駐を解除します。ただし、ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSファイルで組み込んだものは解除できません。

### 拡張サウンドドライバの書式

AVSDRV [ /E [ ] /F [ ] /P [ ] /R [ ] ]

スイッチ	機能
/E	ドライバの一部をEMSメモリに読み込み、メインメモリの消費を抑えます。
/F	FM音源機能のみを組み込みます。
/P	PCM音源のみを組み込みます。
/R	常駐を解除します。ただし、ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSファイルで組み込んだものは解除できません。



拡張グラフィックドライバおよび拡張サウンドドライバの組み込みにあたって、/Eスイッチを指定する場合は、次の条件を満たしている必要があります。

- ・ あらかじめEMSドライバを組み込んであること
- ・ ページフレームがC0000H ~ CFFFFHの連続した64KBであること
- ・ 連続した4ページ以上のEMSメモリが使用可能なこと



## B. ADDDRV コマンドでデバイスドライバとして組み込む方法

ADDDRV 定義ファイルを作成することで、マルチメディア対応ドライバをADDDRV コマンドにて組み込むことができます。

なお、/R以外のスイッチ (/E、/F、/P、/C、/S) を指定して組み込むこともできます。

```
ファイル名[ ADDAVD.DEV ]  
DEVICE=AVSDRV.SYS[ /E I /F I /P ]  
DEVICE=AVGDRV.SYS[ /E I /C I /S ]
```

**1** 「AVSDRV.SYS」と「AVGDRV.SYS」のあるディレクトリをCDコマンドを使って、カレントディレクトリにしてください。

**2** コマンドプロンプトから、次のように入力します。

```
ADDDRV ADDAVD.DEV
```

**3** 組み込んだドライバが必要なくなれば、コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
DELDREV
```

## C. CONFIG.SYS ファイルでデバイスドライバとして組み込む方法

CONFIG.SYSファイルに変更を加えることで、マルチメディア対応ドライバを組み込むことができます。

次の書式で [メモ帳] や [DOS環境設定ユーティリティ] などのテキストエディタを利用して、CONFIG.SYSに記述します。

なお、/R以外のスイッチ (/E、/F、/P、/C、/S) を指定して組み込むこともできます。

```
DEVICE=¥WINDOWS¥COMMAMD¥AVSDRV.SYS[ /E I /F I /P ]  
DEVICE=¥WINDOWS¥COMMAMD¥AVGDRV.SYS[ /E I /C I /S ]
```




# 日本語入力機能.....

[MS-DOSプロンプト]上ではWindows 95のかな漢字変換、またはDOSかな漢字変換を使用して日本語の入力が行えます。NECAI DOSかな漢字変換はWindows 95のNECAIME95と辞書を共有することが可能で、登録した単語や学習情報をそのまま使用することができます。DOSかな漢字変換が組み込まれていない場合は、自動的にWindows 95のかな漢字変換が動作し、入力できるしくみになっています。辞書を切り替えたい場合は、Windows 95のNECAIME95の環境設定の[辞書]タブの「ユーザ辞書」で行ってください。

DOSかな漢字変換の組み込まれていない場合は以下の方法で設定してください。

**1** [スタート]ボタン-[プログラム]-[MS-DOSプロンプト]をクリックします。  
[MS-DOSプロンプト]ウィンドウが表示されます。

**2**  ボタンをクリックします。  
[MS-DOSプロンプトのプロパティ]ウィンドウが表示されます。

**3** [プログラム]タブウィンドウの[バッチファイル]に次のように入力します。

```
DOSIME.BAT
```

**4** [MS-DOSプロンプトのプロパティ]ウィンドウで[OK]ボタンをクリックします。  
なお、Windows 95がインストールされているドライブ(通常は「A:」)のルートディレクトリにあるDOSIME.SYSファイル(ADDDRV用定義ファイル)の内容を書き替えれば、お好みのDOSかな漢字変換に変更することもできます。



- NECAIME95は出荷時の状態では、Windows 95上からは使用できません。NECAIME95を使用する場合は、「かな漢字変換 (NECAIME95) を利用する」(P. 173)をご覧ください。
- Windows 95上でWindows 3.1のかな漢字変換をお使いの場合は、[MS-DOSプロンプト]ではDOSかな漢字変換による日本語入力しか行えません。
- ADDDRVによりMS-DOSかな漢字変換を組み込む場合は、Windows 95用の「KKCFUNC.SYS」を使用してください。通常「KKCFUNC.SYS」は、WINDOWSディレクトリにあります。なお、従来のMS-DOS用KKCFUNC.SYSは使用できません。



## かな漢字変換(NECA IIME95)を利用する

本機では、日本語を入力するための機能として、NECA IIME95を利用できます。ここでは、NECA IIME95を利用するための設定方法について説明します。日本語入力システムの切り替え方法は、「Microsoft Windows 95ファーストステップガイド」をご覧ください。

### NECA IIME95を利用するための設定方法

次の手順で「標準の言語」を変更してください。

- 1** CEREBメニューの「ユーティリティ」グループにある「コントロールパネル」をクリックして、「キーボード」をダブルクリックします。または、「スタート」メニューの「設定」から「コントロールパネル」をクリックし、「キーボード」をダブルクリックします。
- 2** 「言語」タブをクリックして、「追加」ボタンをクリックし、「OK」ボタンをクリックします。
- 3** 「標準に設定」ボタンをクリックして、「標準の言語」が「NECA IIME」に変更されたことを確認してください。確認後、「OK」ボタンをクリックします。
- 4** 「スタート」メニューから「Windowsの終了」を選択し、「コンピュータを再起動する」を選択して「はい」ボタンをクリックします。再起動後、NECA IIME95を利用して日本語入力ができるようになります。

# CD-ROM ドライバ.....

本機では、出荷時の状態でMS-DOSモードでもCD-ROMドライブが使用できますが、設定を変更するなどしてCD-ROMドライブが使用できなくなった場合には、次の手順で設定を変更してください。

## 現在のMS-DOS設定を使う場合

現在のMS-DOS設定を使う場合、MS-DOSモード上でCD-ROMドライブを使用するには、次の手順で行ってください。

- 1** CONFIG.SYSに次の内容を追加し、接続されているCD-ROMドライブに対応したCD-ROMドライバを登録します(Windows 95がインストールされているドライブおよびディレクトリをA: ¥WINDOWSとし、インストールしたCD-ROMドライバをNECCD.SYSとします)。

<追加する内容>

DEVICE=A: ¥WINDOWS ¥COMMAND ¥NECCD.SYS /D:CD\_101



DOS環境ユーティリティの「環境項目」の[CD-ROM]のチェックボックスを  (オン) にすることも設定できます。

- 2** DOSSTART.BATに次の内容を追加します( CD-ROMドライブを割り当てるドライブ番号をQドライブとします )。

<追加する内容>

A: ¥WINDOWS ¥COMMAND ¥MSCDEX /D:CD\_101 /L:Q

- 3** 本機を再起動してください。

[スタート]ボタン-[Windowsの終了]-[コンピュータを再起動する]を選択して[はい]ボタンをクリックしてください。

- 4** MS-DOSモードを起動します。[Windowsの終了]から[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択するか、[MS-DOSプロンプトのプロパティ]ウィンドウの[詳細設定]ボタンをクリックして表示される画面で、[MS-DOSモード]および[現在のMS-DOS設定を使う]チェックボックスをクリックして、チェック  (オン) し、MS-DOSモードを起動してください。

## CD-ROMドライバの注意事項

インストール時に2種類以上のドライバを同時に選択した場合、ドライバが正しくインストールされないことがあります。必ず1種類のみ選択してください。



## ファイルを編集する

CONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATはDOS環境ユーティリティを使って簡単に編集することができます( P.160 )。その他のファイルはメモ帳やワープロなどテキストデータを扱えるソフトウェアで編集します。

ここでは DOSSTART.BATファイルをメモ帳で編集する方法を例にあげて説明します。

- 1 [ スタート ] ボタン - [ プログラム ] - [ アクセサリ ] - [ メモ帳 ] をクリックします。
- 2 [ ファイル ] - [ 開く ] をクリックします。
- 3 「ファイルの種類」を [ すべてのファイル( \*.\* ) ] にします。
- 4 [ ファイルの場所 ] に [ A : ¥WINDOWS ] を選択します。
- 5 [ Dosstart.bat ] をクリックして、[ 開く ] ボタンをクリックします。  
DOSSTART.BATファイルが開きます。
- 6 ファイルを編集します。ファイルの編集にはキーボードを使用します。

```

REM - You MUST explicitly specify the CD ROM Drive
REM - The string following the /D: statement must
REM - The string in CONFIG.SYS following your CD R

REM MSCDEX.EXE /D:OEMCD001 /L:d
REM MOUSE.EXE

A:¥WINDOWS¥COMMAND¥MSCDEX.EXE /D:CD_101 /L:Q
  
```

- 7 ファイルの編集が終了したら、[ ファイル ] - [ メモ帳の終了 ] をクリックします。
- 8 変更を保存するかどうか聞いてくるので、[ はい ] ボタンをクリックします。メモ帳が終了し、DOSSTART.BATの内容が変更されます。

## 新しいMS-DOS設定を指定する

新しいMS-DOS設定を指定する場合、MS-DOSモード上でCD-ROMドライブを使用するには、次の手順で行ってください。

- 1** [書庫]グループの[ユーティリティ]の[エクスプローラ]をクリックします。  
[エクスプローラ]ウィンドウが表示されます。
- 2** 新しいMS-DOS設定を指定したいプログラムをクリックします。  
プログラム名が反転表示されます。
- 3** [エクスプローラ]の[ファイル]メニューから[プロパティ]をクリックします。  
[プロパティ]ウィンドウが表示されます。
- 4** [プログラム]タブをクリックして、[詳細設定]ボタンをクリックします。  
[プログラムの詳細設定]ウィンドウが表示されます。
- 5** [MS-DOSモード]の[新しいMS-DOS設定を指定する]チェックボックスをクリックしてチェックし、CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATのリストボックスに、次の内容を追加します(Windows 95がインストールされているドライブおよびディレクトリをA: ¥WINDOWSとし、インストールしたCD-ROMドライブをNECCD.SYS、CD-ROMドライブを割り当てるドライブ番号をQドライブとします)

<CONFIG.SYSに追加する内容>

```
DEVICE=A: ¥WINDOWS ¥COMMAND ¥NECCD.SYS /D:CD_101
```

<AUTOEXEC.BATに追加する内容>

```
A: ¥WINDOWS ¥COMMAND ¥MSCDEX /D:CD_101 /L:Q
```

- 6** [OK]ボタンをクリックします。  
[プログラムの詳細設定]ウィンドウが閉じます。
- 7** [OK]ボタンをクリックします。  
[プロパティ]のウィンドウが閉じます。
- 8** 本機を再起動します。  
[スタート]ボタン - [Windowsの終了] - [コンピュータを再起動する]を選択して  
[はい]ボタンをクリックしてください。
- 9** [エクスプローラ]で新しいMS-DOS設定を指定したプログラムをダブルクリックします。  
MS-DOSモードが起動します。

# PCIセットアップユーティリティの利用

PCI対応拡張ボードの設定を固定で使いたい場合は、本機内蔵のPCIセットアップユーティリティを使って設定を行う必要があります。

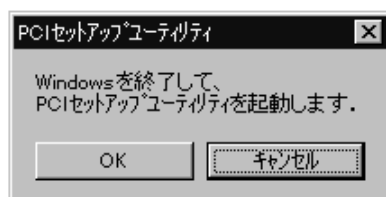


本機では、別売のPCI対応拡張ボードは使用できません。

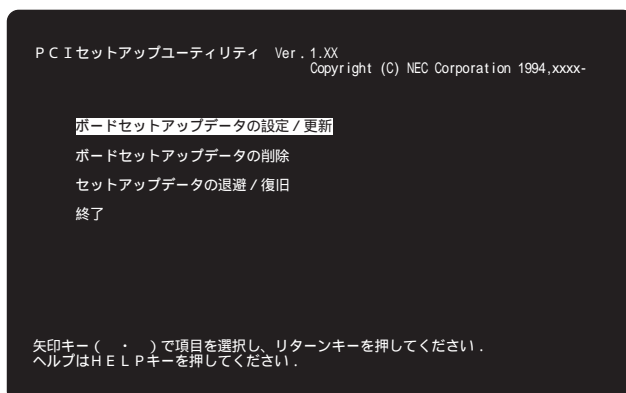
本機は、ご購入時の状態では内蔵ハードディスクから起動できますが、PCI対応拡張ボードの設定を誤って設定してしまうと、起動できなくなる場合があります。このため、事前に実行用フロッピーディスクを作成しておいてください。

また、Windows 95以外のOSをご使用の場合には、実行用フロッピーディスクからしか使用できませんので、ハードディスクの内容を消去する前に、実行用フロッピーディスクを作成しておいてください（P. 181）。

- 1 電源スイッチを押して、本体の電源をONにします。
- 2 [書庫]グループの[ユーティリティ][PCIセットアップユーティリティ]に、マウスポインタを合わせてクリックします。  
次のような画面が表示されます。



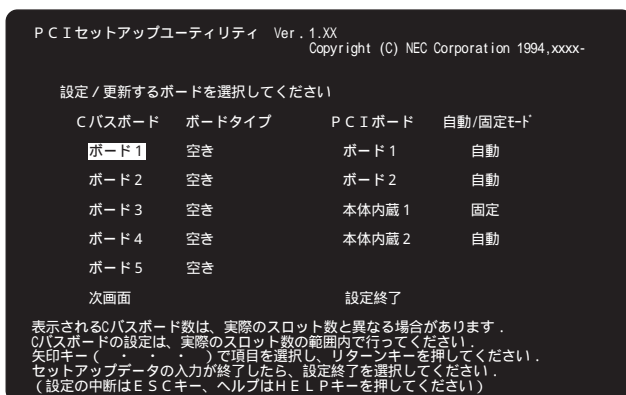
- 3 [OK]ボタンにマウスポインタを合わせてクリックします。  
PCIセットアップユーティリティが自動的に起動します。  
次のような画面が表示されます。



## 4 [ ボードセットアップデータの設定 / 更新 ]を選びます。

機能を選ぶには、キーボードの **[↑]** **[↓]** を押して、使いたい機能を反転表示させて、キーボードの **[↵]** を押します。

次のような画面が表示されます。



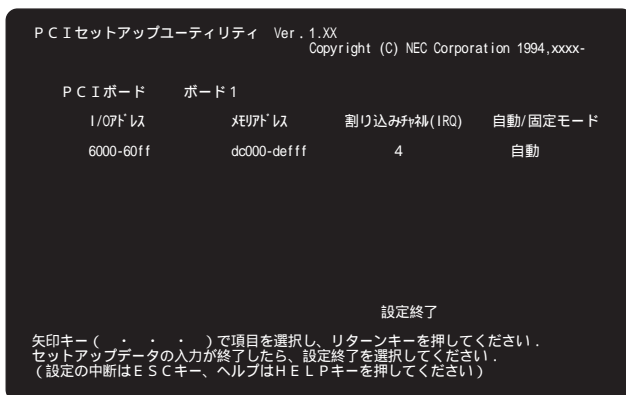
- ・ PCIボードの本体内蔵1は、PCIスロットではなく、本体に標準搭載されているウィンドウアクセラレータ機能を指します。
- ・ PCIボードの本体内蔵2は、PCIスロットではなく、本体に標準搭載されているUSBインターフェイスを指します。
- ・ ボードのセットアップデータを削除する場合は、[ ボードセットアップデータの削除 ]を選びます。

## 5 [ PCIボード ]を選びます。



[ Cバスボード ]は選択しないでください。設定を変更しないでください。

次のような画面が表示されます。





## 6 PCIボードのセットアップデータの設定を変更します。



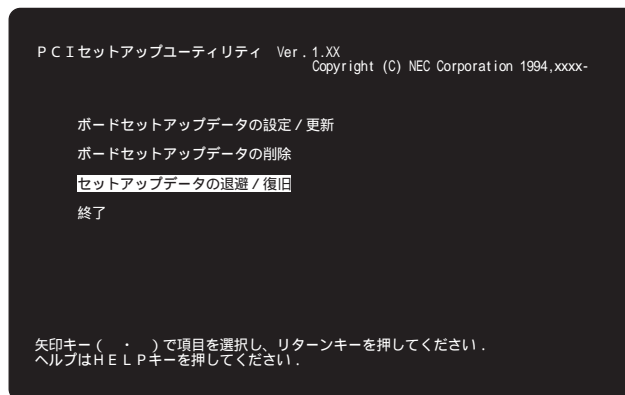
- ・ I/Oアドレス、メモリアドレスは16進数、割り込みチャンネルは10進数で入力してください。
- ・ PCIボードの設定を変更すると、そのPCIボードは自動設定から固定設定に変更されます。特に必要のない場合は、PCIボードの設定を変更しないでください。
- ・ PCIボードを自動設定に戻すには、[ ボードセットアップデータの削除 ]を使います。
- ・ 変更したボードセットアップデータは、次回起動時から有効になります。

## 7 PCIボードの設定が終了したら、[ 設定終了 ]を選びます。

## 8 [ セットアップデータの退避 / 復旧 ]を選びます。

## 9 [ セットアップデータの退避 ]を選びます。 セットアップデータが保存されます。

## 10 [ 終了 ]を選びます。 次のような画面が表示されます。

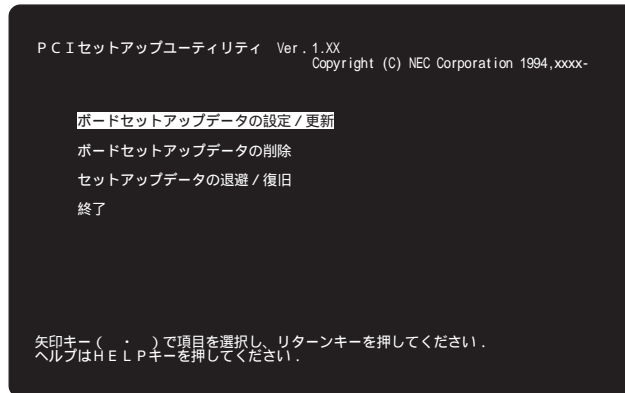





## 11 [ 終了 ]を選びます。 PCIセットアップユーティリティが終了します。

## 12 本体の電源をOFFにします。



## ボードのセットアップデータの削除のしかた



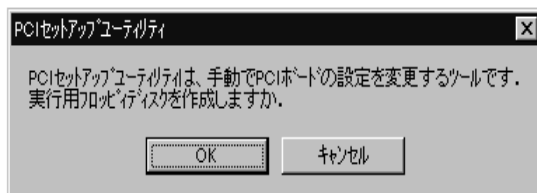
- 1** 上の画面が表示されている状態で、[ ボードセットアップデータの削除 ]を選びます。
- 2** キーボードの   を押して、ボードセットアップデータを削除したいボードを選び、キーボードの  を押します。
- 3** 削除が終了したら、[ 設定終了 ]を選びます。
- 4** [ セットアップデータの退避 / 復旧 ]を選びます。
- 5** [ セットアップデータの退避 ]を選びます。  
セットアップデータが保存されます。
- 6** [ 終了 ]を選びます。  
最初の画面に戻ります。

## 実行用フロッピーディスクの作成のしかた

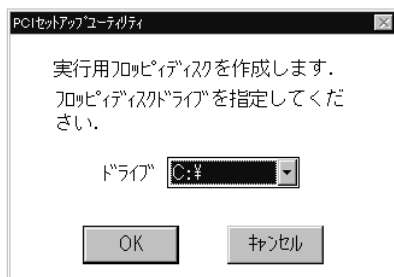
- 1** 2HDのフロッピーディスクを1枚用意します。  
ラベルには、「PCIセットアップディスク」と書いておきます。
- 2** 電源スイッチを押して、本体の電源をONにします。  
Windowsが起動します。



- 3** [ 書庫 ]グループの[ ユーティリティ]の[ PCI セットアップユーティリティ実行用FD 作成ツール ]アイコンに、マウスポインタを合わせてクリックします。  
実行用FD作成ツールが起動して、次のような画面が表示されます。

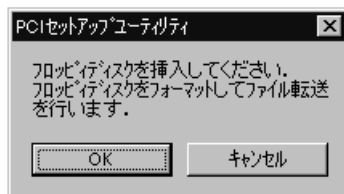


- 4** [ OK ]ボタンにマウスポインタを合わせてクリックします。  
このとき、実行中のプログラムは全て終了させておいてください。  
次のような画面が表示されます。  
フロッピーディスクドライブを指定します。



- 5** [ OK ]ボタンにマウスポインタを合わせてクリックします。

- 6** 実行用フロッピーディスクを作成します。  
次のような画面が表示されますので、**1**で用意したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。



フロッピーディスクは、書き込み可能状態にしておいてください。また、フロッピーディスクにすでにあるデータは全て失われます。

- 7** [OK] ボタンにマウスポインタを合わせてクリックします。

実行用フロッピーディスクの作成が終了すると、次のような画面が表示されます。



- 8** [OK] ボタンにマウスポインタを合わせてクリックします。  
プログラムが終了します。

## 実行用フロッピーディスクからの起動

- 1** 電源スイッチを押して、本体の電源をONにします。
- 2** 「実行用フロッピーディスクの作成のしかた」で作成した「PCIセットアップディスク」を、フロッピーディスクドライブに入れます。



電源をONにした後しばらくしてからフロッピーディスクを入れると、本体内蔵のハードディスクにインストールされているOSが起動してしまいます。OSが起動してしまった場合には、そのOSを終了してから電源をOFFにし、1からやり直してください。

PCIセットアップユーティリティが自動的に起動し、内蔵ハードディスクから起動した場合の**3**の画面が表示されます。

PCIセットアップユーティリティの使い方は、内蔵ハードディスクから起動した場合と同じです(☞P.177)。

# ATコマンド

ATコマンドとは、電話回線に対してDTE(パソコンなどの端末機器)からのコマンドにより自動発着信を行うために米国Hayes社が開発したコマンド体系のことです。“AT”で始まることからこのように呼ばれています。

## コマンドの体系.....


ATコマンドセット(A/コマンドを除く)では、DTEが送る各コマンドラインはキャラクターシーケンスATで始まり、キャリッジリターンで終了しなければなりません。

ATシーケンスは、いくつものコマンドをその次に続けることができます。ただし、Z、D、Aのようなコマンドは除きます。コマンドラインの最大キャラクタ数は48です。もしコマンドラインのどこかで構文エラーが見つかった場合には、ラインの残りは無視されます。

A	T	コマンド列	CR
---	---	-------	----

# ATコマンド一覧.....

## 基本ATコマンド

種 類	ATコマンド	機 能
アンサーモードで回線接続	A	アンサーモードで回線に接続し、通信状態になる。自動応答にしていない状態で、応答する場合に使用する。
コマンドの再実行	A /	直前に実行したコマンドを再実行する。このコマンドの前には「AT」はつけない。また、最後の「  」もつけない。
ダイヤルの実行	D	指定された電話番号にダイヤルし、接続する。 P ..... パルスダイヤル(ダイヤル回線) T ..... トーンダイヤル(プッシュ回線) W ..... S6レジスタで指定された時間ダイヤルを待つ。 @ ..... 5秒間の無音状態を検出する。検出できない場合は「NO ANSWER」を返す。 , ..... S8レジスタで指定された時間、ポーズを置く。 0~9、*、# ... 相手の電話番号をダイヤルする。ダイヤル番号を見やすくするために、スペース、「.」 「( )」 「[ ]」などが使用できる。なお、「*」 「#」はトーンダイヤルのみ使用できる。 ; ..... ダイヤル後コマンドモードに戻る。 ! ..... S29レジスタで指定された時間、回線をオンフック(回線断)する(フラッシュダイヤルモディファイ)。 S=n ... &Znで登録した電話番号にダイヤルする。 L ..... 最後にかけた番号にリダイヤルする。 ^ ..... V.25コーリングトーンを出力する。
コマンドエコー有無の設定	E	DTE(パソコン側)から送られたコマンドのエコー(文字をそのまま送り返す)の有無を指定する。 E0 コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返さない。 E1 コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返す(初期値)。
回線の接続/切断	H	H0 回線を切断(オンフック)する。 H1 回線を接続(オフフック)する。
識別コード表示	I	モデムの識別コードを表示する。 I0 製品コードを表示する。 I1 ROMのチェックサムコードを表示する。 I2 ROM/RAMのチェックを実行する。 I3 ファームウェアのレビジョンを表示する。

AT&Wnでバックアップ可能

種 類	ATコマンド	機 能
モデムモニター音量設定	L	モデムからの音量を設定する。 L0 音量小。 L1 音量小(初期値) L2 音量中。 L3 音量大。
モデムモニター音の動作設定	M	モデムモニター音のON、OFFのタイミングを指定する。 M0 スピーカを常にOFFにする。 M1 キャリアを検出するまでONにする(初期値) M2 スピーカを常にONにする。 M3 ダイヤル終了からキャリア検出までONにする。
自動モードの設定	N	相手モデムとの通信速度決定の方法を指定する。 N0 相手モデムとの通信速度決定を自動で行わない。 N1 相手モデムとの通信速度決定を自動で行う(初期値)
オンラインモードに戻る	O	オンラインモード中にエスケープコマンド(+++)によってコマンドモードになったときに、再びオンラインモードに戻るのに使用する。 O0 オンラインモードに戻る。 O1 トレーニングを再度実行して、オンラインモードに戻る。
パルス回線(ダイヤル回線)モードの設定	P	ダイヤルをパルスで行うモードに設定する(初期値) Tコマンドと排他で保存する。
リザルトコードの設定	Q	リザルトコードをDTE(パソコン側)に返すか、返さないかのモードを指定する。 Q0 リザルトコードをパソコンに返す(初期値) Q1 リザルトコードをパソコンに返さない。
Sレジスタの読み出し	Sr	Sレジスタrの内容を読み出す。ATS0 [ ] でS0レジスタの内容を読み出す。
Sレジスタの設定	Sr=n	Sレジスタrを設定する。 ATSr=n [ ] でrに設定したいレジスタの番号、nにレジスタの値を10進数で設定する。 例)ATS2=43 [ ] でS2レジスタに43(10進数)を設定する。
トーン回線(プッシュ回線)モードの設定	T	ダイヤルをトーンで行うモードに設定する。 Pコマンドと排他で保持する。
リザルトコードタイプの設定	V	ATコマンドのリザルトコードの形式を指定する。 V0 リザルトコードを数字表示に設定する。 V1 リザルトコードを文字表示に設定する(初期値)
接続リザルトコード拡張の設定(エラー訂正)の設定	W	モデム接続時のリザルトコードの拡張方法を指定する。 W0 接続時にDTEスピードのみを返す(初期値) (例 CONNECT 19200) W1 接続時にキャリアスピード、エラー訂正プロトコル、DTEスピードの順に返す。 W2 接続時にDCEスピードのみを返す。

AT&Wnでバックアップ可能

種 類	ATコマンド	機 能
接続時のリザルトコードの設定	X	<p>モデム接続時のリザルトコードの拡張方法を指定する。</p> <p>X0 リザルトコードの拡張は行わない。</p> <p>X1 リザルトコードに接続時のスピードを付加する。1200bps以上のスピードで接続された場合、「CONNECT XXXX」とスピードを表示する。</p> <p>X2 X1に加えて、ダイヤル時にダイヤルトーンの検出を行う。ダイヤル時に5秒以内にダイヤルトーンを検出できなかったら「NO DIALTONE」を表示する。</p> <p>X3 X1に加えて、ビジートーン(話中音)の検出を行う。ビジートーンを検出したら「BUSY」と表示する。</p> <p>X4 X2、X3をあわせて表示、または検出する(初期値)</p>
ブレイク信号の動作指定	Y	<p>ブレイク信号に関する動作を指定する。</p> <p>Y0 ブレイク信号を受信しても、回線を切断しない(初期値)</p> <p>Y1 ブレイク信号を1.6秒間以上受信すると、回線を切断する。回線切断時(ATHなどのコマンド)は、ブレイク信号を相手モデムに4秒間送出する。</p> <p>ダイレクト、ノーマルモード接続時のみ有効。エラー訂正プロトコル(V42、MNP)で接続されている場合は、プロトコルの動作に従う。</p>
モデムの初期化	Z	<p>モデムを不揮発性メモリの保存内容で初期化する。</p> <p>Z0 不揮発性メモリのプロファイル0の保存内容で初期化する。</p> <p>Z1 不揮発性メモリのプロファイル1の保存内容で初期化する。</p> <p>このコマンドは完了までに約2秒かかり、実行中に他のコマンドは受け付けられない。なお、コマンド列の中にこのコマンドが含まれているときは、それ以降のコマンドは無視される。</p>
キャリア検出信号(CD)の動作	& C	<p>CD信号(DCD)の動作を指定する。</p> <p>&amp;C0 CD信号を常にONにする。</p> <p>&amp;C1 CD信号はキャリアが検出されるとONになる(初期値)</p>
データ端末レディ(DTR)の動作	& D	<p>DTR信号がONからOFFに変化した場合の動作を指定する。</p> <p>&amp;D0 DTR信号は無視し、常にONとして扱う。</p> <p>&amp;D1 DTR信号がOFFになると、コマンドモードになる。</p> <p>&amp;D2 DTR信号がOFFになると、回線を切断しコマンドモードになる(初期値)。</p> <p>&amp;D3 DTR信号がOFFになると、初期化される(ATZコマンド実行状態になる)</p>
パラメータの初期化	& F	各種パラメータを工場出荷時の設定に戻す。
ガードトーンの設定	& G	<p>モデムのガードトーンの有無を指定する。</p> <p>&amp;G0 ガードトーンなし(初期値)</p> <p>&amp;G1 550Hzのガードトーンあり。</p> <p>&amp;G2 1800Hzのガードトーンあり。</p>
DTEのフロー制御	& K	<p>DTE(パソコン側)のフロー制御(RTS/CTS、XON/XOFF)を指定する。</p> <p>&amp;K0 フロー制御をしない。</p> <p>&amp;K3 RTS/CTSフロー制御をする(データ通信における初期値)</p> <p>&amp;K4 XON/XOFFフロー制御をする。</p> <p>&amp;K5 透過XON/XOFFフロー制御をする。</p> <p>&amp;K6 RTS/CTSとXON/XOFFフローを同時に行う(FAX通信、音声通信における初期値)</p>

AT&Wnでバックアップ可能


種 類	ATコマンド	機 能
通信モードの設定	& M	通信モードを指定する( &Qの一部コマンドと同様 )。 &M0 ダイレクト非同期モードで接続する。
ダイヤルパルススピードの設定	& P	ダイヤルパルスのスピードを指定する。 &P0 ダイヤルパルスを10PPSにする。 &P2 ダイヤルパルスを20PPSにする( 初期値 )。
モデムの状態表示	& V	現在設定されているコマンドの一覧と、不揮発性メモリに保存されている内容を表示する。
通信モードの設定	& Q	通信モードを指定する。 &Q0 ダイレクト非同期モードで接続する( &M0と同様 )。 &Q5 エラー訂正プロトコルで接続する( 初期値 ) &Q6 ノーマルモードで接続する。
RTS/CTSの設定	& R	RTS/CTSの制御で、モデムがCTS線をどのように制御するかを指定する。 &R0 V25bisのハンドシェイクにしたがって動作する。 &R1 CTSはフロー制御が必要な場合のみOFFになる( 初期値 )
データセットレディ( DSR )の制御	& S	DSR信号の動作を指定する。 &S0 DSR信号は常にON( 初期値 ) &S1 DSR信号が回線接続中にONになる。
パラメータの書き込み	& W	現在の設定されている状態を、不揮発性メモリに書き込む。 &W0 不揮発性メモリのプロファイル0に書き込む。 &W1 不揮発性メモリのプロファイル1に書き込む。 この値は、電源をONにしたとき( AT &Ynコマンドで0、1を指定 )、またはATZnコマンドで初期化したときに使われる。各々のコマンドを参照。
プロファイルの設定	& Y	電源立ち上げ時のプロファイル読み込みを設定する。 &Y0 プロファイル0を指定する。 &Y1 プロファイル1を指定する。
電話番号の保存	& Z	ATDS = n コマンドでダイヤルする場合の、電話番号を指定する。 &Zn = XXXXXXXX n = 0 ~ 3、XXXXは電話番号( 34桁以下 ) 例 ) AT & Z2 = 03-1234-5678 ダイヤル番号バッファ2に指定の番号を保存する。 電話番号として使用できるのは、ATDコマンドの電話番号のうち「 ; 」 「 S = n 」以外のコマンド。
データ圧縮の指定	% C	データ圧縮の方法を指定する( %Nとプロトコルを合わせる必要あり )。 %C0 データ圧縮をしない。 %C1 MNP5のデータ圧縮を行う。 %C2 V.42bisのデータ圧縮を行う。 %C3 V.42bis/MNP5のデータ圧縮を行う( 初期値 )

AT&Wnでバックアップ可能



種 類	ATコマンド	機 能			
リトレーニング等の 自動再実行	% E	回線の状態を監視して、状態が変化した場合や悪い場合に、トレーニングシーケンスの再実行(リトレーニング) 回線速度を変更するかどうかの指定をする。 % E 0 リトレーニングを自動で再実行しない。 % E 1 リトレーニングを自動で再実行する。 % E 2 回線速度の変更を可能にする(初期値) データエラーが多い場合のリトライ動作を指定するものではない。			
最大ブロックサイズの設定	¥ A	MNPで接続するときのブロックサイズを設定する。 ¥ A 0 最大ブロックサイズ 64 ¥ A 1 最大ブロックサイズ 128(初期値) ¥ A 2 最大ブロックサイズ 192 ¥ A 3 最大ブロックサイズ 256			
ブレイク信号を送信	¥ B	n x 100msブレイク信号を送信する(初期値300ms)			
ブレイク信号の動作	¥ K	ブレイク信号を受けたときの動作を指定する。			
			オンラインモード (V.42/ノーマルモード)時にパソコンからブレイク信号を受けた	オンラインモード(ダイレクトモード)時にパソコンからブレイク信号を受けた	オンラインモード (V.42/ノーマルモード)時に相手モデムからブレイクを受けた
	n = 0	コマンドモードになる。相手モデムにはブレイクを送らない	データバッファを空にして、相手モデムにブレイクを送る		データバッファを空にして、パソコンにブレイクを送る
	n = 1	データバッファを空にして、相手モデムにブレイクを送る	¥ K 0 と同じ		
	n = 2	¥ K 0 と同じ	バッファのデータより優先して相手モデムにブレイクを送る		バッファのデータより優先して相手モデムにブレイクを送る
	n = 3	バッファのデータより優先して相手モデムにブレイクを送る	¥ K 2 と同じ		
	n = 4	¥ K 0 と同じ	バッファのデータを送った後で相手モデムにブレイクを送る		バッファのデータを送った後で相手モデムにブレイクを送る
	n = 5 (初期値)	バッファのデータを送った後で相手モデムにブレイクを送る	¥ K 4 と同じ		

AT&Wnでバックアップ可能

種 類	ATコマンド	機 能
通信モードの設定	¥ N	<p>エラー訂正プロトコルの動作を設定する(%Cとプロトコルを合わせる必要あり)</p> <p>¥N0 ノーマルモードで通信する。V.42、MNPなどは使用しない。</p> <p>¥N1 ¥N0と同じ</p> <p>¥N2 V.42、MNPモードで接続する。 相手モデムがV.42、MNPでない場合は接続しない。</p> <p>¥N3 V.42、MNPモードで接続する(初期値)。 相手モデムがV.42、MNPでない場合は、ノーマルモードで接続する。</p> <p>¥N4 V.42モードで接続する。 相手モデムがV.42でない場合は、接続しない。</p> <p>¥N5 MNPモードで接続する。 相手モデムがMNPでない場合は、接続しない。</p> <p>V.42、MNPの場合は、V.42 MNPの順に相手モデムとの接続を試す。&amp;M、&amp;Qコマンドも参照。</p>
変調方式の指定	+ M S	<p>+MS = &lt;変調方式&gt;、&lt;自動モード&gt;、&lt;最低スピード&gt;、&lt;最高スピード&gt;</p> <p>相手モデムとの通信方式、手順、スピードなどを指定する。</p> <p>変調方式</p> <p>0 V.21 300bpsで接続される。</p> <p>1 V.22 1200bpsで接続される。</p> <p>2 V.22bis 2400/1200bpsで接続される。</p> <p>9 V.32 9600/4800bpsで接続される。</p> <p>10 V.32bis 14400 ~4800bpsで接続される。</p> <p>11 V.34 33600 ~2400bpsで接続される(初期値)</p> <p>自動モード 接続時の自動ネゴシエーションの指定を行う。</p> <p>0 自動モード(V.8)を使用しない。</p> <p>1 自動モード(V.8)を使用する(初期値)</p> <p>最低スピード 最低の変調速度を指定する(初期値300) 300、1200、2400、4800、7200、9600、12000、14400、16800、19200、21600、24000、26400、28800、31200、33600が指定できる。</p> <p>最高スピード 最高の変調速度を指定する(初期値33600) 300、1200、2400、4800、7200、9600、12000、14400、16800、19200、21600、24000、26400、28800、31200、33600が指定できる。</p>
エスケープ	+ + +	<p>オンラインモードのとき、パソコンから前後1秒間S12レジスタで設定可能な時間をあけて、「+++」のコマンドが入力されると、回線を断線することなく、コマンドモードに移る。「+++」の前後に他の文字が入力されるとエスケープコマンドと判断されないので、キーなどは入力しないこと。</p>

AT&Wnでバックアップ可能



- 相手FAXが音声応答のFAXの場合、接続できない可能性があります。その場合は以下のコマンドによりBUSYトーン検出をOFFにしてください。

コマンド構文 : ATX0

- 外付け電話機使用中に以下に示すATコマンドを実行すると回線が切り替わりません。

コマンド構文 : ATD  
: ATH1  
: ATA

## リザルトコード

数字	文字	内容
0	OK	コマンドラインの実行確認
1	CONNECT	300bpsで接続および接続
2	RING	リングング検出
3	NO CARRIER	キャリアおよびリングバック検出せず
4	ERROR	コマンド構文違いおよび存在しないコマンド
5	CONNECT 1200	DCE-DCE間、DTE-DCE間を1200bpsで接続
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーン検出せず
7	BUSY	BUSY トーン検出
8	NO ANSWER	S7タイマーが切れるまで連続的にリングバックを検出
9	CONNECT 0600	DCE-DCE間、DTE-DCE間を600bpsで接続
10	CONNECT 2400	DCE-DCE間、DTE-DCE間を2400bpsで接続
11	CONNECT 4800	DCE-DCE間、DTE-DCE間を4800bpsで接続
12	CONNECT 9600	DCE-DCE間、DTE-DCE間を9600bpsで接続
13	CONNECT 7200	DCE-DCE間、DTE-DCE間を7200bpsで接続
14	CONNECT 12000	DCE-DCE間、DTE-DCE間を12000bpsで接続
15	CONNECT 14400	DCE-DCE間、DTE-DCE間を14400bpsで接続
16	CONNECT 19200	DTE-DCE間を19200bpsで接続
17	CONNECT 38400	DTE-DCE間を38400bpsで接続
18	CONNECT 57600	DTE-DCE間を57600bpsで接続
19	CONNECT 115200	DTE-DCE間を115200bpsで接続
24	DELAYED	ダイヤルした番号が「遅延」と判断された
33	FAX	FAXモードでFAXモデム接続
35	DATA	FAXモードでデータモデム接続
40	CARRIER 300	0~300bpsデータレート検出
46	CARRIER 1200	1200bpsデータレート検出
47	CARRIER 2400	2400bpsデータレート検出
48	CARRIER 4800	4800bpsデータレート検出
49	CARRIER 7200	7200bpsデータレート検出
50	CARRIER 9600	9600bpsデータレート検出
51	CARRIER 12000	12000bpsデータレート検出
52	CARRIER 14400	14400bpsデータレート検出
53	CARRIER 16800	16800bpsデータレート検出
54	CARRIER 19200	19200bpsデータレート検出
55	CARRIER 21600	21600bpsデータレート検出
56	CARRIER 24000	24000bpsデータレート検出
57	CARRIER 26400	26400bpsデータレート検出
58	CARRIER 28800	28800bpsデータレート検出
59	CONNECT 16800	DTE-DCE間を16800bpsで接続
61	CONNECT 21600	DTE-DCE間を21600bpsで接続
62	CONNECT 24000	DTE-DCE間を24000bpsで接続
63	CONNECT 26400	DTE-DCE間を26400bpsで接続
64	CONNECT 28800	DTE-DCE間を28800bpsで接続
66	COMPRESSION: CLASS 5	MNPクラス5で接続
67	COMPRESSION: V.42BIS	V.42bisで接続
69	COMPRESSION: NONE	データ圧縮なしで接続
70	PROTOCOL: NONE	エラー訂正なしで接続
77	PROTOCOL: LAP-M	V.42LAPMエラー訂正モードで接続
78	CARRIER 31200	31200bpsデータレート検出
79	CARRIER 33600	33600bpsデータレート検出
80	PROTOCOL: ALT	MNPエラー訂正モードで接続
84	CONNECT 33600	DTE-DCE間を33600bpsで接続
91	CONNECT 31200	DTE-DCE間を31200bpsで接続
+F4	+FCERROR	高速FAXデータが予想され、V.21信号を受信

## Sレジスタ

Sレジスタ	機能	説明
S0	自動着信する呼び出し回数設定	呼び出し音(リング)の何回目で自動着信するかを設定。 S0 = 0 自動着信しない(初期値) S0 = 1 ~ 255 n回目の呼び出しを受けると自動着信。
S1	呼び出し回数のカウント	呼び出し音の回数をカウント。呼び出し音を検出されると、S1レジスタの値が+1される。なお、呼び出し音が止まってから8秒たつとS1は0になる。初期値はS1 = 0。
S2	エスケープコードの文字設定	エスケープコードに使うキャラクタコードを0 ~ 255の値の間で設定。初期値はS2 = 4(キャラクタ「+」)。
S3	復帰(キャリッジリターン)コードの文字設定	復帰コードのキャラクタコードを0 ~ 127の値の間で設定。初期値はS3 = 1(16進数で0D)。
S4	改行(ラインフィード)コードの文字設定	改行コードのキャラクタコードを0 ~ 255の値の間で設定。初期値はS4 = 1(16進数で0A)。
S5	バックスペースコードの文字設定	バックスペースコードのキャラクタコードを設定。コマンドの1文字訂正に使用。0 ~ 32および127が設定可能。このレジスタには表示可能なコード(33 ~ 126)は設定できない。初期値はS5 = 8(16進数で08)。
S6	ダイヤル開始までの待ち時間	オンフックしてからダイヤルするまでの待ち時間を設定。Xコマンドがダイヤルトーンを検出ししない場合(X0, 1, 3)に有効。ダイヤルトーンを検出する場合(X2, 4)はS6レジスタの値は無効。3 ~ 255の値を秒単位で指定。初期値はS6 = 3(3秒)。
S7	接続待ち時間の設定	ダイヤルしてから接続されるまでの接続待ち時間を0 ~ 60の間で秒単位で設定。設定した時間内に接続されないと「NO CARRIER」がパソコンに返される。初期値はS7 = 5(50秒)。
S8	ポーズコマンドの時間設定	ダイヤル時のポーズコマンド「,」の待ち時間を0 ~ 255の値で秒単位で設定。初期値はS8 = 2(2秒)。
S9	キャリア検出の時間設定	相手モデムからのキャリアを検出する時間を設定。接続時に、設定した時間以上連続してキャリアが検出されると、回線を接続。0 ~ 255の値を0.1秒単位で設定。初期値はS9 = 6(0.6秒)。
S10	キャリア断検出の時間設定	回線の接続中に、設定した時間以上連続してキャリアが検出できない場合にキャリア断として回線を切断。0 ~ 255の値を0.1秒単位で設定。S10 = 255の場合はキャリア断を無視(キャリアが切れても回線を切断しない)。初期値はS10 = 1(1.4秒)。
S12	エスケープコードのガードタイムの設定	エスケープコマンド(+++)の前後のガード時間を設定。エスケープコマンドの前後には、設定されたガード時間以上データのない時間が必要であり、+++の間はこの時間より短くなければならない。0 ~ 255の値を1/50秒単位で設定。初期値はS12 = 5(1秒)。
S25	DTR遅延設定	DTRが変化したことを検出するまでの遅延時間を0 ~ 255の値の間で0.01秒単位で設定。初期値はS25 = 5。
S29	フラッシュダイヤルモディファイ時間	ダイヤル時に、フラッシュダイヤルモディファイを受け取ったときにオンフックになる時間を設定。0 ~ 255の値を0.01秒単位で設定。初期値はS29 = 0。
S30	無通信タイマ	データの送受信が行われない場合の回線切断タイマで、0 ~ 255の値の間で10秒単位で設定。S30 = 0の場合はデータの送受信が行われない場合でも回線切断は行われない。初期値はS30 = 0。

AT&Wnでバックアップ可能

Sレジスタ	機能	説明
S38	回線切断の時間設定	<p>切断コマンドATH0( DTR信号で切断するようにコマンドされているとき )によって切断されるまでの時間を設定。</p> <p>S38 = 0 ~ 254の場合            設定した時間リモートモデムを待機させ、バッファ内のデータを読み取ってから切断。データを送る前にタイムアウトしたときは「 NO CARRIER」となり、タイムアウト前にすべてのデータを送出したときは「 OK 」を返す。</p> <p>S38 = 255の場合            タイムアウトしないで、接続が切れるまで、またはデータを送り終わるまでバッファ内のデータを送信。            初期値はS38 = 20( 20秒 )</p>
S95	拡張リザルトコードの設定	<p>リザルトコードの返し方を設定。</p> <p>b0 CONNECT のスピードをDCEスピードで返す( W2 )。            b1 / ARQ のエラー訂正をCONNECT の後ろにつける。            b2 接続中にCARRIER XXXXのリザルトを返す。            b3 接続中にPROTOCOL XXXXのリザルトを返す。            b5 接続中にCOMPRESSION XXXXのリザルトを返す。            初期値はS95 = 41。</p>

AT&Wnでバックアップ可能



相手端末の応答を自動的に確認する場合で応答の確認ができない場合、選択信号送出終了後直流回線を解放するまでの時間は、ATコマンドのS7レジスタにて0 ~ 60秒に設定可能ですが、小さい値を設定すると回路が接続される前に切れてしまう可能性があります( S7レジスタの値を59秒、60秒に設定した場合、58秒として動作します )。また、交換機へも悪影響を与えますので、30秒以上に設定してください。



S0レジスタを0以外の値でバックアップすると、通信用アプリケーションの起動状態によらずに設定されたRing回数で着信します。

# 目的別索引

## 安全に利用する

機器の取り付けの際の注意を確認する	100
本機のお手入れの方法を確認する	90
予備のデータを作る	
ハードディスクをバックアップする	35
フロッピーディスクをバックアップする	46

## 本体カバー類を外す

ルーフカバーを外す	107
-----------	-----

## 機能を拡張するための機器を取り付ける

プリンタを接続する	108
ビデオ機器を接続する	119
MIDI対応機器を接続する	123
外部オーディオ機器を接続する	118
ヘッドホンを接続する	114
シリアルコネクタに機器を接続する	135
USBコネクタに機器を接続する	136
スーパーウーファシステムを接続する	116
テレビを接続する	120
ジョイスティックを接続する	123
メモリ	
利用できる増設RAMサブボードを確認する	125
増設RAMサブボードを取り付ける	126
標準で取り付けられているRAMサブボードを 取り外す	129

## 設定を変更する

システムセットアップメニュー	
システムセットアップメニューを起動する	140
システムセットアップメニューを操作する	141
システムセットアップメニューの設定を工場出荷時の 設定に戻す	142
メモリスイッチ	
メモリスイッチの変更を準備する	151
メモリスイッチを変更する	151
ディスプレイの画面調整をする	58

割り込みレベル・DMAチャンネル・ROMアドレス空間の 設定をする	154
PCIセットアップユーティリティでPCIボードの 設定を変更する	177
ATコマンドでデータ通信の設定する	183

## 基本的な機器を使う

本体各部の名前を確認する	2
キーボード	
キーの名前とはたらきを確認する	17
キーボードのお手入れ	91
キーボードの設定を変更する	27
マウス	
マウスのお手入れ	91
マウスの設定を変更する	15
ディスプレイ	
解像度と表示色を変更する	51
パワーマネジメント機能を使う	52
ディスプレイの画面のお手入れ	95
画面表示の調整をする	59
ハードディスク	
ハードディスクをバックアップする	35
フロッピーディスク	
フロッピーディスクを入れる	41
フロッピーディスクを出す	42
フロッピーディスクをフォーマット(初期化)する	43
フロッピーディスクをライトプロテクトする	46
フロッピーディスクをバックアップする	46
フロッピーディスクドライブのお手入れ	93
CD-ROMドライブ	
ディスクをセットする	31
ディスクを取り出す	33
メディアコントローラ	
メディアコントローラ各部の名前とはたらきを 確認する	8
メディアコントローラを操作する	11
メディアコントローラのお手入れ	93
マイクロホン	
ハウリングが起こるときは	84
マイクロホンのボリュームを調整する	82
サウンドレコーダーで音を取り込む	84

サウンド	
サウンド機能を確認する .....	73
音量をコントロールする .....	74
FAXモデムボード	
FAXモデムボードの機能を確認する .....	202

# 索引

## 英数

1.44Mバイト	43
16MBシステム空間	142
17インチディスプレイ	58
2DD	43
2HD	43
98TV録画ボタン	8
ATコマンド	88, 183
BSワイドディスプレイテレビ	75
CD-ROMドライブ	174
DMAクロック	149
DMAチャネル	154
CD-ROMエジェクトボタン	3
CD-ROMドライブ	28
ENTERボタン	9
ESCボタン	9
FAXモデムボード	5, 85
FM音源	73
GDCクロック	148
MIDI音源	73
MIDI/ジョイスティックコネクタ	2
MIDI対応機器	123
MS-DOS	158
PCIセットアップユーティリティ	177
PCM録音/再生機能	73
ROMアドレス空間	154
Sレジスタ	191
TVコントロール端子	6
USBコネクタ	5, 6
USKCGMコマンド	164
VHF/UHFアンテナ端子	5

## あ

アイコン	198
アナログRGBコネクタ	6
アンプ内蔵スピーカセット	74
インターネットボタン	8
映像出力端子	6
映像入力端子	6
オーディオ機器	118
オーディオ入出力端子	6
音声入力端子	6
音量ボタン	9

## か

カーソルボタン	9
解像度	50
外部オーディオ機器	118
画面表示調整スイッチ	58
簡易解像度切り替え機能	51

キーボード	17
キーボード用コネクタ	6
起動	140
起動モード	143
機能仕様	199
空冷用ファン	5
グラフィックモード	146
クリック	15
ゲームパッド	99, 137
コントローラ受光部	3

## さ

サウンド	73, 144
サウンドレコーダー	84
サスペンド	64
サスペンド/レジューム機能	63
システムセットアップメニュー	140, 197
周辺機器	98, 99
終了ボタン	8
ジョイスティック	123
消音ボタン	9
省電力	150
シリアルコネクタ	6
スーパーワーファ・システム	116
赤外線延長ユニット	21
赤外線延長用端子	6
増設RAMサブボード	125

## た

タイマーボタン	8
チャンネルボタン	9
通信速度	88
データ通信	86
ディスプレイ	50
ディップスイッチ	146
テレビ	120
テレビボタン	8
電源コネクタ(入力)	5
電源スイッチ	2
電源ランプ	2
電話ボタン	8
トーン調整	78
動作環境	142
トラックボール	11, 93
トランスミットランプ	3

## な

内蔵固定ディスク	148
日本語入力	172



---

## は

---

ハードディスク	35
ハードディスクアクセスランプ	2, 3
ハウリング	84
バックアップ	46
ビットキャスト	89
ビデオ機器	119
ファクシミリ通信	87
フォーマット	43
プリンタ用コネクタ	5
プリンタ	108
フル画面ボタン	9
プレーヤコントロールボタン	8
フロッピーディスク	40
フロッピーディスクドライブ	3, 40
フロッピーディスクドライブアクセスランプ	2
ヘッドホン端子	2
ヘッドホン	114
ヘッドホンボリューム	2
ホームポジション	28
ボリュームコントロール	76

---

## ま

---

マイクロホン端子	2
マイクボリューム	145
マイクロホン	82
マウス	14
マウスポインタ	15
マウス用コネクタ	6
マルチメディア	169
メインメニュー画面	141
メディアコントローラ	8
メディアコントローラユーティリティ	13
メニュー画面	141
メニューボタン	8
メモリ	125
メモリスイッチ	151
メモリ容量	134
モニタ切替ボタン	9

---

## ら

---

ライトプロテクト	46
リザルトコード	190
リモコン	8
レジューム	66

---

## わ

---

ワイヤレスキーボード	17
ワイヤレスキーボードケーブル用端子	4
ワイヤレスキーボードケーブル	22
ワイヤレスキーボード用切替スイッチ	3
割り込みレベル	154

# システムセットアップメニュー 早見表

## 動作環境の設定

16MBシステム空間

切り離す **使用する**

起動モード

テキスト起動モード **グラフィックス起動モード**

2nd CCU

使用しない **使用する**

## 動作環境の設定

サウンド

使用しない BIOSを切り離す **使用する**

BIOSを切り離す 使用する  
(MIDI有効) (MIDI有効)

マイクボリューム

**OFF** 小

大

終了

## ディップスイッチ1の設定

グラフィックモード

**拡張** 標準

## ディップスイッチ2の設定

テキスト画面行数

**25行/画面** 20行/画面

メモリスイッチ

保持する **初期化する**

内蔵固定ディスク

切り離す **使用する**

GDCクロック

**5MHz** 2.5MHz

## ディップスイッチ3の設定

フロッピーモータ制御

しない **する**

DMAクロック

**高速** 互換

## 省電力の設定
















内蔵固定ディスク制御

設定する(15分) **設定しない**

...工場出荷時の設定です。

# アイコン早見表

本体には、コネクタやスイッチの機能を表すアイコンの刻印があります。アイコンの表示部位の名前とはたらきについて、詳しくはPart1の「各部の名前とはたらき」をご覧ください。

アイコン	名称	アイコン	名称
	マイクロホン端子		電話機用モジュラーコネクタ
	ヘッドホン端子		電話回線用モジュラーコネクタ
	ハードディスクアクセスランプ		キーボード用コネクタ
	CD-ROMドライブアクセスランプ		シリアルコネクタ
	フロッピーディスクドライブアクセスランプ		プリンタ用コネクタ
			アナログRGBコネクタ
	電源ランプ		コントラスト調整つまみ
	電源スイッチ		輝度調整つまみ
	マウス用コネクタ		CAPSキーランプ
	MIDI/ジョイスティックコネクタ		かなキーランプ
	オーディオ入力端子		NUMキーランプ
	オーディオ出力端子		トランスミットランプ
	映像入力端子		USBコネクタ
	映像出力端子		

# 機能仕様

## 本体部

		PC-9821C166/D
CPU		MMX®テクノロジーPentium®プロセッサ(クロック166MHz)キャッシュメモリ32Kバイト セカンドキャッシュメモリ256Kバイト
ROM		BIOS96Kバイト SOUND16Kバイト
メモリ	搭載メモリ	32Mバイト(最大128Mバイトまで増設可能) SDRAM ユーザーズメモリ31.6Mバイト(最大127.6Mバイト)
	テキスト用VRAM	12Kバイト(グラフィック用VRAMと共用)
	グラフィックス用VRAM	4Mバイト
表示	テキスト表示	80文字×25行、80文字×20行リバース、プリンク、シークレット(キャラクタ単位で指定可) カラー8色表示(キャラクタ単位で指定可)
	グラフィックス表示	640×400×2画面 4096色中16色 640×400×2画面 1677万色中256色 640×480×1画面 1677万色中256色
	アクセラレータ機能	64ビット3Dウィンドウアクセラレータ標準搭載 640×480 1677万色/65536色/26万色中256色 800×600 1677万色/65536色/26万色中256色 864×480*1 1677万色/65536色/26万色中256色 1024×600*1 1677万色/65536色/26万色中256色 1024×768*2 1677万色/65536色/26万色中256色 グラフィックアクセラレータチップ: Trident社製 3DImage975™搭載
日本語表示		JIS第1水準、第2水準漢字標準搭載 JIS第1水準漢字 2,965字 JIS第2水準漢字 3,384字 非漢字 885種 ユーザー定義文字 188種
サウンド機能*3	音源	標準FM音源 FM音源 6和音(ステレオ) リズム音源 6種類(ステレオ) SSG音源 3和音(モノラル)
		拡張FM音源 YMF715互換FM音源 20和音(ステレオ)
		MIDI音源 ソフトウェアシンセサイザー機能(GS、GM演奏モード対応) MMX対応
	サンプリング	YMF715互換PCM録音/再生 PCM8/16ビット 11,025KHz/22.05KHz/44.1KHz
	マイク	外付け単一指向性マイクロホン(スタンド付)
	スピーカ	ディスプレイの内蔵スピーカまたは外付けステレオスピーカを使用
	サラウンド	エンハンスドステレオ対応
通信機能	モデム	通信速度 最大33600bps(V.34) エラー訂正 V.42, MNP4 データ圧縮 V.42bis, MNP5 ハンズフリー電話機能対応
	FAX	通信速度 最大14400bps(V.17) FAX制御 CLASS 1
TV機能*4	放送	地上波放送1~62ch 受信(パソコン画面と切り替えまたは重ね合わせ表示) CATVチャンネル受信可能(C13~C38)
	ビデオ映像	映像入力×1(パソコン画面と切り替えまたは重ね合わせ表示) 音声 ライン入力×1(ステレオ)
	制御	TV ON/OFF、チャンネル切替、ボリューム調整、音声多重切替、ミュート、チャンネルスキップ
	ビデオキャプチャー機能	テレビ/ビデオ画面(Wide TV接続時はBS放送を含む) 静止画像、動画取込可能
	NTSC出力機能	S映像出力対応×1(本機のディスプレイへの表示と排他)
	データ放送受信	ビットキャスト放送受信可能 CATVチャンネル(C13~C38) BSは不可

		PC-9821C166/D	
ビデオ・カラオケCD再生機能		再生ソフトウェア標準添付	
赤外線通信機能		別売の赤外線通信インターフェイスユニット(PC-9821-U03R)を接続することにより使用可能	
キーボード		JIS標準配列準拠(英数、かな)セパレートタイプ、12ファンクションキー、Windowsキー、アプリケーションキー、NUMキー、電源スイッチ付	
フロッピーディスクドライブ		3.5インチフロッピーディスクドライブ1台内蔵(2台目増設不可) 3モードFDD(640Kバイト/1Mバイト/1.44Mバイト)	
ハードディスク		約3Gバイト(1ドライブ内蔵)	
CD-ROMドライブ		CD-ROMドライブ/最大13倍速(平均12倍速)	
インターフェイス	マウス	内蔵	
	プリンタ	パラレルインターフェイス(36ピンハーフピッチコネクタ)	
	シリアル	最大115.2Kbps(D-SUB9ピン)	
	USB *5	2ポート内蔵	
	オーディオ	入力	マイク入力(モノラル) 入力インピーダンス3k 以上、入力レベル最大32mVrms、マイクロホン添付、ライン入力(ステレオ) 入力インピーダンス22k 以上
		出力	ヘッドホン出力(ステレオ) 出力レベル最大2Vrms( 負荷インピーダンス32 ) ライン出力(ステレオ) 出力レベル最大2Vrms( 負荷インピーダンス47k )
	FAX モデム		ライン(モジュラージャック6ピン-2芯) TEL(モジュラージャック6ピン-2芯)
	TV *4		アンテナ入力(U/V混合、75 )同軸、映像入力×1、 音声入力×1、S映像出力×1、テレビコントロール端子×1
	MIDI/ジョイスティック		MIDI IN、MIDI OUT、ジョイスティックインターフェイス
	データ放送受信		アンテナ入力(U/V混合、75 )同軸
カレンダー時計		電池によるバックアップ	
PCI スロット		1スロット(ビットキャスト受信ボードで占有済)	
電源		AC100V ±10%、50/60Hz	
温湿度条件		使用時 10~35 、20~80%*6 保管時 -10~50 、80%以下(ただし、結露しないこと)	
外形寸法	本体	約360(W)×360(D)×128(H)mm(ゴム足含む)	
	キーボード	324(W)×184(D)×29(H)mm	
重量	本体	約9.2kg	
	キーボード	約0.59kg(電池含まず)	
消費電力		標準構成時 約44W 内蔵オプション最大接続時 約90W 省電力待機時 約39W以下*7 リモコンスタンバイ時 約3W	

\*1: BSワイドディスプレイテレビ(PC-DH32W1/PC-DH28W1)接続時のみ表示可。

\*2: BSワイドディスプレイテレビ(PC-DH32W1/PC-DH28W1)接続時は表示不可。

\*3: サウンド機能を利用したアプリケーションのうち、ハードウェアを直接制御しているものは一部使用できないものがあります。  
アプリケーションのご購入に際しては発売元にご確認ください。

\*4: BSワイドディスプレイテレビ(PC-DH32W1/PC-DH28W1)接続時は、BSワイドディスプレイテレビのTV機能を使用。

\*5: Windows 95でのみサポート。接続する周辺機器の使用可否については、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

\*6: 18 ~28 、45%~75%での使用を推奨。

\*7: 周辺機器および拡張ボードを接続していないときで、再生音なしのときの値です。

## 別売の17インチディスプレイ(PC-DH171)

ブラウン管	17インチフラット90度偏向 ドットタイプブラックマトリクス ノングレア処理 帯電防止処理	
ドットピッチ	0.27mm	
入力信号	信号方式	セバレート信号方式
	映像信号	アナログ0.73Vp-p(入力インピーダンス75Ω)
	水平同期信号	TTLレベル
	垂直同期信号	TTLレベル
入力端子	アナログRGB入力(15Pコネクタ)	
解像度*	640ドット×400ライン 640ドット×480ライン 800ドット×600ライン 1,024ドット×768ライン	
接続ケーブル長	約1.5m	
外形寸法	約410(W)×444(D)×416(H)mm	
重量	約17.5kg	
消費電力	約115W(パワーマネジメント動作時サスペンドステート約30W以下、オフステート約8W以下)	

\*：解像度とは、ブラウン管画面面上に発光できるドット数、ライン数のことをいいます。ただし、必ずしも目視で判別できるドット数、ライン数ではありません。また、1ドットごとに違う色を指定した場合、ミスマッチ、フォーカス特性などによって1ドットごとの色がディスプレイ上で再現できない場合もあります。

# FAXモデムボード機能仕様

## 機能概要

CPU I/F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 並列接続(専用インターフェイス)</li> <li>・ 16550A相当(I/Oアクセス、割り込み)</li> </ul>
NCU部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回線接続切り替え機能</li> <li>・ ダイヤルパルス送出機能</li> <li>・ リンガ検出機能</li> <li>・ 外付け電話フックオフ検出機能</li> </ul>
モデムチップセット部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびMNP4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮</li> <li>・ 最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2</li> <li>・ HayesATコマンドセット AT Sレジスタ</li> <li>・ ビルトインDTEインターフェイス 最高115.2KbpsのDTEスピード 並列16550A UARTインターフェイス</li> <li>・ 回線品質モニタリングおよびオートリトレイン</li> <li>・ 受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択</li> <li>・ フロー制御およびスピード・バッファリング</li> <li>・ 最高115.2Kbpsの自動フォーマット/スピード検出</li> <li>・ 並列非同期データ</li> <li>・ 自動ダイヤルおよび自動アンサー</li> <li>・ トーンおよびパルスダイヤリング(DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)</li> </ul>

## FAX機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/ 300bps*
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM: 14400/12000/9600/7200bps DPSK: 4800/2400bps FSK: 300bps
送信レベル	-6 ~ -15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

\* 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

## データモデム機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/ 4800/2400/300bps*
通信規格	ITU- $\nabla$ .34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	TCM: 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/ 9600/7200bps QAM: 9600/7200bps DPSK: 4800/2400 FSK: 300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-6 ~ -15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠

\* 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

## NCU機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型) MA(手動発信/自動着信型) MM(手動発信/手動着信型) AM(自動発信/手動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT(CLASS 1)



# CEREB

セレブ

ステップアップガイド

PC-9821C166

1997年7月 初版

NEC

P

808-877409-006-A  
78132881